

静岡県立美術館

第三者評価委員会評価報告書

令和6年12月

静岡県立美術館第三者評価委員会

目次

はじめに	1
------------	---

【報告編】

1 静岡県立美術館第三者評価委員会について	2
2 令和5年度 静岡県立美術館第三者評価委員会評価総括表	5
2-1 基本方針別自己評価	6

【資料編】

1 展覧会に関する自己点検評価表（令和5年度）	13
2 調査・研究に関する自己点検評価報告書（令和5年度）	17
3 定性評価の状況（令和5年度）	26
4 第三者評価委員会での意見と対応状況	37
5 設置者の取組状況	52

別添資料 令和5年度静岡県立美術館評価業務報告書

静岡県立美術館5ヵ年計画

東アジア文化都市事業報告書抜粋

はじめに

本委員会は、評価を通じて静岡県立美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進することを目的として、平成18年9月に発足しました。

本委員会の使命は三つあります。第一は、県立美術館が自ら行う自己評価（一次評価）に対して、外部の視点から二次評価することです。第二には、美術館に対する県庁（本庁）の支援体制を委員会が独自の視点に立って評価することです。第三は、美術館の運営及び評価の方法について、次年度の改善に向けた提言をすることです。

本年度の活動としては、令和6年8月に第三者評価委員会を開催し、令和5年度の美術館自己評価に対する二次評価、設置者の取組に対する意見、今後の改善課題について討議しました。この報告書はその結果に基づき作成したものです。

本報告書が県庁と県立美術館のますますの発展と充実に資することを願います。

令和6年12月

静岡県立美術館第三者評価委員会

委員長 松本 透

1 静岡県立美術館第三者評価委員会について

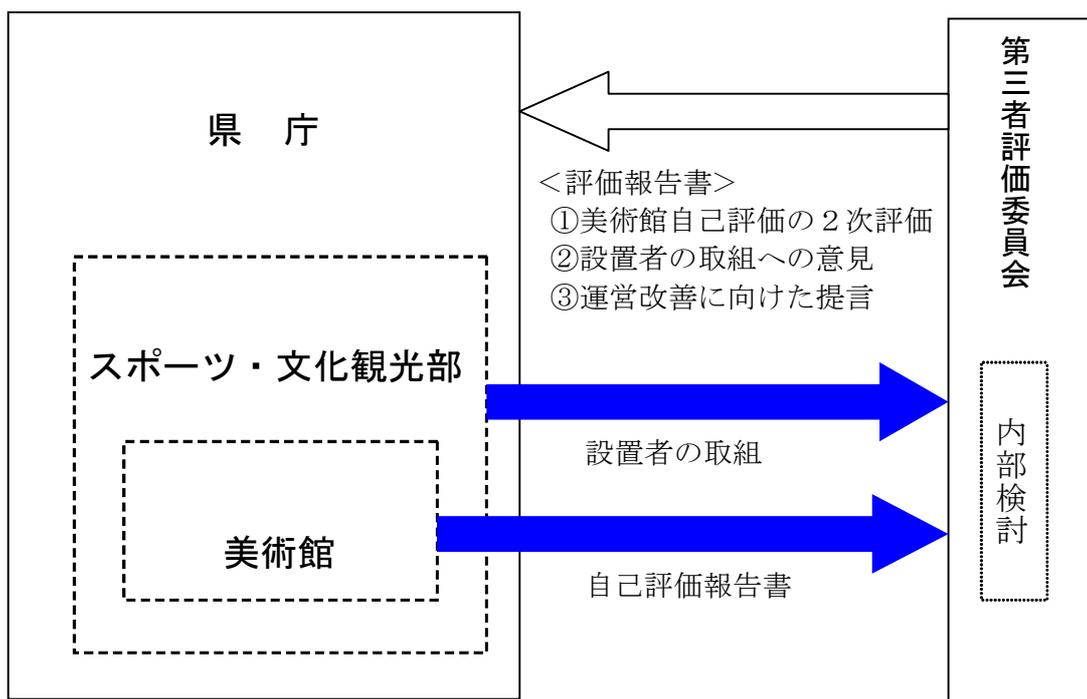
静岡県立美術館第三者評価委員会委員名簿（敬称略、五十音順）

	候補者	役 職
委員長	まつもと とおる 松本 透	アーティゾン美術館 副館長
委員	いなにわ さわこ 稲庭 佐和子	独立行政法人国立美術館本部 主任研究員
〃	おぎわら やすこ 荻原 康子	公益財団法人墨田区文化振興財団 専門員
〃	かいづか つよし 貝塚 健	千葉県立美術館 館長
〃	こいずみ まさや 小泉 順也	一橋大学 言語社会研究科 教授
〃	さくらい とおる 櫻井 透	静岡銀行株式会社 元会長
〃	たなか ひらき 田中 啓	静岡文化芸術大学文化政策学部 教授
〃	なかむら みほ 中村 美帆	青山学院大学 総合文化政策学部 総合文化政策学科 准教授
〃	まえだ しのぶ 前田 忍	サンクスループ株式会社 代表取締役

令和6年度の活動

会議名等	内容等
静岡県立美術館 第三者評価委員会	日時：令和6年8月19日（月）14:00～16:00 会場：静岡県立美術館 講座室 内容：（1）美術館自己評価結果について （2）設置者の取組みについて

評価システム全体図（第三者評価委員会の位置付け）



静岡県立美術館第三者評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）では、より良いサービスの提供を図るため、事業の運営等の効果について、多面的かつ客観的な測定・評価を行う自己評価活動を実施しているが、美術館の自律的かつ継続的な運営改善を推進するため、美術館の自己評価及び県庁の支援体制等を第三者の視点から評価する「静岡県立美術館第三者評価委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所管する。

- (1) 美術館の自己評価に対する2次評価
- (2) 県庁の支援体制等に関する評価
- (3) 評価結果の報告及びそれに基づく美術館の運営改善に向けた提言
- (4) その他、この委員会の目的達成に関すること

(委員)

第3条 委員は、知事が委嘱する。

2 委員の人数は、10名以内とする。

3 委員の任期は2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長1人を置く。

2 委員長は、知事が指名する。

3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会は公開とし、その傍聴に関して必要な事項は、別に定める。

3 委員会は、必要に応じて個別課題検討のための分科会を置くことができる。

4 委員会及び分科会には、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務を処理するため、事務局を静岡県スポーツ・文化観光部文化政策課内に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成18年9月21日から施行する。

2 この要綱の施行の日に委嘱する委員の任期は、第3条第3項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

(最終改正 令和2年9月30日)

【使命】＝基本理念(美術館のめざす姿) 静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との連携を積極的にめざします。その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。

基本方針	計画(P)			実施状況(D)		評価(C)	
	重点目標	評価指標	R5目標	R5実績	自己評価	第三者評価	
A 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	1 収集方針に従い持続的に作品を収集します	1 作品購入件数・価格(件・千円)	— 千円	2 件 1,000 千円	【成果】 ・作品購入のための予算を少額ではあるが確保でき、静岡ゆかりの重要作家の作品収集につなげることができた。 ・7名の方から18件の作品寄贈を受け、コレクションを充実させた。多様なジャンルにまたがるご寄贈であり、日頃の地道な活動が評価されたひとつの表れであると考え。 ・コレクションによる企画展「センス・オブ・ワンダー」では、新たな切り口でコレクションの魅力を示して話題を呼び、見込みを大きく上回る観覧者を得た。 ・永青文庫とのコラボレーション企画「大名の名宝」展では、質量ともに厚みのある当館の狩野派コレクションについて新たな魅力を発信することができた。 ・コレクションを活用した上記2件の企画展開催により、コレクションの価値の発見・発信を進めた。 ・前年度新収蔵品の額装等を実施し、作品の保存・公開のための環境整備が進んだ。	・作品購入のための予算が100万円付いたのは、本当に素晴らしい事だと思う。今回購入した川村清雄の作品は、この美術館らしい、よい収集だと思う。(貝塚委員) ・昨年立ち上がった国立アートリサーチセンターが、国立美術館の作品を貸し出す「コレクション・プラス」という事業を実施している。県立美術館のコレクションの活用に繋がる事業と思われるため、是非活用を検討して欲しい。例えば、国立西洋美術館のコレクションである「サン＝トロベの港」(ポール・シニャック作)を借りてきて、県美のコレクションである、「サン＝トロベ、グリモアの古城」(ポール・シニャック作)とサン＝トロベの風景画を2つ並べて展示するなど検討に値すると思う。(小泉委員)	
		2 作品寄贈件数・価格(件・千円)	— 千円	18 件 22,670 千円			
	2 コレクションの新たな価値を発見し広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます	3 収蔵品の公開件数(件)	350 件	416 件			
		4 収蔵品展のみの観覧者数(人)	10,000 人	8,696 人			
		5 ロダン館の観覧者数(人)	55,000 人	29,406 人			
		6 収蔵品に関する調査研究の発表回数(回)	10 回	9 回			
		7 コレクションを活用した教育普及プログラム数(件)	20 件	18 件			
		8 修復したコレクションの件数・費用(件・千円)	4,000 千円	18 件 4,643 千円			
		9 公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】	—	別添			
B 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します	1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	10 展覧会の来館者数(人)	71,500 人	55,565 人	【成果】 ・企画展において作品やテーマに興味を持った人の割合は概ね高い数値を維持しており、それぞれの企画展において観覧者の興味を惹く工夫ができた。 ・調査研究の発表件数は、大きく伸びた令和4年度の実績を下回ったものの、過去の実績と比較して、また学芸員が実質2名減の状況のなかで、健闘したものと考え。	・「センス・オブ・ワンダー」について、コレクションを活用したテーマ性を持った展覧会で、来館者数が1万6,000人を超えているというのは、大成功だと思う。どのような要因で、このような結果が出たのかを究明すると思う。(松本委員長) ・美術館に来た来館者の方が、どのような時間の使い方をして過ごして出ていかれるのか、もう少し細かな調査ができること、色々なヒントが得られるのではないかと。(中村委員) ・一個一個の作品への愛着が育まれるようなファンディングの仕方や、教育普及活動とクラウドファンディングをつなげたりするものもあり得るかと思う。(稲庭委員) ・最も多くの観覧者数目標を設定した「糸で描く物語」は自力広報に頼ったが、情報発信力の弱さが出た結果と感ずる。クラウドに興味関心を抱く層に対してのマーケティングの深掘りが必要かと思う。(インスタで#クラウドで110万件以上の投稿あり)(前田委員)	
		11 自主企画・企画参加型の展覧会の回数(回)	3 回	3 回			
		12 作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	92.0 %	92.1 %			
	2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	13 展覧会に対する外部評価【定性】	—	別添			
		14 調査研究の発表回数(回)	16 回	21 回			
		15 内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	12 回	11 回			
		16 他の美術館や大学と連携した取組件数(回)	4 回	3 回			
17 調査研究に関する外部評価【定性】	—	別添					
C 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	18 学校教育と連携した取組数(件) うち特別支援学校と連携した取組数(件)	120 件 12 件	100 件 8 件	【成果】 ・新型コロナウイルス感染症の5類移行にともない、学校団体による利用はおおむねコロナ禍前の状況に回復した。 ・webの活用については、ボランティアによるオンラインギャラリーツアーを試験的に実施した。 ・館内空間を生かした催事については、展覧会関連ワークショップの成果品展示やボランティアによるお茶サービスなどを無料スペースを活用して実施した。館外についても、美術館裏山でのパフォーマンス実施やボランティアによる彫刻ブロムナードギャラリーツアーの試行など、活用が広がっており、当館ならではの館内外の環境を利用した新しい事業展開が進んでいる。	・地域や学校教育との連携という部分で、ボランティアの方々も活用して、様々な事を試行されている。この辺りを、どれを伸ばして、全部をやるのか、どれかを重点的にやっていくのかという、少し優先順位を付ける事も必要と思う。美術館を使って何が出来るのか、先方のニーズをどう組み入れていくのかという所の視点も必要と感じた。(荻原委員) ・地元との関係性について、どのように戦略を立て、どうアプローチするかというのは、よく考えて進めていく必要がある。館長が頑張って、幾つか案件を取ってきているので、これをいい先行例にして、他の経営者たちのところに響くようなものに繋がってほしい。広がっていくと思う。(櫻井委員) ・企業からの支援について、大きな金額を寄附していただいた場合と、小さな金額を寄附していただいた場合の対応について、寄附を受けた時に混乱しないよう、あらかじめ、美術館の側で制度設計しておく必要があると思う。(小泉委員)	
		19 鑑賞系プログラム数(件)	16 件	19 件			
		20 webを活用したプログラム数(件)	4 件	3 件			
		21 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】	—	別添			
	2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	22 講演会等の開催件数(回)	100 回	86 回			
		23 学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	80 回	46 回			
		24 館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	12 件 2,000 人	10 件 3,042 人			
3 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実します	25 地域住民等と連携した取組数(件)	8 件	7 件				
	26 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した取組に関する職員レポート【定性】	—	別添				
D さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	1 広報戦略を策定し、広報の質を高めます	27 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合(%)	80.0 %	79.1 %	【成果】 ・令和4年度から公開したデジタルアーカイブについて、今年度は専門書籍の書誌情報を充実させることができ、公開件数を大幅に増やすことができた。またボランティアとの連携により情報公開件数は順調に増加している。 ・新たなイベントとの連携や県内大学への大学事務局を通したメール配信を行った。	・デジタルアーカイブについて、アーカイブしてデジタル化したものを映像に加工したりグッズにしたりして、企画展に繋げていくなど、他館ではいろいろな工夫している印象がある。そうしたことも、もっと考えられても面白いのではないかと。(中村委員) ・広報の人材について、組織の中に専門人材を置くのが難しいのであれば、委託すると広報のスペシャリストのような方に中に入ってもらって、一緒にやってみようという別の道筋を探すこともありかと思う。(荻原委員) ・来館者アンケートについて、毎年同じ内容ではなく、「今年は、これを調べてみようか」とか、「今年は展覧会に特化したことをやってみようか」のように、アンケート項目を調整して、分析してみるということも必要と思う。(荻原委員) ・SNSについて、アップしている件数とビュー数で、どういう反応だったというのが見えてくるので、アップしている件数は出しておく必要がある。(稲庭委員)	
		28 デジタルアーカイブによる情報発信 ・作品作家情報の追加および更新件数/全公開件数(件) ・現代美術関連資料の公開件数(件) ・図書情報の公開件数(件)	300/3030 12,000 23,900	749/3,030 12,088 29,923			
		29 ホームページのアクセス件数(件)	1,200,000 件	1,062,287 件			
		30 facebook、Instagram、Twitterのビュー数(件)	1,000,000 件	869,669 件			
		31 facebook、Instagram、Twitterのエンゲージメント等の件数(件)	30,000 件	29,352 件			
	2 観光業界等と連携した新たな広報チャンネルの開拓に取り組めます	32 観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数(件)	7 件	14 件			
		33 教育機関への情報発信数(件)	6 件	7 件			
		34 広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】	—	別添			
		35 美術館利用者数(人)	200,000 人	112,426 人			
		36 鑑賞環境に対する満足度(%)	90.0 %	91.7 %			
E 環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます	1 館内施設を充実させ、満足度を高めます	37 レストランに対する満足度(%)	92.0 %	94.5 %			
		38 ミュージアムショップに対する満足度(%)	97.0 %	97.5 %			
		2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます	39 来館者のアクセス満足度 上段:公共交通機関利用 下段:自家用車利用	80.0 % 70.0 %	74.5 % 70.8 %		
			3 運営基盤を強化します	40 運営基盤の強化等に関する職員レポート【定性】	—	別添	

設置者の取組	取組の状況	第三者評価委員意見
・静岡県は、令和5年の東アジア文化都市として選定され、県立美術館の企画展やイベントについて、東アジア文化都市の祝祭プログラム(コア事業)として実施することができた。 ・県立美術館を初めとした多くの文化資源が集積する日本平周辺の地域としての連携を強化し、観光の振興と地域の活性化につなげる事を目的として、県は文化観光推進法に基づく地域計画を文化庁に申請した。(8月6日付けで文化庁から不採択の連絡有り) ・中期維持保全計画に基づいた改修工事(本館非常用発電設備更新など)を行っている。	・文化観光推進法の枠組みにおいて文化施設を核にする際に、演劇関係も排除はされていないものの、どちらかというとメインに想定されているのはミュージアムのほうだと思っていた。SPACが世界的に評価を受けている劇団であることはもちろん存じ上げているが、文化観光の枠組みを使うなら、県立美術館だけに限らないが、もうちょっとミュージアムに寄せたほうが、枠組みとの相性はよいのかもしれないと思う。(中村委員) 美術館がその機能を発揮するためには、施設の維持・補修が不可欠ですので、引き続き県による計画的な対応を進めて頂きたいと思っております。また、作品購入予算の確保に関しても、県からのサポートを期待します。(田中委員)	

基本方針	A 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します
------	----------------------------

計画(P)			実施状況(D) R6.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	R5目標	実績	備考	自己評価
1	収集方針に従い持続的に作品を収集します	1 作品購入件数・価格(件・千円)	— 千円 2 件 1,000 千円		<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 購入予算をどうにか捻出し、当館ゆかりの重要作家である川村清雄の作品2件を購入することができた。掛幅装の油彩画と、徳川家達の近侍で静岡藩の高位藩士でもあった人物の肖像画であり、川村の画家としての特色を示す優品として今後おいに活用が期待できる。 日本画・日本洋画・西洋画・現代美術と全ジャンルにわたってご寄贈をいただくことができた。地道な調査研究や展覧会開催等の日頃の基本的な活動の充実が実を結んだものとする。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 購入予算がついたとはいえ100万円以内で購入できる優れた美術品は極めて限定的である。現在のコレクションを生かしていくためにも、購入活動の継続は美術館にとって生命線であり、拡充が求められる。県庁と協力して仕組みの検討が必要である。 今後も継続して購入、寄贈の候補となり得る作品の情報収集に努め、収集に結び付けていく必要がある。
		2 作品寄贈件数・価格(件・千円)	— 件 18 件 22,670 千円		
2	コレクションの新たな価値を発見し広く発信するとともに、適切に後世に伝えていきます	3 収蔵品の公開件数(件)	350 件 416 件	指標3 収蔵品展(180)・企画展(113)・移動美術展(52)+貸出(71)	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収蔵品の公開件数は、収蔵品企画展(センス・オブ・ワンダー)、当館コレクションを活用した他館連携企画展(大大名の名宝)の開催により増加した。 予算を捻出し、R4年度のご寄贈品について当年度では対応できなかった額装作業等を実施した。ご寄贈作品を適切に保管・展示できる状態にし、今後の活用に結び付けることができた。 作品の海外出品の機会を利用し、外部予算によって作品修理を行うよう手配した。 収蔵品展では、前年度寄贈を受けた太田正樹コレクションについて特集展示を行い、大きな反響があった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年はロダン館開館30周年であり、周年記念展の開催を通してロダンの理解を深めるとともにロダン館の周知につなげていく。 収集した作品を適切に保管し、活用につなげるためにも修復費用の手当は毎年必須であり、今後も予算確保に努める。同時に、貸出の機会を修復に結び付けることで、コレクションの保全と活用の両面で成果を挙げており、今後も工夫を続けたい。 コレクションに関するこれまでの調査研究・収集・展示といった基礎的な活動が、令和5年度は「大大名の名宝」展開催という成果に結び付いた。コレクションを基盤とする活動展開のため、今後も基礎的な活動の充実に努める。
		4 収蔵品展のみの観覧者数(人)	10,000 人 8,696 人	指標7 詳細は「教育普及実数内訳」参照	
		5 ロダン館の観覧者数(人)	55,000 人 29,406 人		
		6 収蔵品に関する調査研究の発表回数(回)	10 回 9 回		
		7 コレクションを活用した教育普及プログラム数(件)	20 件 18 件		
		8 修復したコレクションの件数・費用(件・千円)	4,000 千円 18 件 4,643 千円		
		9 公開・貸出した展覧会における学芸員のレポート【定性】	別添 別添		

基本方針	B 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します
------	--

計画(P)			実施状況(D) R6.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	R5目標	実績	備考	自己評価
1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	10 展覧会の来館者数(人)	71,500 人	55,565 人	◆は、自主企画展	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センス・オブ・ワンダー 五感による作品鑑賞の楽しみをコンセプトとし、古い西洋画から最新の美術作品まで、当館の多様性に富むコレクションを、楽しみながら現実(リアル)に感じてもらいたいことを目指した展覧会である。当館所蔵品として有名な作品を、このような新たなテーマの設定により紹介することに加え、これまで展示の機会があまりなかった作品も公開することができた。また全身で作品を体感する呼び水として、作品のレプリカや彫刻の素材に触れられる展示や、自然の音や音楽を流すことにより視覚と聴覚に訴えかける工夫なども行なった。展覧会のテーマの分かりやすさ、鑑賞のきっかけの工夫、またメイン・ビジュアルに草間彌生の作品を起用したことなどが功を奏したと思われ、当初見込みよりも倍以上の入場者にご来場いただいた。 ・糸で描く物語 時代と地域を越えて発展してきた表現技法である刺繍の魅力を約230点の出品作品を通して紹介した。中・東欧の民俗衣装、イヌイットの壁掛け、フランスのオートクチュール刺繍から現代の絵本原画やイラスト、アートまで、さまざまな分野を横断する多彩な出品作で構成され、刺繍技法を用いたいわゆる現代アートを主に紹介するこれまでの美術館での刺繍展とは一線を画する企画であった。家族連れや刺繍好きの方への特別割引サービスを実施し、近隣小学校や手芸店などにチラシを配布した結果、夏休みの子どもたちへのアプローチや新規の来場者開拓には一定の効果があった。また、当館に普段足を運ぶ利用者にとっても、旧来の主たる技法にとられない多様な表現に触れる機会となったはずである。 ・大大名の名宝 当館が長年にわたり調査研究を深め収集と展示を行ってきた狩野派について、大大名・細川家の名品と当館コレクションを組み合わせて構成、400年に及ぶ狩野派の歴史を名品によってたどり、その魅力を伝える内容とした。大名家ならではの狩野派が関わった調度品や中国絵画の鑑定に関する仕事など、絵画制作だけではない狩野派の幅広い役割について最新の研究成果を含めて紹介した。また、肥後狩野派の画業にも注目し、地元熊本以外では公開機会のなかった作品群を展示、その成立と展開について考察し、新知見を提示した。両館のコラボレーションにより、コレクションを基礎にして狩野派研究の進展に貢献することができ、収集、展示、調査研究を連関させた美術館活動の成果を形にすることができた。 ・天地耕作 静岡出身の3名による野外美術制作プロジェクト「天地耕作」の美術館初の回顧展となった。作品の残らない彼らの活動について、写真を中心に、映像や資料、詳しい年表をあわせて展示することで、その全貌を紹介することができた。また、記録だけでなく、展示室内での新作インスタレーションや美術館裏山での野外制作により、天地耕作の作品を体験する機会を提供することができた。関連イベントを多数実施し、鑑賞を深める機会を様々な用意した。これまで静岡の現代美術を中心に据えた企画は多くなかったが、収蔵品展とも関連させることで、当県の現代美術を跡づけることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センス・オブ・ワンダー 全ジャンルの所蔵品を出品したが、他の展覧会との兼ね合いにより、日本画が少ない展示となった。鑑賞者それぞれの感覚を用いた作品鑑賞をコンセプトとしたため、文字による説明は章ごとのパネルや個々の作品解説にとどめた。これらの解説が分かりやすいとのご意見もある一方で、図録がほしいとのご意見もあり、所蔵品のカタログをどのように充実させてゆか、今後の参考課題となった。 ・糸で描く物語 担当学芸員が内容に関与しない巡回展である本展は、より広く多くの方にお越しいただくことを展覧会関連業務の優先課題とし、マスコミとの共催を行わず、オンラインPR配信会社の利用をのぞいては自力での広報を試みた。また、図書館との連携イベント等によってチャンネルを増やす努力も行った。結果、アンケート結果に見る展示の内容面での満足度は高く、また、監視スタッフからの証言によると、リピーターも多く見られたが、集客数が目標に及ばなかった。これは、当館の元々の認知度の低さと、学芸員や企画総務課担当者による広報の限界と言える。会期中に開催したクラフト市「GARDEN」への来場者数を見て、手仕事やデザインに関心を持つ層は厚く、また熱心であるため、潜在的な来場者はもっといたと推測する。広報専門の職員を置くなど、適切なマーケティングを反映した広報戦略を実行できる体制が望まれる。 ・大大名の名宝 子どものための分かりやすい解説やハンドアウトなど、幅広い観覧者に狩野派の世界に親しんでもらう対策まで手がまわらなかった。狩野派の充実したコレクションと展覧会の実績を踏まえて、今後は、狩野派についての語り方・伝え方を工夫し、その魅力を広く理解していただくための教育普及面での努力が必要である。 ・天地耕作 来館者数は目標を達成したが、特別講演会では著名な研究者を招いたにもかかわらず振るわなかった。より積極的な広報が必要だったかと思われる。前年度から計4回大学に出講したが、教育普及としての意義はあったと言えるとしても、人数で言えば広報効果は薄かったようだ。若者層に向けたPRについては、再検討の余地がある。また、展示室内での来館者の撮影は禁止としたため、ウェブ等でそれを補う広報をすれば、来館を検討する方にとっては親切であったらう。
	◆センス・オブ・ワンダー(72日間)	7,000 人	16,611 人		
	糸で描く物語(50日間)	25,000 人	13,689 人		
	◆大大名の名宝(48日間)	12,000 人	8,290 人		
	◆天地耕作(40日間)	5,500 人	5,560 人		
	収蔵品展(228日間)	12,000	8,696 人		
	移動美術展 (小山町総合文化会館・沼津市民文化センター)	10,000	2,719 人		
	11 自主企画・企画参加型の展覧会の回数(回)	3 回	3 回		
12 作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	92 %	92.1 %			
13 展覧会に対する外部評価【定性】	—	別添			
2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	14 調査研究の発表回数(回)	16 回	21 回	指標14 論文発表(12)+外部出講(9)	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4度の調査研究の発表回数は前々年度までに比べて大きく伸びたが、令和5年度は平均的な数値に戻った。 ・調査研究に関する外部評価では、研究活動評価委員から、展覧会、論文等に対して高い評価を得た。
	15 内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	12 回	11 回	指標16 静岡県博物館協会事務局、公益財団法人永青文庫との連携による企画展開催、客員学芸員による企画展	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会や作品収集のベースとなる調査研究は継続的な強化が必要であるが、実績数値は横這いが続いている。令和5年度については学芸員が実質2名減の状況であったことも影響しているが、調査研究に落ち着いて取り組める環境の整備が必要である。 ・内部セミナー、研修等については、学芸課研究会以外の多様な機会の創出のため、工夫が必要である。
	16 他の美術館や大学と連携した取り組み件数(回)	4 回	3 回		
	17 調査研究に関する外部評価【定性】	別添	別添		

基本方針	C 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します
------	--------------------------------------

計画(P)			実施状況(D) R6.3.31現在		評価(C)
重点目標	評価指標	R5目標	実績	備考	自己評価
1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	18 学校教育と連携した取り組み数(件) うち特別支援学校と連携した取り組み数(件)	120 件 12 件	100 件 8 件	詳細は「教育普及実数内訳」参照	【成果】 ・体験系プログラム、美術館教室の参加者数は多く、全体では計画の人数を超過した。学校関係に関しては、新型コロナウイルス感染症の5類以降にともない、学校団体の利用が回復したと思われる。昨年度減少していたアートカード貸出の数も回復した。 ・特別支援学校に関しては、件数は微減となったが、えのぐ、ねんど教室への参加で5件、教材貸出3件があり、参加しやすいプログラムを提供できていると言える。 ・鑑賞系プログラム数については、夏休み子どもワークショップや未就学児向けワークショップに鑑賞を組み込むことで、件数が昨年より増加した。 ・webを活用したプログラムに関しては、ボランティアのギャラリーツアーのオンライン実施を試行的に行った。なお、昨年度開発したオンライン鑑賞教育プログラムは現在も利用可能である。 【課題】 ・参加者数で言えば計画人数を達成しているが、ねんど、えのぐ開放日などは参加希望が多く、その人数に対応しきれていない状況である。 ・学校向けボランティアスタッフとの鑑賞では、希望する団体がなく、より伝わりやすいプログラム内容の紹介などが必要と考えられる。 ・オンラインでのギャラリーツアーはまだ試行の段階のため、ブラッシュアップし、プログラムのラインナップに加えていきたい。
	19 鑑賞系プログラム数	16 件	19 件		
	20 webを活用したプログラム数(件)	4 件	3 件		
	21 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】	—	別添		
2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	22 講演会等の開催件数(回)	100 回	86 回	指標22 指標23+特別講演会・シンポジウム(6)+ボランティア等によるギャラリーツアー(32)+演奏会等(2) 指標23 美術講座(7)+フロアレクチャー(27)+オリエンテーション(6)+出張美術講座(3)+展示関連普及事業(3) 指標24 ちよこつと体験(3件1514人)+ロダン館コンサート(2件563人)+ロダンウィーク・大名の名宝展クイズラリー(1件208人)+ボランティアによる情報コーナー等でのお茶会(3件608人)+エントランスにおける企画展開幕記念レセプション(県産品による展覧会関連メニューの試食付)(1件149名)	【成果】 ・講演会等については、様々な分野の専門家やアーティストを招へいするものや、職員やボランティアによるものなど多数実施することができた。ガストロノミーリズム講演会は、美術ファンのみならず、幅広く関心を集めるものとなった。 ・フロアレクチャー等については、子ども向けのお話会実施もあり、様々な層へのアプローチを行った。 ・館内空間を生かした催事については、ちよこつと体験やお茶会などに多数の参加があり、賑わいを創出できた。「糸で描く物語」展や「天地耕作」展では、ワークショップの成果物を無料エリアで展示することも行った。付け加えると、館外だが、彫刻プロムナードでのギャラリーツアー試行実施や、裏山でのパフォーマンス実施、わくわくアトリエ、未就学児向けワークショップでの園地利用など、周辺環境を生かした催事も行った。 ・「大名の名宝」展開会式にあわせてエントランスで記念レセプションを実施した。県産の食材を利用した企画展開連メニューの試食や美術館産の茶葉によるボランティアの呈茶など、静岡らしい内容で来場者をもてなし、好評を得た。 【課題】 ・指標23については、フロアレクチャーは例年並みの実施回数だったが、オリエンテーションの実施が少なく、参加人数も減少している。学校団体へは、他プログラム希望の場合でも、あわせての参加を呼びかけるなども考えられる。 ・講演会等の人数に関して言えば、特別講演会の人数が振るわなかった。内容や講師の紹介など、広報の工夫を検討したい。 ・プロムナードでのギャラリーツアーはまだ試行実施の段階のため、ブラッシュアップし、ギャラリーツアーのラインナップに加えていきたい。 ・エントランスや情報コーナーにおける飲食を伴う催事の開催は、虫害対策のうえで適切な準備と管理が必須となるが、館内空間を活用し館の魅力を高める上で有効と考えられる。今後も慎重な対策のもとで実施を検討していきたい。
	23 学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	80 回	46 回		
	24 館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	12 件 2,000 人	10 件 3,042 人		
3 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した美術館活動を充実します	25 地域住民等と連携した取組数	8 件	7 件	指標25 ・ボランティア活動 ・館内レストランとの連携 ・「文化の丘フェスタ」クイズラリー ・県立大学と連携した「ムセイオン静岡」の講義 ・草薙商店会との連携 ・一般社団法人「草薙カルテッド」との連携 ・美術館ボランティア「地域連携・草薙ツアー」グループとのイベント企画	【成果】 ・ボランティア活動については、任期を1年として更新可能にすると同時に、資格年齢を20歳から18歳に引き下げ、学生等の若年層にも参加しやすいものとした。令和5年度は125名を採用した。 ・館内レストラン「ロダテラス」と連携し、企画展ごとに、県産食材を使用した特別メニューの提供を行った。 ・ボランティア地域連携・草薙ツアーグループが、美術館の茶畑でのお茶摘みのイベントやそこで採れたお茶を使用した呈茶を行った。 【課題】 ・観光業界やアーツカウンシルしずおかとの連携など、地域連携のあり方を引き続き検討していく必要がある。
	26 地域住民、企業、文化関係団体等と連携した取組に関する職員レポート【定性】	—	別添		

基本方針 D さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

計画(P)			実施状況(D) R6.3.31現在				評価(C)
重点目標	評価指標	R5目標	実績	備考	自己評価		
1 広報戦略を策定し、 広報の質を高めます	27 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合	80.0 %	79.1 %		<p>公開・更新件数 作品作家情報 公開20件・更新729件 現代美術関連資料 2,554件 図書 6,630件</p> <p>facebook ページリーチ数 53,832 インスタ ページリーチ数 13,078 ツイッター インプレッション数 802,759</p> <p>facebook エンゲージメント数 2,239 インスタ エンゲージメント数 2,290 ツイッター エンゲージメント数 24,823</p>	<p>【成果】 ・デジタルアーカイブにおいては、これまで未公開であった約6,000冊の専門書籍の書誌情報を校正し公開することができ、図書情報の公開件数が大幅に増加した。 ・現代美術関連資料では、ボランティアによる入力作業が継続されており、今年度は、2500件を超える資料情報が新たに増えた。 ・前年度までに公開済みであったいくつかの作品に対し、画像の追加登録を行った。 ・ホームページへのアクセス数は、前年度に比して2割ほどの減少を見せた。この変化は、今年度に大型の文明展がなかったことに起因するとみられる。 ・SNSのインプレッション数、エンゲージメント数はいずれも向上している。「糸で描く物語」展の会期中に、X(ツイッター)によって頻繁に情報発信を行ったためである。また、ロダン館で撮影された乃木坂46のミュージックビデオに関する投稿は大きな注目を集めた。</p> <p>【課題】 ・今後とも図書情報の追加公開や現代美術関連資料の選及入力を継続して実施し、デジタルアーカイブの充実に努める。前者については、書誌情報の校正作業のための予算確保が課題である。 ・SNSではユーザー定着のために継続的に発信していくことが求められる。展示会の見どころやイベントスケジュール等の情報集約の仕組みを整えとともに、情報発信の必要性の理解を館内で徹底する必要がある。</p>	
	28 デジタルアーカイブによる情報発信 作品作家情報の新規公開・更新件数/全公開件数 (件) 現代美術関連資料の公開件数(件) 図書情報の公開件数(件)	300/3030 件 12,000 件 23,900 件	749/3,030 件 12,088 件 29,923 件				
	29 ホームページのアクセス件数	1,200,000 件	1,062,287 件				
	30 facebook、Instagram、ツイッターのビュー数(件)	1,000,000 件	869,669 件				
	31 facebook、Instagram、ツイッターのエンゲージメント等の件数(件)	30,000 件	29,352 件				
2 観光業界等と連携した 新たな広報チャネルの 開拓に取り組みます	32 観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数	7 件	14 件	<p>指標32 ・旅行会社による美術館めぐりツアーへの協力 ・ガストロノミー・ツーリズム関連ツアーへの協力 ・アニマルピクニックフェスタへの参加 ・東アジア文化都市イベントとのコラボ ・他美術館等講演会での紹介2件 ・大学の講義内で紹介3件 ・館内レストランにおける展示会関連メニューの提供4件 ・乃木坂46のミュージックビデオの撮影</p>	<p>【成果】 ・(一財)静岡新食文化共創機構の企画するガストロノミー・ツーリズム関連ツアーに協力した。 ・「東アジア文化都市2023静岡県」や浜名湖での大型イベントなど、他イベントにコラボして参加した。館内の賑わい創出や、アウトリーチにもつながった。 ・ロダン館において乃木坂46のミュージックビデオの撮影を受け入れたことで、実際の来館や利用者によるSNS発信につながり、ロダン館の魅力発信に大変有益だった。 ・静岡県立大学、静岡文化芸術大学、静岡産業大学の学生に対し、事務局を通じて一斉メールで企画展の内容を広報した。</p> <p>【課題】 ・地域連携及び観光業界との連携を模索し、来館者増加に向けた美術館の発信力を更に高める必要がある。</p>		
	33 教育機関への情報発信数(件)	6 件	7 件	<p>指標33 ・大学の講義内で紹介3件 ・事務局を通じた県内3大学の学生への広報4件</p>			
	34 広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート【定性】	別添	別添				

基本方針	E 環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます。
------	--------------------------

計画(P)		実施状況(D) R6.3.31現在		評価(C)	
重点目標	評価指標	R5目標	実績	備考	自己評価
1 館内施設を充実させ、満足度を高めます	35 美術館利用者数	200,000 人	112,426 人	令和5年度は次の工事(小規模を除く)を行った。 ・本館外壁タイル他修繕工事 ・本館ラウンジ他窓サッシ改修工事 ・駐輪場・バス停塗装修繕工事 ・本館荷受室他シャッター更新工事 ・本館非常用発電設備更新工事 ・本館吸収式冷温水発生機(R-4) ・本館消火ポンプ設備更新工事 ・本館送風機更新工事 ・本館レストラン空調機更新工事 ・ロダン館屋根シーリング修繕工事	【成果】 ・「美術館利用者数」は目標を達することができなかったが、当館収蔵品による企画展「センス・オブ・ワンダー」は目標を大きく上回る来館者があった。 ・令和5年度は、合計3ヶ月休館して中期維持保全計画に基づく工事を行った。劣化診断で指摘された外壁タイルの修繕や、結露のひどい窓サッシの修繕を行った。その他空調関係や非常用発電設備、消火ポンプ等も修繕し、快適な鑑賞空間が保たれるようになった。 ・屋外彫刻プロムナードの落枝による被害防止と景観を維持するため、高木等の剪定を行った。 ・レストランの満足度は94.5%であり、昨年に引き続き高い評価だった。食材の高騰やコロナの影響による人員不足もある中、ガストロミーツーリズム事業により県産材を使用した特別メニューを提供するなど工夫を図った。 ・ミュージアムショップの満足度も97.5%と高いところで安定している。企画展にあわせて商品の品揃えやレイアウトを工夫していることの成果であると考えられる。 【課題】 ・開館から37年が経過し、施設の老朽化が進行している。引き続き、施設の適切な維持管理に努めるとともに、令和2年度に策定した中期維持保全計画に基づく改修を計画的に進めていく必要がある。 ・レストラン、ミュージアムショップの運営は、業者に委託をしているが、利用者数は来館者数にほぼ比例する。美術館としても来館者のニーズの把握に努め、引き続き高い満足度を維持していく必要がある。
	展覧会観覧者数		55,565 人		
	教育普及プログラム参加者数		13,751 人		
	ミュージアムコンサート等入場者数		1,027 人		
	県民ギャラリー入場者数		20,002 人		
	講堂入場者数		4,501 人		
	レストラン利用者数		7,761 人		
	ミュージアムショップ利用者数		8,529 人		
	図書閲覧室利用者数		1,290 人		
	36 鑑賞環境に対する満足度	90.0 %	91.7 %		
37 レストランに対する満足度	92.0 %	94.5 %			
38 ミュージアムショップに対する満足度	97.0 %	97.5 %			
2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます	39 来館者のアクセス満足度 ※上段:公共交通機関利用 下段:自家用車利用	80.0 % 70.0 %	74.5 % 70.8 %		【成果】 ・当館の利用交通機関で最も多い自家用車でのアクセス満足度は、令和4年度の60.3%から70.9%と向上し、目標の70.0%を達成した。混雑が予想される際には、駐車場待ちによる交通渋滞を招かないよう、隣接する県立大学の職員駐車場の借用や交通誘導員の配置などの対応を行った。また、公共交通機関を利用するよう、ホームページやSNSで呼びかけを行った。 【課題】 ・駐車場については、敷地内に400台の無料の駐車場があるものの、県大芝生広場利用者や散歩の方など、美術館来館者以外の方も駐車している。来館者が多くなると美術館に近い第三駐車場が満車になり、他の駐車場は美術館までの徒歩区間が長く、登り坂であることがアクセスに満足できない要因になっている。
3 運営基盤を強化します	40 運営基盤の強化等に関する職員レポート【定性】	別添	別添		【成果】 ・「天地耕作展」では、芸術文化振興基金の助成金交付を受け事業を実施した。 ・令和4年3月から、県内企業との関係強化を目的として静岡県経営者協会と連携している。会員の交流会に参加し、今年度は館長が講師となって講演会を行った。また、美術館の年間スケジュールや企画展のちらしを配布した。 ・令和6年度企画展への協力を仰ぐため、企業訪問を行い、信頼関係の構築を図った。 ・ふじのくに応援寄附金(個人版ふるさと納税)では234万2千円の寄付があった。地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)の10万円の寄附は、館蔵品の取得に充当した。 【課題】 ・国や財団法人からの補助金、民間企業からの協賛金、ふるさと納税を活用した企業や個人からの寄附金など外部資金の確保に向け、引き続き積極的に動いていく必要がある。 ・県内企業に社員教育や福利厚生、顧客へのサービス向上のために、美術館を活用してもらい、企業の企画展チケット購入や寄附につなげていく必要がある。

令和5年度 評価指標7、18、19内訳（教育普及プログラムの実績）

事業名	評価指標7	評価指標18			評価指標19
	コレクション活用プログラム	学校教育と連携した取組数	人数	うち特支と連携した取組数	鑑賞系プログラム
特別講演会	○		403		○
美術講座	○		339		○
フロアレクチャー	○		635		○
ギャラリーツアー	○		171		○
オリエンテーション ※人数は学校以外団体も含む		5	208	0	○
ちょこつと体験	○		1892		
創作週間			434		
実技講座	○		56		○
えのぐ開放日			210		
ねんど開放日			231		
わくわくアトリエ	○		37		○
夏休み子どもWS			10		○
未就学児向けワークショップ			12		○
ロダン館デッサン会	○		273		○
ロダン館普及事業	○		737		○
タッチツアー	○		1		○
地域連携事業			678		
展覧会関連普及事業(コンサート等)			290		○
出張美術講座	○	3	227	0	○
展覧会・収蔵品関連普及事業及び美術館活用事業、他館連携事業(フェス)	○		0		
ねんど教室		11	230	2	
えのぐ教室		17	349	3	
音のかけら	○	0	0	0	
ロダン館デッサン実習	○	5	109	0	○
ロダン館鑑賞、ななふしぎクイズ	○	4	290	0	○
美術館の秘密を探れ		4	66	0	
学校向けボランティアスタッフとの鑑賞		0	0	0	
職場体験、インターンシップ ※延べ人数		4	6	0	
粘土貸出		16	2070	1	
レプリカ貸出	○	15	2735	1	○
アートカード貸出	○	13	973	1	○
教員研修	○	3	79	0	○
	18	100	13751	8	19

資料編

展覧会に関する自己点検評価表（令和5年度）

- 1 センス・オブ・ワンダー：感覚で味わう美術
- 2 大大名の名宝－永青文庫×静岡県美の狩野派展
- 3 天地耕作 初源への道行き

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	センス・オブ・ワンダー: 感覚で味わう美術
------	-----------------------

期 間	令和5年4月18日(火)~7月9日(火) (72日間)
場 所	静岡県立美術館第1~6展示室

担当者名	南 美幸
------	------

学芸員の企画への参加の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
マスコミ等による共催の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	巡回の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>

記入日	企画	令和5年4月1日
	実績	令和5年9月9日

企画		実績・検証	
目的・内容	<p>【内容】 所蔵品から作品を選定し、静岡県立美術館の多様性に富むコレクションを楽しんでいただく展覧会。</p> <p>【目的】 静岡県立美術館のコレクションを新たな視点で鑑賞していただくことを目指す。具体的には、美術史的な展覧会ではなく、作品と感覚や記憶とを結びつける工夫によって、作品の新たな側面に気づくような展示とする。また、これまで展示歴の少なかった作品も出品し、当館コレクションのバリエーションの広さを改めて知っていただく機会とする。</p>	<p>【研究活動評価委員会からの意見(要約)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館が近年求められている課題に応える企画の質の高さと、コレクションの質の高さの双方が印象づけられた。美術史的なテーマの展覧会では展示するのが難しい作品も展示できた点も評価できる。レイチェル・カーソン『センス・オブ・ワンダー』を展覧会名に引用したのは、観客にもわかりやすく、動員に功を奏したのではないかと。五感の相互の結びつきを取り戻そうとする本企画は、来館者の今後の鑑賞姿勢にも有益な提案をしたと考えられ、鑑賞者にとっては、それぞれの章のどれに興味をひかれるかを試す場ともなっていて、鑑賞者自身の自己理解にもつながったのではなかろうか。(山梨委員) ・コレクションを多面的に活用するだけでなく、従来の解説的教育論による展示ではなく、五感や共感覚を刺激し、構成主義的な視座から鑑賞者の経験や感性を開こうとする点で、内容の独自性や先駆性があり、研究面についていえば博物館展示論、博物館教育論的な観点から問題提起的である。各セクションに定番の名品が散りばめられており見応えがあったことに加え、今回のテーマによって掘り起こされた所蔵品もあり興味をひかれた。全体として水準の高い展示だったとは言え、あくまで視覚中心の展覧会であったので、例えば身体を刺激するような体験型の展示、VR展示等の割合を増やしたより楽しめる展覧会も今後計画できるかもしれない。(栗田委員) 	
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	<p>【ねらい】 五感による作品鑑賞を提示する。通常、芸術作品の大部分は視覚による鑑賞を基本とするが、作品の素材、モチーフや主題を、視覚以外の感覚器官(五感、空間感覚)、記憶や想像力を働かせて鑑賞することを誘い(ざ)なう。</p> <p>【ターゲット】 子どもから年配の方まで(主に中部地域在住)</p>	<p>【アンケートにみる特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に新規来館者において、若年層の観覧者が多かった。(20歳台以下61.6%、うち12歳以下30.8%) ・観覧者の居住地は静岡市内が50.7%と最も多かった。 ・来館回数については、最も多い層が3~5回目(25.3%)だった。新規来館者は17.3%だった。 ・2人以上の来館者について、同行者は友人・知人が25.0%と最も多かった。 ・来館理由は、「ポスターを見て」が32.0%と最も多かった。 ・全体的な満足度について、肯定的な評価が81.3%を占めた。 	
指標(数値目標)	観覧者数見込 7,000人	観覧者数 16,611人	
収支計画	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 6,487千円 ・歳入 2,669千円 ・特財率 41.1% 	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 6,792千円 ・歳入 7,345千円 ・特財率 108.1% 	
広報戦略 主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・草間彌生《水上の蜚》という体験型の作品の出品や、通常の鑑賞とは違った方法での鑑賞体験により、小さな子どもにも楽しめる展示とする。 ・草間彌生《水上の蜚》の動画を作成し、ホームページやSNS、県庁内のエレベーターホールで放映する。 ・静岡駅の地下道でチラシを配布するイベントを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示の工夫が家族連れでの来館につながった。GWに重なる会期であったため、特にその期間に家族連れを呼び込めたことで、来館者増につながった。 ・草間彌生《水上の蜚》の動画は、特にSNSでは反響があり、X(旧Twitter)では5,000を超えるviewを獲得した。 ・チラシ配布のイベントでは、人通りの多い地下道で、チラシ300枚を配布し、ポスターを掲示することで、広く展覧会を周知することができた。 	
自己評価 今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・五感による作品鑑賞の楽しみをコンセプトとし、古い西洋画から最新の美術作品まで、当館の多様性に富むコレクションを、楽しみながら現実(リアル)に感じていただくことを目指した展覧会である。当館所蔵品として有名な作品を、このような新たなテーマの設定により紹介することに加え、これまで展示の機会があまりなかった作品も公開することができた。 ・全身で作品を体感する呼び水として、作品のレプリカや彫刻の素材に触れられる展示や、自然の音や音楽を流すことにより視覚と聴覚に訴えかける工夫なども行なった。 ・展覧会のテーマの分かりやすさ、鑑賞のきっかけの工夫、またメイン・ビジュアルに草間彌生の作品を起用したことなどが功を奏したと思われ、当初見込みよりも倍以上の入場者にご来場いただいた。 ・全ジャンルの所蔵品を出品したが、他の展覧会との兼ね合いにより、日本画が少ない展示となった。 ・鑑賞者それぞれの感覚を用いた作品鑑賞をコンセプトとしたため、文字による説明は章ごとのパネルや個々の作品解説にとどめた。これらの解説が分かりやすいとのご意見もある一方で、図録がほしいとのご意見もあり、所蔵品のカタログをどのように充実させてゆか、今後の参考課題となった。 		

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	大大名の名宝—永青文庫×静岡県美の狩野派展
------	-----------------------

期 間	令和5年10月17日(火)～12月10日(火) (48日間)
場 所	静岡県立美術館第1～6展示室

担当者名	石上充代
------	------

学芸員の企画への参加の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
マスコミ等による共催の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	巡回の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>

記入日	企画	令和5年4月1日
	実績	令和6年1月30日

	企画	実績・検証
目的・内容	<p>【内容】 狩野派の傑作や重要作を多く含む永青文庫の狩野派コレクションと、静岡県立美術館の狩野派作品とを組み合わせでご覧いただく展覧会。名品を通して狩野派の歴史を辿りつつ、最新の研究成果を盛り込み、狩野派による中国絵画の鑑定や大名道具にまつわる仕事、また熊本藩の御抱絵師であった肥後狩野派についても注目し、幅広く大名家と狩野派の関わりを紹介する。</p> <p>【目的】 ・室町時代から幕末まで、狩野派400年の歴史を名品を通してご覧いただき、その魅力を伝える。 ・永青文庫の狩野派の全容を調査した成果を踏まえ、最新の研究成果を紹介する。 ・狩野派の活動の史的意義を改めて評価し、作品の素晴らしさを伝える機会とする。</p>	<p>【研究活動評価委員会からの意見(要約)】 (展覧会)永青文庫と匹敵する狩野派の所蔵品を作り上げた県立美術館も立派なもの、それを痛感せしめる展示であった。歴代学芸員の努力と、それを支えた管理、県の理解とを称えたい。 狩野派の資料をこれだけ所蔵できたのは、伊豆が狩野家の本貫地との認識があったからだと思うのだが、その点にまで見据えた展示をそろそろ考えてもよいのでは。狩野派研究での静岡県美の大きさからみれば、計画してもよい展覧会だと思う。 (図録)図録に落款印章の図版を載せるのはもはや当然と云うところだろうが、外題、極め書まで入れてあるのは、現在の関心に応えたとして評価したい。 今後とも研究に裏付けられたコレクションの充実を期待する。今回の展示でも近年収蔵された資料が使われている、実際に活用されているのは喜ばしい。(榊原委員) (展覧会)狩野派のコレクション(大大名細川家)の成り立ちがよくわかる展示構成であり、狩野奔流の展開が理解できるように工夫されていた。栄信と探信の活躍は、江戸狩野派を刷新したことを具体的に示しているが、それを作品で見せてくれたところが興味深かった。収集、展覧会活動、研究という三つの部門の充実がはかられており、今後とも継続されることが望ましい。 (図録)図録において、二人の学芸員の対談を載せ、展覧会の概要と趣旨をわかりやすく説いている。今まで美術館・博物館の図録ではあまりなかったことで、企画が、蒐集、展示、研究というトライアングルで進められていることを明示している。(金原委員)</p>
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	<p>【ねらい】 ・室町から幕末までの狩野派の名品を通して、狩野派の魅力伝える。 ・大名家にまつわる狩野派の画事を紹介することで、狩野派の幅広い分野における活躍と御抱絵師の仕事の実態について理解を深める。 ・近世における狩野派の幅広い役割とその史的意義を伝える。</p> <p>【ターゲット】 ・近世絵画に興味のある方 ・日本史、特に近世史に興味のある方</p>	<p>【アンケートにみる特徴】 ・50歳以上の観覧者が63.5%、うち70歳以上が19.5%(他展では9%台)と、高齢者層の来館が多かった。 ・新規来館者のうち53.7%が県外居住者という特異な数値を示した。 ・来館回数は、20回以上が20.8%であるとともに、初めての来館者も22.9%と比較的高い数値を示した。 ・2人以上の来館者のうち、同行者は配偶者が51.1%と最も高かった。 ・来館理由は、「静岡県立美術館のwebまたはSNSなどを見て」が22.0%と他展に比べて高かった。 ・全体的な満足度について、肯定的な評価が89.4%を占めた。</p>
指標(数値目標)	観覧者数見込 12,000人	観覧者数 8,290人
収支計画	<ul style="list-style-type: none"> 歳出 14,386千円 歳入 9,211千円 特財率 64.0% 	<ul style="list-style-type: none"> 歳出 12,638千円 歳入 5,476千円 特財率 43.3%
広報戦略 主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・狩野派は中国絵画との関わりが深いことから、東アジア文化都市関連事業として幅広く周知の機会を作る。 ・ガストロノミー・リズム関連企画展として位置付け、イベント等を開催、広報機会に結び付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の発送先に加え、日本画に関心のある層に届くよう広報物の発送先を追加した。 ・開幕にあわせてエントランスにおいてレセプションを開催、県産食材を利用した料理の提供などで話題を作り、情報発信の機会とした。 ・展覧会内容と関連つけた食文化に関するイベントを開催し、広報機会とした。
自己評価 今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・当館が長年にわたり調査研究を深め収集と展示を行ってきた狩野派について、大大名細川家の伝来品を核とする永青文庫のコレクションと当館コレクションを組み合わせ構成し、400年に及ぶ狩野派の歴史を名品によってたどり、その魅力を伝える内容とした。 ・大名家ならではの狩野派が関わった調度品や中国絵画の鑑定に関する仕事など、絵画制作だけではない狩野派の幅広い役割について最新の研究成果を含めて紹介した。また、肥後狩野派の画業にも注目し、地元熊本以外では公開機会のなかった作品群を展示、その成立と展開について考察し、新知見を提示した。 ・両館のコラボレーションにより、コレクションを基礎にして狩野派研究の進展に貢献することができ、収集、展示、調査研究を連関させた美術館活動の成果を形にすることができた。 ・子どものための分かりやすい解説やハンドアウトなど、幅広い観覧者に狩野派の世界に親しんでもらう対策まで手がまわらなかった。狩野派の充実したコレクションと展覧会の実績を踏まえて、今後は、狩野派についての語り方・伝え方を工夫し、その魅力を広く理解していただくための教育普及面での努力が必要である。 ・集客の点では目標に届かなかった。過去の狩野派展の検証をもとに広報面の工夫が必要である。 	

(様式1)

展覧会自己点検評価表

展覧会名	天地耕作 初源への道行き
------	--------------

期 間	令和6年2月10日(土)～3月27日(日) (40日間)
場 所	静岡県立美術館第1～5展示室

担当者名	植松 篤
------	------

学芸員の企画への参加の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	学芸員の企画への参加状況 ※カタログ執筆、出品交渉等	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
マスコミ等による共催の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	巡回の有無	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無

記入日	企画	令和6年10月24
	実績	2024年4月1日

	企画	実績・検証
目的・内容	<p>【内容】 本展は、本県出身の村上誠、渡兄弟と、山本裕司による美術制作プロジェクト「天地耕作」の活動を辿る。天地耕作は野外作品を主としており、写真以外の作品は現存していない。そのため、写真や映像などにより、基本的には年代に沿って、彼らの活動紹介する。展示室では、作品理解の補助とするため、インスタレーションを発表する。また、美術館裏山では、未完となっていた野外作品プランを実現することにより、実作品に触れる機会とする。</p> <p>【目的】 当館はこれまで本県ゆかりの作家を顕彰してきているが、現代美術ジャンルにおいては、本県ゆかりの作家を主とする企画展の回数は多くはない。そこで、本県出身で、静岡市美術館での「アーカイブ／1980年代ー静岡」展(2019年)や、山本浩貴著『ポスト人新世の芸術』(2022年)で紹介され、評価の高まりつつある、天地耕作を取り上げる。かれらの活動は、その性質上、実見した鑑賞者は少なく、その全容が知られていない。本展では、彼らの全活動を明らかにする。</p>	<p>【研究活動評価委員会からの意見(要約)】 基本的に野外で制作・表現を行うという、独自の活動を行ってきた地元のグループを取り上げた積極的な姿勢に敬意を表したい。美術館の地の利を活かして裏山で新たに「天地耕作七」を実際に展開させただけでなく、館内には、インスタレーション「白蓋」という新作を並べ、それらを中心に、「天地耕作」以前のメンバーの作品、今では見たり体験したりすることができない、それ以後の「天地耕作」シリーズの活動を、見応えのある写真と資料で紹介するという、配慮の行き届いた充実した展観であった。美術館という白い箱の外にこそ場を見出している芸術活動を美術館で紹介しようとしたこと自体が、チャレンジであったと思う。(潮江委員)</p> <p>「天地耕作」は静岡県内で活動した作家であり、静岡県立美術館のAヴァリューでの展示も行っている点で、美術館とのゆかりが深い。インタビュー記事では、山本が60年代に静岡で活動したグループ幻触の影響を語っており、1980年代後半から静岡県内で制作を行った「天地耕作」を位置づける本展覧会は、静岡県立美術館ならではの企画である。これまでの作品が残されていない中で、制作活動を位置づけようとする企画は多くの困難を伴ったものと予想されるが、制作過程や作品を記録した写真の質が高く、見ごたえのある展示となった。(山梨委員)</p>
期待される成果 ・ねらい ・主なターゲット	<p>【ねらい】 展示構成としては、比較的スタンダードな手法を用い、活動があまり知られていない作家について全容を把握しやすいよう、立案する。図録については資料性の高いものを作成する。</p> <p>【ターゲット】 県内外の現代美術ファン 20代から60代の年齢層</p>	<p>【アンケートにみる特徴】 ※実施せず</p>
指標(数値目標)	観覧者数見込 5,500人	観覧者数 5,560人
収支計画	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 9,600千円 ・歳入 3,128千円 ・特財率 32.6% 	<ul style="list-style-type: none"> ・歳出 12,006千円 ・歳入 5,671千円 ・特財率 47.2%
広報戦略 主な取組	<p>大学と連携し、講義等に出講し、企画の理解を促すとともに、周知の機会とする。 収蔵品展とも関連性を持たせることで、相乗効果を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金獲得により、新聞社に名義共催を依頼することができ、広く周知することができた。 ・収蔵品展を本展の関連企画として実施し、収蔵品展や本展に関わる80年代の静岡の美術について新聞に寄稿する機会を得た。相乗効果があったかと思われる。
自己評価 今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡出身の3名による野外美術制作プロジェクト「天地耕作」の美術館初の回顧展となった。作品の残らない彼らの活動について、写真を中心に、映像や資料、詳しい年表をあわせて展示することで、その全貌を紹介することができた。 ・記録だけでなく、展示室内での新作インスタレーション発表や美術館裏山での野外制作を実施し、また作品と一体として行われてきたパフォーマンスについても上演し、彼らの作品、活動を実際に体験する機会を提供することができた。 ・パフォーマンス以外にも関連イベントを多数実施し、鑑賞を深める機会を様々な提供することができた。 ・これまで静岡の現代美術を中心に据えた企画は多くなかったが、収蔵品展とも関連させることで、当県の現代美術を跡づけることができた。 ・来館者数は目標を達成したが、特別講演会では著名な研究者を招へいしたにもかかわらず振るわなかった。より積極的な広報が必要だったかと思われる。 ・前年度から計4回大学に出講したが、教育普及としての意義はあったと言えるとしても、人数で言えば広報効果は薄かったようだ。若者層に向けたPRについては、再検討の余地がある。 ・展示室内での来館者の撮影は禁止としたため、ウェブ等でそれを補う広報をすれば、来館を検討する方にとっては親切であったらう。 	

令和5年度
調査・研究に関する自己点検評価報告書

令和6年8月
静岡県立美術館

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和6年4月30日

職・氏名 学芸課長・石上充代

- 専門分野 近世・近代の日本画
- 所属学会 美術史学会
- 主要研究テーマ 近代日本画

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・研究ノート「都路華香《松風村雨》一能を描く」(『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第150号、令和5年7月)
- ・論文「木村武山《羽衣》について一天女の図像を中心に」(『静岡県立美術館紀要』第39号、令和6年3月)

小計 2本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・企画展「大大名の名宝」主担当
- ・同展 図録掲載対談司会
- ・同展 学芸員によるフロアレクチャー3回
- ・同展 教育普及事業(実技講座、わくわくアトリエ) 展示解説
- ・ボランティア地域連携・草薙ツアーグループ担当(茶摘み、茶会等実施)

小計 5本

3. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・ふじのくに芸術祭 企画委員会委員、美術部門美術展審査員
- ・ふじのくに子ども芸術大学実行委員会委員
- ・講座「世界遺産県民講座 富士山が育んだ日本の絵画」(1月27日 プラサ ヴェルデ)

小計 3本

4. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

- ・研究ノート「都路華香《松風村雨》一能を描く」(『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第150号、令和5年7月)
- ・論文「木村武山《羽衣》について一天女の図像を中心に」(『静岡県立美術館紀要』第39号、令和6年3月)

小計 (2) 本

合計 10本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和6年5月20日

職・氏名 上席学芸員 新田建史

- 専門分野 美学美術史
- 所属学会 地中海学会、保存修復学会
- 主要研究テーマ 西洋16～18世紀美術、東西美術交流史、東西版画史、文化財保存

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

小計 0 本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・センス・オブ・ワンダー展副担当
- ・沼津移動美術展一旅する人生一 副担当

小計 2 本

5. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- ・第43回文化財防虫防菌処理実務講習会講師 (10月5日(木))

小計 1 本

6. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

小計 () 本

合計 3 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和6年5月20日

職・氏名 上席学芸員 南 美幸

- 専門分野 美学・美術史
- 所属学会 美術史学会、日仏美術学会
- 主要研究テーマ 西洋美術史

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

小計 本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- ・企画展「センス・オブ・ワンダー」企画・実施
- ・同上展 フロアレクチャー 4回
- ・収蔵品展「版画でひもとく聖書と神話」企画・実施
- ・同上展 フロアレクチャー 3階

小計 4 本

7. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

小計 本

8. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

小計 () 本

合計 4 本

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和6年4月24日	
職・氏名	上席学芸員・喜多孝臣
●専門分野	日本近代美術史
●所属学会	明治美術学会、文化資源学会
●主要研究テーマ	昭和初期の社会と美術、印刷と美術
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
・「プロレタリア美術運動と「左傾本」の装丁について」『大原社会問題研究所雑誌』779・780 合併号、2023年9月	
・「中村彝宛曾宮一念書簡について」『アマリリス』152号、2023年12月	
	小計 2 本
2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業	
・「静岡県立美術館 小山町移動美術展一旅する人生一」(主担当、フロアレクチャー)	
・「静岡県立美術館 沼津移動美術展一旅する人生一」(主担当、フロアレクチャー)	
・「収蔵品展 美術館のなかの書くこと」(主担当、フロアレクチャー)	
・「天地耕作 初源への道行き」(副担当)	
	小計 4 本
9. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
・授業「日本近代美術史特講 d」実践女子大学	
	小計 1 本
10. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】	
・「中村彝宛曾宮一念書簡について」『アマリリス』152号、2023年12月	
	小計 (1) 本
合計 7 本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和6年5月21日	
職・氏名	上席学芸員 植松篤
●専門分野	現代美術
●所属学会	美学会、広島芸術学会
●主要研究テーマ	戦後美術
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
・「静岡におけるアーティストの自主企画展覧会について」『アマリリス』No. 151、2023年10月1日	
・「天地耕作－「フィールドワーク」から生まれる芸術」『天地耕作 初源への道行き』図録、2024年2月29日	
	小計 2本
2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業	
・企画展「天地耕作 初源への道行き」主担当	
・同展特別講演会1主担当	
・同展特別講演会2主担当	
・同展トークセッション主担当	
・同展館長美術講座主担当	
・同展パフォーマンス主担当	
・同展フロアレクチャー(1回)	
・収蔵品展「静岡の現代美術と1980年代展」主担当	
・収蔵品展「太田正樹コレクション展」副担当	
	小計 9本
11. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
・常葉大学 現代芸術概論 講師「企画展「天地耕作 初源への道行き」について」(1コマ)7月25日	
・静岡大学 講師「静岡県立美術館「天地耕作 初源への道行き」展レクチャー 野外制作プロジェクトと裏山のプランについて」(1コマ)1月25日	
	小計 2本
12. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】	
・「静岡におけるアーティストの自主企画展覧会について」『アマリリス』No. 151、2023年10月1日	
	小計 (1)本
合計 13本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和6年 5月 28日

職・氏名 上席学芸員 川谷承子

- 専門分野 現代美術
- 所属学会
- 主要研究テーマ 戦後美術

1. 今年一年間に執筆した主な論文

(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・「「幻触」の鈴木慶則について」、「水の絵「幻触」と「幻触」以降の鈴木慶則」展パンフレット（フェルケール博物館）エッセイ寄稿
- ・「石田徹也とは何者か。5つのポイントからその作家像にせまる」、ウェブ版「美術手帖」寄稿
- ・「海外での石田評価について」、別冊太陽「石田徹也」特集号記事執筆

小計 3本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

- 新収蔵品展
- 収蔵品展「太田正樹コレクション展」 主担当
- 企画展「センス・オブ・ワンダー 感覚で味わう美術」現代作品の展示撤収立ち合い
- 企画展「糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。」 副担当
- 企画展「天地耕作 初源への道行き」 副担当
- 収蔵品展「静岡の現代美術と1980年代」 副担当
 - ・2023/4/23 新収蔵品展フロアレクチャー
 - ・2023/5/7 新収蔵品展フロアレクチャー
 - ・2023/6/3 太田正樹コレクション展フロアレクチャー
 - ・2023/7/2 太田正樹コレクション展フロアレクチャー

小計 10本

13. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

- 太田正樹コレクションの寄贈受入および「太田正樹コレクション展」に関する広報活動
- 「TETSUYA ISHIDA My Anxious Self」展（NY, ガゴシアンギャラリー）への作品貸出に伴う業務
- 「THE IRREPLACEABLE HUMAN」展（デンマーク、ルイジアナ美術館）への作品貸出に伴う業務
- ギャラリーツアー（対話型鑑賞ボランティア）への研修
- VOCA2024 展の作家推薦、原稿執筆
- NCAR 国際シンポジウム・ワークショップ参加

小計 6本

14. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

- ・「「幻触」の鈴木慶則について」、「水の絵「幻触」と「幻触」以降の鈴木慶則」展パンフレット（フェルケール博物館）エッセイ寄稿
- ・「石田徹也とは何者か。5つのポイントからその作家像にせまる」、ウェブ版「美術手帖」寄稿
- ・「海外での石田評価について」、別冊太陽「石田徹也」特集号記事執筆

小計 (3)本

合計 19
本

調査・研究に関する自己点検 報告書

	提出日 令和6年4月16日
職・氏名 上席学芸員 貴家映子	
●専門分野 西洋美術史 ●所属学会 日仏美術学会 ●主要研究テーマ フランス近代美術、風景画	
1. 今年一年間に執筆した主な論文 (カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)	
・論文「ポール・シニャック作《サン＝トロペ、グリモーの古城》について一明るい廃墟の位置づけをめぐって」『静岡県立美術館紀要』第39号、令和6年3月31日	
小計 1本	
2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業	
<ul style="list-style-type: none"> ・企画展「糸で描く物語」7月25日～9月18日 主担当 ・同展 館長美術講座「糸と布と衣服をめぐるお話」8月26日 ・同展 フロアレクチャー 7月29日、9月3日 ・同展 スライドトーク 9月9日、9月17日 ・同展関連 夏休みこどもワークショップ「ちくちくアート」8月5日、6日 ・同展関連 ちょこっと体験「みんなでちくちくアート」8月11日～14日 ・同展関連 実技講座「糸と針で表現する武井武雄の世界」8月19日、20日 ・同展関連 クラフト市「GARDEN museum market」9月9日、10日 ・ロダンウィーク 11月1日～5日 ・収蔵品展 全体調整 	
小計 10本	
15. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動	
<ul style="list-style-type: none"> ・石水博物館企画展「川喜田半泥子が見た欧米」記念講演会「川喜田半泥子が見た100年前のパリ画壇」5月28日 ・静岡県立大学 国際関係学部特別講座「糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。」7月14日 ・『アマリリス』変遷史(『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第150号、2023年7月1日) ・「子どもと美術館【静岡県立美術館】」(『造形ジャーナル』No.445、開隆堂出版株式会社、2024年2月29日) ・「突撃!となりのミュージアム! Vol.3-『有度丘陵の片隅で多分野のミュージアムの在り方を語る』篇-(報告)」『静岡県博物館協会研究紀要』第47号、令和6年3月31日 	
小計 5本	
16. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】	
・論文「ポール・シニャック作《サン＝トロペ、グリモーの古城》について一明るい廃墟の位置づけをめぐって」『静岡県立美術館紀要』第39号、令和6年3月31日	
小計 (1)本	
合計 16本	

調査・研究に関する自己点検 報告書

提出日 令和6年5月24日

職・氏名 主任学芸員 浦澤倫太郎

- 専門分野 日本美術史
- 所属学会 美術史学会
- 主要研究テーマ 近世絵画

1. 今年一年間に執筆した主な論文
(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表・その他美術・美術館に関わる研究論文等)

- ・論文「南画家・池田桂仙と浜松」(『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第153号、令和6年3月)
- ・論文「近世から近代にかけての村松周辺の展望地と絵画」(中條暁秀編『日海記の世界』、静岡新聞社、令和6年4月)

小計2本

2. 今年1年間に携わった展覧会及び普及事業

出張講座【富士根南小学校】10月3日(火)

小計1本

17. 上記以外の専門領域活動及びその他の活動

講義「小杉文庫について(全2回)」【静岡大学】(「地域の人と文字文化」)5月29日(月)、6月5日(月)

小計2本

18. 収蔵作品に関する論文・発表等【再掲】

論文「南画家・池田桂仙と浜松」(『静岡県立美術館ニュース アマリリス』第153号、令和6年3月)

小計(1)本

合計5本

定性評価の状況（令和5年度）

【日本画】

7本の展覧会に計23点の作品を貸し出した。

「激動の時代—幕末明治の絵師たち」(サントリー美術館、11点貸出)には、菊池容斎《蒙古襲来之図》などの重要作を出品し、内容の充実に貢献した。同展の骨子であった絵画史における幕末期から明治期への繋がり、近年特に研究が盛んなテーマである。当館コレクションが、研究の最前線で注目される作品を含むことを示す有意義な機会となった。

個展では、「生誕270年 長沢芦雪」(大阪中之島美術館4点、九州国立博物館6点貸出)が特筆される。掛軸2点、一双屏風2点(寄託品)を出品、いずれも芦雪の特徴をよく示す作品であることから両会場で注目を集めた。福岡会場では特別出陳として芦雪と同時代の画家による作品が展示され、当館からは池大雅《蘭亭曲水・龍山勝会図屏風》(重文)、円山応挙《木賊兔図》を出品した。他「山本栞谷と津和野藩の画人たち」(島根県立石見美術館、2点貸出)などに貸出を行った。

【日本洋画】

2本の展覧会に計2点の作品を出品した。

昨年度から巡回の「佐伯祐三—自画像としての風景」展(大阪中之島美術館)には、佐伯祐三の《ラ・クロッシュ》を、引き続き出品した。

また、「春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ」(東京ステーションギャラリー、栃木県立美術館、長野県立美術館)に、岡鹿之助の《観測所》を出品した。同展は、1923年に発足した洋画団体「春陽会」の現在までの歩みをたどるものであり、洋画が日本の中で定着するにあたって春陽会が果たした歴史的役割が一望できる内容であった。本展は、翌年度、碧南市藤井達吉現代美術館に巡回し、《観測所》も引き続き出品を予定している。

【西洋】

国内では、以下のとおり、近代の作品3点を3件の展覧会に貸し出した。

20世紀の南仏における芸術家たちの交流や、まばゆい光の下で生み出された表現や技法に着目し、南仏で生み出された芸術の多様性を紹介した「芸術家たちの南仏—ピカソ、マティス、シャガールたちの楽園と逃避」展に、ポール・シニャックの《サン＝トロペ、グリモアの古城》を貸し出した。また、〈農〉、すなわち、田畑を耕して農作物を作ることに加え、農家の人々や農村の風景を含め、農業にまつわる現代アートなど、農業をとりまく諸々のイメージを紹介したユニークな展覧会「土とともに、美術に見る〈農〉の世界—ミレー、ゴッホ、浅井忠から現代のアーティストまで—」に、カミーユ・ピサロ《ライ麦畑、グラット＝コックの丘、ポントワーズ》を出品した。さらに、3人の文学者の関係および交流と彼らの美術への関心に着目した展覧会「芥川龍之介と美の世界 二人の先達—夏目漱石、菅虎雄」展に、オーギュスト・ロダン《パオロとフランチェスカ》を貸し出した。

また海外では、昨年度末から引き続き、フランスのリュクサンブル美術館で開催された「レオン・モネ、芸術家の兄弟にして収集家」展にクロード・モネ《ルーアンのセーヌ川》を出品した。

【現代】

5本の展覧会に計13点の作品を出品した。

宮脇愛子《作品12》を京都国立近代美術館の「Re:スタートライン1963-70/2023」に出品した。同館が1963～1970年まで毎年開催した「現代美術の動向」展をアーカイブ的な視点から掘り起こす展覧会に、本作が、1963年に同展に出品されたオリジナル作品として検証に役立った。

D I C川村記念美術館の「ジョセフ・アルバースの授業」、「カール・アンドレ 彫刻と詩、その間」に、

それぞれ1点ずつ各作家の作品を出品した。前者は日本初の回顧展で、後者は日本初個展となる。それぞれ、「授業」という補助線やテーマ設定により理解を促していた。

鈴木慶則の作品3点をフェルケール博物館の「水の絵 『幻触』と『幻触』以降の鈴木慶則」に出品した。当館所蔵の幻触時代の作品が出品されることで、鈴木の作風の変遷を示すことができた。

石田徹也は海外からの注目が高く、ガゴシアンギャラリー（ニューヨーク）の「Tetsuya Ishida: My Anxious Self」（石田徹也 不安な私）に4点を、ルイジアナ近代美術館（フムレベック）の「The Irreplaceable Human」（かけがえのない人間）に3点を出品した。後者は、創造性に注目した企画性の高いものである。

【センス・オブ・ワンダー】

日本、西欧の近現代作品を中心に、所蔵作品により、視覚だけでなく、触覚、聴覚、空間の広がりといった切り口で作品を味わうことを提案する企画で、美術館が近年求められている課題に応える企画の質の高さと、コレクションの質の高さの双方が印象づけられた。美術史的なテーマの展覧会では展示するのが難しい作品も展示できた点も評価できる。レイチェル・カーソン『センス・オブ・ワンダー』を展覧会名に引用したのは、観客にもわかりやすく、動員に功を奏したのではないか。五感の相互の結びつきを取り戻そうとする本企画は、来館者の今後の鑑賞姿勢にも有益な提案をしたと考えられ、鑑賞者にとっては、それぞれの章のどれに興味をひかれるかを試す場ともなっていて、鑑賞者自身の自己理解にもつながったのではなかろうか。ICOM 京都大会で博物館の定義として提出された Museum as Cultural Hub「文化の交差する博物館」が今年の ICOM 大会で採択された。社会教育施設としてだけでなく、モノに接して楽しく学び、多様な価値が交差する場としての博物館という方向が提案されている。本展は、そうした動きにも合致する企画となっていた。(山梨委員)

コレクションを多面的に活用するだけでなく、従来の解説的教育論による展示ではなく、五感や共感覚を刺激し、構成主義的な視座から鑑賞者の経験や感性を開こうとする点で、内容の独自性や先駆性があり、研究面についていえば博物館展示論、博物館教育論的な観点から問題提起的である。各セクションに定番の名品が散りばめられており見応えがあったことに加え、今回のテーマによって掘り起こされた所蔵品もあり興味をひかれた。音楽を流す工夫、触れる展示の導入等も鑑賞者に親しみやすさを与えるのに役立ったものと思われる。全体として水準の高い展示だったとは言え、あくまで視覚中心の展覧会であったので、例えば身体を刺激するような体験型の展示、VR 展示等の割合を増やしたより楽しめる展覧会も今後計画できるかもしれない。また、自由に見てもらうことを主眼に解説や図録を省略したことは理解できるが、子供や鑑賞初心者向けの鑑賞のポイントを体得してもらうためのワークシートの配布、対話型鑑賞のセッションも何回かあると展覧会の趣旨がより実現できたかかもしれない。(栗田委員)

【大大名の名宝】

狩野派のコレクション（大大名細川家）の成り立ちがよくわかる展示構成であり、熊本以外でははじめて、狩野本流の展開が理解できるように工夫されていた。栄信と探信の活躍は、江戸狩野派を刷新したことを具体的に示しているが、それを作品で見せてくれたところが興味深かった。収集、展覧会活動、研究という三つの部門の充実がはかられており、今後とも継続されることが望ましい。

図録において、二人の学芸員の対談を載せ、展覧会の概要と趣旨をわかりやすく説いている。こうしたことは今まで美術館・博物館の図録では、あまりなかったことで、企画が収集・展示・研究というトライアングルで進められていることを明示している。このことを大変いいことであると考えています。

狩野派の仕事が、絵を描くことのみならず、殿様やお姫様のお絵描きに助力したり、工芸の下絵を描いたりすることもあると指摘している。興味深いことでもあるので、追究されるとよいと思う。(金原委員)

全 57 点の展覧会。永青文庫から 30 点、静岡県美からおそらく寄託品であろう 5 点も含め 27 点。細川家のコレクションとしては十分あり得る質量だが、それに匹敵する所蔵品をつくり上げた県美も立派なもの、それを痛感せしめる展示であった。歴代学芸員の努力と、それを支えた管理、県の理解とを称

えたい。中世一戦国期の作品が少ないのは、そもそも二つのコレクションに限定されているのだから仕方ないにしても、江戸期の狩野派の資料がこれだけなのか。折角の展覧会なので、もう少し永青文庫から出品してもらえたらいいと思うのだが。

狩野派の資料を静岡県美がこれだけ所蔵できたのは、伊豆が狩野派の本貫地？との認識があったからだと思うのだが、その点にまで見据えた展示をそろそろ考えてもよいのでは。新出資料も少ない分野で、結局新味のない内容になる可能性もなくはないが、狩野派研究での静岡県美の大きさからみれば、計画してもよい展覧会だと思う。

図録に落款印章の図版を載せるのは、もはや当然と云うところだろうが、外題、極め書まで入れてあるのは、現在の関心に応えたとして評価したい。ことに今回問題ある作品（とわたしは考えている）も思い切って展示したのだから、作品にまつわる客観的情報として、そうしたものを載せるのはやはりよいことだと思う。充実した静岡県美の狩野派コレクションを見るにつけ、今後とも研究に裏付けられたコレクションの充実を期待する。今回の展示でも近年収蔵された資料が実際に活用されているのは喜ばしい。（榊原委員）

【天地耕作】

まずは、1980年代の末頃から、「天地耕作」という名で、基本的に野外で制作・表現を行うという、独自の活動を行ってきた地元のグループを展覧会で取り上げた積極的な姿勢に敬意を表したい。このグループ本来の活動である山野中での制作活動を美術館の地の利を活かして裏山で新たに「天地耕作七」として実際に展開させただけでなく、館内には、祇園会の「山傘」を思わせるインスタレーション「白蓋（びゃっけ）」という新作を並べ、それらを中心に、「天地耕作」以前のメンバーの作品、今では見たり体験したりすることができない、それ以後の「天地耕作」シリーズの活動を、見応えのある写真と資料で紹介するという、配慮の行き届いた充実した展観であった。美術館という白い箱の外にこそ場を見出している芸術活動を美術館で紹介しようとしたこと自体が、チャレンジであったと思う。彼ら本来の発表現場においては、おそらく感じたであろう肉体の疲労感を伴う観照にまでは及ばないものの、想像で何とか補える場を設定してもらった、意義のある展観であったと思う。（潮江委員）

「天地耕作」は静岡県内で活動した作家であり、静岡県立美術館のAヴァリューでの展示も行っている点で、美術館とのゆかりが深い。村上兄弟と山本とでは制作の姿勢が異なっていることがインタビュー記事などから窺えるが、山本が60年代に静岡で活動したグループ幻触の影響を語っており、1980年代後半から約30年間静岡県内で制作を行った「天地耕作」を位置づける本展覧会は、静岡県立美術館ならではの企画である。

このたびの展覧会のための作品以外はすべて残されていない中で、これまでの制作活動を位置づけようとする企画は多くの困難を伴ったものと予想されるが、制作過程や作品を記録した写真の質が高く、見ごたえのある展示となった。会場は、美術館裏山の屋外作品と「天地耕作」プロジェクトの写真を編年的に展示する構成。第2室に3名が「天地耕作」として活動する以前の作品の写真資料が展示されており、3名各々の初期の興味を伝えることで、その後の展開の違いが理解しやすくなっていた。（山梨委員）

（『静岡県立美術館紀要』No. 39（令和6年3月31日刊行）掲載論文について）

貴家映子「ポール・シニャック作《サン＝トロペ、グリモーの古城について》—明るい廃墟の位置づけをめぐって」

本研究は、充実した基礎資料を駆使し、先行研究をふまえた、示唆するところの多い研究となっている。主題となる古城の景観がそのまま描かれたものではなく、意図をもって生成された作品であることを基礎資料で確認したことで、シニャックの本作品も、印象主義、新印象主義のリアリズムから象徴性、思想性を強調する方向への転換がなされた先に誕生した作品であることを確認・証明した。このことは、所蔵作品研究としてとても意義深い。印象主義、新印象主義の画家たちのリアリズムからの変節は「象徴主義」として説明されてきた。しかし、新印象主義の進歩主義的必然性を唱えた理論家シニャックもまた、同様の志向をもっていたことは、牧歌・楽園思想の復権が繰り返し問われてきた西欧では違和感がないにしても、日本国内の鑑賞者にはあまり認知されていない。こうしたギャップを、展覧会企画などを通して解き明かしていく努力がなされることを願う。（潮江委員）

多面的な視点からコレクションの価値を引き出そうとする、意欲的な問題提起的な好論考である。

「1 構図の成り立ち」に関しては、麓の教会を含めシニャック作品と近似する視点の現代の写真が、インターネット上にも見つけられるため、さらに考察を深められたい。「2 グリモーの特権的トポス」に関しては、同年制作の「ベルトーの松」と対に描かれた意味を絵葉書的な意味だけではなく、時間に関する画家の意識からも掘り下げるべきである。「3 愛書家シニャック」は興味深いのが、2と順序を変えた方が、より考察が深まったであろう。結びにおいて、素描 vs 色彩という、ルネサンスから続く問題と本作を接続した点は興味深く、対象が空間に溶け込む色彩派の延長上に印象派、新印象派、ボナールを捉えるならば、更に考察は発展していくことであろう。

地誌的な問題に関しては、現地調査が望まれよう。モチーフとなった「グリモーの古城」が古今どのように受容されてきたかも、引き続き調査される必要がある。総じて、各章がスケッチ的、問題提起的であるので、それぞれ深堀される余地がある。彩色とデッサンの調和の問題は、本作品の問題だけではなく、シニャック芸術理解の問題として、さらに考察を深め、独立した論考に発展させることもできよう。（栗田委員）

石上充代「木村武山《羽衣》について—天女の図像を中心に—」

木村武山の“羽衣”についてまっとうに絵を見て、自ら感じ、考えたことを天女の図像を中心に記しており、評価できる。仏画には規矩に則って表現がされており、新しい要素を盛り込むことがいささか困難であるが、そこに取り組み、細やかな表現技法を盛りこんで情感あふれる評言に結びつけたとしている。武山は大観、観山、春草の傍らにあって損しているところがあるが、独自の表現を見出しており、それを丁寧に分析している。大事なことであると思う。

古画の持ち味を解析し、現代に生かしていくことは、近代の作家作品を正しく認識するためにも重要である。継続して研究されることを期待する。（金原委員）

木村武山《羽衣》における天女の図像が、法界寺阿弥陀堂《飛天図》と薬師寺《吉祥天像》とを転居としていた事実を指摘、そこから《羽衣》における天女の様式的特質と武山が本図にこめた趣向を読み

解いた。その論旨は明解で、少なくともわたしには十分な説得力を持つ。佳論として評価したい。

近代絵画と云えば、ともすれば画家の創意工夫にのみ焦点が向けられるが、古画学習も実は彼らの制作の重要な手法であった。その点を指摘した論文や展覧会は散発的ではあるが、従来よりあった。今回の石上論文がそうした検討のさらなる呼び水となることを願う。(榊原委員)

新型コロナウイルス感染症の状況は5月7日をもって5類に移行し、令和5年度は予定のプログラムを全て実施することができた。定員の削減などの状況は続いたが、どの事業も中止の判断とはならなかった。

【一般向け】

小学3年生以上を対象とする「わくわくアトリエ」と中学生以上を対象とする「実技講座」は、各企画展の関連事業として行い、実施に際して担当学芸員からのフロアレクチャー等の解説をプログラムの一部に組み込んだ。この取り組みは参加者が展覧会の鑑賞のポイントをつかむことにつながり、制作にも役立つと考えられる。今後も続けることで、参加者のより深い鑑賞や、豊かな制作につなげたい。

「ねんど開放日」「えのぐ開放日」は、応募倍率が高い人気の事業である。後者は通例屋外での実施もあるが、外壁工事のため、室内のみでの実施となった。参加人数は最大40名と定員を絞っていたが、参加者の事後アンケートでは、そのことに対してもっと回数を増やしてほしいとの要望や、満足したとのご意見を数多くいただいた。

「ちょこっと体験」や「創作週間」、「ロダン館デッサン会」の参加者層について述べると、後半になるにつれ新規の参加者が毎回来られる状況が続いた。「ちょこっと体験」は好評で、準備した材料が時間内に尽きてしまう状況であった。また、館外の活動として、浜名湖で開催されたアニマルピック in 浜名湖でアウトリーチを兼ねて、「ちょこっと体験」（所蔵作品の動物画のぬり絵）を実施した。こちらも多めに準備した材料が時間内に尽きてしまうほど好評であった。館内で行っている「ちょこっと体験」とは異なり、屋外の会場で偶然制作に参加された人々が、気軽に作れる作品の出来に感動している姿が印象的であった。

【学校向け】

昨年度途中から開始した「ボランティアスタッフとの鑑賞」の広報は前年度に配布する美術館教室のしおりと当館ウェブサイトしか手段が無く、団体利用申込時に声かけしたものの、申込はなかった。他方で、県総合教育センターや各地区の図工美術会の教員向け鑑賞教育研修を実施することができ、鑑賞教育を中心に学校教育との連携を深めることができた。また、校外学習の一環として「ロダン館ななふしぎ」を希望する学校が、昨年度との開館期間の差をふまえても増加した。学校側の需要が回復してきたことによるのかもしれない。

「ねんど教室」や「えのぐ教室」も昨年度より多くの募集が集まり、台風の影響による1校が辞退したが、それ以外の申し込み団体は全て実施することができた。加えて、活動後に展覧会の観覧を希望する団体が増えていった。

「ロダン館デッサン・スケッチ・クロッキー」は、5つの学校が行った。美術科がある高校や中学校の美術部が主になるが、県東部や西部の地域からも参加があった。また、単学級の中学校が「ロダン館ななふしぎ」とスケッチを行うなど、他の実技室プログラムを連続して受ける学校や、他の美術館が休館をしていることから、当館へデッサン会を希望する学校もあった。

貸出教材の件数も上がり、特に貸出粘土やアートカードの貸し出しは多く、これからもその教育的効果を知る施設からの要請が増えることが予想される。

今後は、プログラムやイベントの回数を検討し、様々な活動を現在のニーズに合った教育プログラムへと変えて実施していく必要性があり、対応が急がれる。

これまでの地域等の連携をさらに深める経営を推進した。

地域・企業等

(1) 県立美術館ボランティア

・開館以来、美術館と来館者、美術館と地域の「かけ橋」としての役割を担っているボランティアについて、令和4年度までは任期を3年間としていたが、令和5年度よりボランティア体制を更新して任期を1年とし、更新可能なものとした。加えて、資格年齢を20歳から18歳に引き下げ、学生等の若者層にも参加しやすいものとした。

選考と研修の結果、令和5年度は125名の方、令和6年度は131名ををボランティアとして登録し、活動していただいている。

・活動方針：「来館者サービスの充実、美術館運営支援、地域連携推進」

(2) 有度山地域に立地する5施設、県立美術館、SPAC、日本平ホテル、日本平動物園久能山東照宮による「有度山フレンドシップ協定」による協働

・今後、企画展との連携事業を検討していく。

(3) 草薙商店会等との協働

・草薙地域で活動しているグループと連携して美術館前の広場でロダン・ウィーク「丘の上のマルシェ」を毎年開催している。

(4) ロダン・ウィーク

平成26年度、開館20周年を契機に開始した「ロダン・ウィーク」。工事休館中であった令和3年度を除いて毎年実施している。

(5) 企画展における企業等との連携による効果

館内レストラン「ロダンテラス」で県産品を使用した特別メニューを企画展ごと計4種類提供した。

ムセイオン静岡

谷田地域の文化教育7機関（県立大学、美術館、中央図書館、埋蔵文化財センター、SPAC、グランシップ、ふじのくに地球環境史ミュージアム）は、谷田の丘陵地帯及びその周辺地域の文化振興やまちづくりに貢献する目的で、「ムセイオン静岡」として相互協力し、文化の丘づくりを推進してきた。

毎年秋に開催している「文化の丘フェスタ」では、他機関と連携して「スタンプラリー」を実施した。

昨年度に引き続き、様々な広報手段を活用し、県内外への広報を推進した。

新たな取組

- ①（一財）静岡新食文化共創機構の企画するガストロノミーツーリズム関連ツアーに協力した。
- ② 浜名湖で行われた一般社団法人のイベントに参加し、専門学校とコラボした。
- ③「東アジア文化都市 2023 静岡県」のイベントとコラボした。
- ④静岡フィルムコミッションを通してロダン館において乃木坂 46 のミュージックビデオの撮影を受け入れたことで、実際の来館や利用者による SNS 発信につながり、ロダン館の魅力発信に大変有益だった。

引き続き実施した広報

- ①ホームページ、フェイスブック、インスタグラム、X（旧ツイッター）、YouTube による情報発信
- ②展覧会等イベント情報のマスコミへの資料提供（記者投げ込み、プレスリリースの利用）
- ③ポスター、チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- ④県広聴広報課との連携（ツイッター、ラジオ、静岡駅地下街ショーケース電照看板、包括連携協定による広報物掲示・配架、P R T I M E S を利用した国内メディア向けオンライン・プレスリリースの配信）
- ⑤広報サポーターへの情報提供
- ⑥展覧会共催者（新聞社・テレビ局）等との連携
- ⑦企画展に関連する講演会・イベントを館内で行い集客を図った。
- ⑧美術館ニュース「アマリリス」の発行
- ⑨インターネットミュージアム等の美術館・博物館情報サイトで展覧会を P R した。
- ⑩事務局を通じた県内 3 大学の学生への広報
- ⑪旅行会社による美術館めぐりツアーへの協力
- ⑫大学の講義内での紹介
- ⑬館内レストランにおいて、企画展ごとに特別メニューの提供

県有文化施設と協働した広報

- ・毎年秋に谷田地域の文化教育 7 機関が「ムセイオン静岡」として連携して取り組んでいる「文化の丘フェスタ」で「スタンプラリー」を実施した。

県立美術館は、令和4年3月に「5ヵ年計画」を策定した。

計画では、美術館の基本理念（美術館の目指す姿）を実現するため、8つの実施方針を定めている。

その一つが「運営」であり、運営基盤の強化を目指すこととしている。

計画期間は令和4年度から8年度までの5年間であり、今までの主な取り組みは以下のとおり。（一部令和3年度に前倒し実施）。

（1）運営基盤の拡充（収入の確保）

- ・令和5年度の天地耕作展では、芸術文化振興基金の助成金交付を受け事業を実施した。
- ・予算外部資金の確保に向けて関係部局と調整し、ふじのくに応援寄附金（個人版ふるさと納税）を美術館基金への積立金とする仕組みを整え、令和5年度は234万2千円の寄附があった。
- ・地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）では、10万円の寄附があり、館蔵品の取得費に充当した。

（2）企業との連携強化による運営の充実

- ・静岡県経営者協会会員の交流会に参加し、館長が講師となって講演を行うとともに、令和5年度の美術館年間スケジュールや企画展のちらしを配布した。
- ・令和6年度企画展への協力を仰ぐため、企業訪問を行い、信頼関係の構築を図った。

第三者評価委員会での主な意見と対応状況

基本方針A：特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します。

1 前回の委員からの意見
・静岡県立美術館がコレクションを貸し出した展覧会をみたが、展覧会会場でとても目立っていた。広報とも関わるが、コレクションを他の展覧会に貸し出す時と、戻って来た時の2回広報すると、それを見た人は、作品に対する印象が変わることはあるのかと思う。(小泉委員)
2 これまでの対応状況
石田徹也作品の海外貸出にあわせてクーリエを担当した学芸員が SNS 投稿をするなど試験的に実施した。定着には至っていない。
3 今後の展開
日常の活動のなかに館の情報発信の好機を見出していく発想の転換を今後とも意識的に行っていく。発信しやすい体制についても検討したい。

基本方針A：特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します。

1 前回の委員からの意見
・大展示室展のような企画を10年後にも開催するために、備品を一気に捨てないで、古いものを片隅でもとっておいて欲しい。美術館活動をアーカイブ化していくという意識を持ち、何かしらそれがストックしていくことで、一つの展覧会につながっていく可能性はあると思う。(小泉委員)
2 これまでの対応状況
大展示室展の開催は美術館にとって貴重な経験となり、活動をアーカイブ化していくことの重要性について意識が高まった。また、提示の仕方の工夫によって美術館の裏側も興味深いテーマとして仕立てられることが分かった。
3 今後の展開
上記の認識を日常の活動のなかに落とし込み今後につなげていく。

基本方針B：人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します。

1 前回の委員からの意見
・コレクションを企画展で見せるというのは、素晴らしいことだと思う。日頃倉庫に眠っているものを、新しい光の下に見せるのはとても重要なことだし、そのお宝を持っている県立美術館なので、ぜひ今後とも有効にみせていただきたいと思います。(松本委員長)
2 これまでの対応状況
令和5年度はコレクションを活用した企画展を2本開催した。「センス・オブ・ワンダー」展では、感覚をテーマとしてコレクションの新たな楽しみ方を提示し、多くの観覧者を得た。「大大名の名宝」展では、永青文庫と当館の狩野派コレクションを組み合わせることで、コレクションの新たな魅力を発掘し、最新の研究成果とともにご覧いただいた。
3 今後の展開
令和6年度は、企画展「カナレットとヴェネツィアの輝き」及び「石崎光瑤」展と同時期の収蔵品展を、企画展の内容にちなんだ関連収蔵品展として開催する。企画展と併せてご覧いただくことで、より深い鑑賞体験を提供することを目指す。

基本方針B：人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します。

1 前回の委員からの意見
・鴻池朋子展は、かなり美術館業界の中で話題になって、たくさんの方がSNSなどですごく良かったという発信がされていた。こういうタイプの現代作家と、ほぼこのためにこの場所のために作った展覧会みたいなものは、やっぱり新しい関心層を耕していくことになると思うので、毎年は大変だと思うのですが、必ず3年に1回ぐらいのペースでやっていくとかすると、確実にその層のファンがこの美術館に関心を持つようになるのではないかと思う。(稲庭委員)
2 これまでの対応状況
鴻池朋子展の開催は美術館にとって貴重な経験となった。「美術館」の前提を疑い、挑んでいく姿勢に刺激を受け、その余韻は響き続けていると感じられる。裏山の活用や障害のある方への対応など、目くばりの幅が広がっている。 令和5年度は、静岡県西部を中心に展開した野外美術制作プロジェクト「天地耕作」に関する展覧会を開催した。当館で検証を進めつつある静岡の現代美術を中心に据えた企画展であったが、展示室内での新作インスタレーションや裏山での野外制作のほか、収蔵品展とも関連させ、ここでしかなしえない内容・構成に仕立てた。
3 今後の展開
鴻池展をはじめとする、新しいチャレンジを盛り込んだ企画展を今後とも継続していきたい。同時に、このような展覧会や事業の実施にあたっては美術館の基礎体力（人材、予算、活力等）が充実していることが不可欠であり、継続性をもって取り組むためには、日頃の美術館活動を堅実に積み重ねていくことが肝要と考える。

基本方針C：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します。

1 前回の委員からの意見
・静岡県は今年度、県立夜間中学を、磐田と三島で開学されたと思います。美術館から距離はあると思いますし、開学直後から落ち着くまでまだちょっと時間がかかるとは思います。今回開学したのは県立の夜間中学なので、ぜひ将来的に何かやれるといいなと思いました。(中村委員)
2 これまでの対応状況
これまでのところ連携等の動きには至っていない。
3 今後の展開
関係機関と連携して今後の課題として取り組む。 学校連携の教育普及プログラムは一部を除き、対象年齢を設けていないため夜間中学校生徒に対しても利用していただくことは可能である。 職員の就業時間が勤務時間外対応となることが懸念される。

基本方針C：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します。

1 前回の委員からの意見
・ボランティアの仕組みを、1年単位での更新制にしたり、年齢を18歳から引き下げて、若い人が参加しやすいようにしたことは、すごくいいことだと思う。若い方にとっても美術館が自分たちの居場所であったり、自分たちの力が発揮できる場になるといいと思いました。(荻原委員)
2 これまでの対応状況
仕組みの変更によりボランティア活動全体の活性化が促され、ボランティアによるオンラインギャラリーツアーや、彫刻プロムナードの屋外ツアー等の試行につながった。
3 今後の展開
高校生向けの活動や、単発事業のための募集など、多様なボランティア活動を設定することで、若年層をはじめとした様々な方と手を携えて、美術館をよりよい場所にしていく活動につなげていきたい。

基本方針C：地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します。

1 前回の委員からの意見
・学校教育との連携で、特別支援学校との連携の割合が高い事は良いことだと思う。特別支援学校は、普通学校より美術・図工の先生の配置が多いが、美術館に行くこと自体が選択肢にあまり入っていないので、それは選択肢に入りますよというのを美術館側が発信してあげると、結構行きたい先生はいると思う。特別支援学校の先生には、生徒にパブリックの場所の経験をさせたいということがあり、館内のレストランやショップなど社会体験として使われることが結構あり、美術館はすごく安全に社会を体験できるような場所として、もっと広がってもいいと思う。(稲庭委員)
2 これまでの対応状況
特別支援学校が利用しやすいプログラムを提供できているものとする。
3 今後の展開
教育普及プログラムのみならず、「安全に社会を体験できる場所」として期待されていることを意識して活動を展開する。特別支援学校の先生方との連携を強めたい。

基本方針D：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

1 前回の委員からの意見
・美術館にどういう人に来てもらいたいのか、その人たちが今どういう状態にいるのか、どういう情報を欲しがっているのか、どのように届けたら一番効率的に情報が伝わるか等、マーケティング戦略についての広い視野を持つ人材が必要。(前田委員) ・広報担当を作るよりも、マーケティングをやるような人材を確保して、美術館としてどうやってマーケティングしていくかということに絞った方がいい。県民が何を望んでいるかということ、まず考えてから動いた方がいい。(櫻井委員)
2 これまでの対応状況
広報は職員の業務の一部として行い、展覧会のテーマと関連の深い県内外の施設をターゲットに広報物を集中的に発送したり、美術・文化関係のメディアへの情報提供に特化した広報会社への情報配信を行っている。 マーケティングに関する人材の確保は積年の課題として認識し、要望しているが、手当されなかった。
3 今後の展開
今後とも必要性について県庁に働きかける。

基本方針D：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

1 前回の委員からの意見
・これから重要になってくるのは、アクセシビリティまで考えたマーケティングをしていくこと。利用者のアクセシビリティを高めていく意識づくりを、館内全体で1回研修みたいなものをしてみると、対応も変わってくるのではないかと思う。(稲庭委員)
2 これまでの対応状況
学芸員が全国美術館会議の研修会に参加し、実際の改善につなげている。 その過程において、館全体で意識を高める必要性が課題として浮かび上がってきた。
3 今後の展開
館全体の研修実施を検討する。

基本方針D：さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

1 前回の委員からの意見
・令和4年度は来館者数がコロナ前に遠く及ばない施設が多い。音楽と美術はどちらにしようとか、全体的に回数を減らそうとか、コロナ以降に行動様式が変わっている可能性があり、広報やマーケティングのやり方もそれに合わせていく必要がある。(田中委員)
2 これまでの対応状況
団体観覧のオリエンテーション依頼や、学校向けボランティアスタッフとの鑑賞など、当館の事業の中でもコロナ禍以前に戻っていない分野があるのが現状である。
3 今後の展開
広報やマーケティングは当館が立ち遅れている分野であり、コロナ禍以降の行動様式にも目配りした手当が必要である。

基本方針E：環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます。

1 前回の委員からの意見
<ul style="list-style-type: none">・資料の中に、5ヵ年計画の内容について、令和4年度の実績がどういう位置付けだったかという評価が見当たらないので、委員の方々がわかる形でこの評価委員会にも出した方がいい。5年後のこうあるべきだという姿形を皆さんでお決めになったわけですから、それに対して令和4年度の段階ではどこまで行ったのかという自己評価をして、分かるような形で表現していただいた方がいいと思う。(櫻井委員)・5ヵ年計画は、今年が2年目で、来年度は中間年度になる。中間年度に向かって何か不具合はないかとか、足りないことはないかというあたりは、来年度に向けて検討して欲しい。(田中委員)
2 これまでの対応状況
<p>各年度における取組実績については別添「年度別計画及び取組実績」のとおりです。 館内施設の改修・整備については中期維持保全計画に基づき対応してきた。 5ヵ年計画の作品の収集については、財源の確保としてふじのくに応援寄附金（個人版ふるさと納税）や地方創生応援寄附金（企業版ふるさと納税）を募り、作品購入費用と活用している。</p>
3 今後の展開
<p>計画の進捗状況を定期的に確認し必要があれば見直しを行っていく。 作品の収集については、財源の確保が大きな課題である。引き続き外部資金の獲得として寄附金を募るが、開館40周年も控えており安定した予算確保に向け県と協議していく。</p>

基本方針E：環境・施設の整備や運営基盤の強化に努めます。

1 前回の委員からの意見
<p>・太田正樹さんのコレクションというのが、これまでにない規模の寄贈であったということで、そういったものに対してプレートを作成するなど、館内に明示をするかしないかということが気になる問題。今後企業との連携も深まっていく中で、何かしらご協力をいただいた企業に対して、その社の名前をどう出すか出さないかということも問題になってくると思う。(小泉委員)</p>
2 これまでの対応状況
<p>通常、美術作品の寄贈をしていただいた場合には、寄贈申出者の意向を確認したうえで、館内の寄贈者一覧プレートに名前を入れて一般公開している。</p> <p>太田氏のご自身の顕彰についてあまり興味をお持ちでなかったため、そのご意向を汲みつつ対応した。今後も、個人であれ団体であれご支援くださる方々との適切なコミュニケーションのもと、きめこまかな対応をしていく。</p> <p>企業との連携については、令和5年度の経営者協会での講演会を嚆矢として館長自ら積極的に取り組み、令和6年度秋の「無言館と、かつてありし信濃デッサン館」展の支援体制が充実したところである。</p>
3 今後の展開
<p>無言館展において企業協賛による各種事業を実施する。その検証を丁寧に行い、今後の展開につなげていくこととする。企業名の掲示のあり方等についても企業側のニーズを探りつつ検討していく。</p> <p>美術館利用者の満足度やの向上や、持続可能な美術館運営を目指すには、企業連携を積極的に取り入れていく必要がある。協力いただいた企業・団体に対しては、館内に企業・団体名を掲示するとともに、アートを身近に感じていただけるよう特別鑑賞会の開催等を検討していきたい。</p>

○その他の意見に対する対応状況

1 前回の委員からの意見
・第1回の東アジア文化都市である横浜市は、その後も、日中韓の都市間交流事業をずっと継続している。東アジア文化都市を1年やって終わりにするのではなく、その先も見据えたことを、ぜひ美術館で考えていただけるといいと思う。(中村委員)
2 対応について
美術館単独での交流事業の展開は難しいが、美術における日中韓の文化交流の歴史は、例えば当館の狩野派コレクションなどに端的に見られるものであり、日本美術の枠にとられない東アジアを意識した美術史について意識的に取り組む。 県立美術館としては、当館のコレクションの中から東アジアに関連した収蔵品を定期的に展示するなど、地域を盛り上げる機運を継続していく。

○その他の意見に対する対応状況

1 前回の委員からの意見
・観光庁の直近の動きを言うと、インバウンドに特化した観光再始動という補助金が出ていて、300件ぐらい全国で採択がされている。国内のリストを見ると地域で協議会みたいなものを作って、普段見せることができないようなものを見せるというツアーを造成したり、高付加価値になるような企画を立てて、海外の人たちに1回来てもらったら多くのお金を支払っていただくような仕組みに対して国は今かなりお金を費やしている。静岡県でも、コンソーシアムを形成したりしながら、そういった国の申請をしたり、仕組みづくりなどを検討してみてはいかがか。(前田委員)
2 対応について
設置者(県)の取組状況「2 文化観光推進法に基づく地域計画の申請について」を参照。

年度別計画及び取組実績

項目	R4(2022)				R5(2023)				R6(2024)				R7(2025)				R8(2026)											
	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四								
1 収集	(1) 作品の収集方法				<p>購入なし(予算手当なし) 寄贈受入76点(約10億) 調査研究推進</p> <p>三井住友信託銀行と遺贈協定の合意・締結</p> <p>ふると納税を活用した企業・個人からの寄附金受入の仕組みを整備</p> <p>収集なし(予算手当なし) 調査のみ実施</p>				<p>調査研究に基づき継続的な収集</p> <p>調査、選定→基金を活用し設定金額の範囲内で収集</p> <p>購入</p> <p>作品購入を記念した展示を行う</p>				<p>調査研究に基づき継続的な収集</p> <p>調査、選定→基金を活用し設定金額の範囲内で収集</p> <p>購入</p> <p>作品購入を記念した展示を行う</p>				<p>調査研究に基づき継続的な収集</p> <p>調査、選定→基金を活用し設定金額の範囲内で収集</p> <p>購入</p> <p>作品購入を記念した展示を行う</p>											
	(2) 開館40周年記念作品の収集				<p>収集なし(予算手当なし) 調査のみ実施</p>				<p>作品購入に向けた予算的・具体的な協議を行う</p>				<p>調査、選定→基金を活用し設定金額の範囲内で収集</p> <p>購入</p> <p>作品購入を記念した展示を行う</p>				<p>調査、選定→基金を活用し設定金額の範囲内で収集</p> <p>購入</p> <p>作品購入を記念した展示を行う</p>											
2 保存	(1) 作品の保管、管理				<p>実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブンゴノンおよびエキキュムによる殺虫作業実施 ・館内外生物環境及び空気環境調査実施 <p>修復実績 6点 496千円</p>				<p>・ブンゴノンによる殺虫作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内外生物環境及び空気環境調査 <p>プリッジ・ギャラリー空調方式の検討</p> <p>修復実績 18点 4,643千円</p>				<p>収蔵スペースの拡張について外部との調整含め検討</p> <p>通常の作品修復</p>				<p>展示室を始めとする館内外の環境の維持、改修</p> <p>通常の作品修復</p>				<p>収蔵スペースの拡張について外部との調整含め検討</p> <p>通常の作品修復</p>				<p>展示室を始めとする館内外の環境の維持、改修</p> <p>通常の作品修復</p>			
	(2) 作品の修理、修復				<p>修復実績 6点 496千円</p>				<p>修復実績 18点 4,643千円</p>				<p>修復に複数年を要する作品の計画的な修復</p>				<p>修復に複数年を要する作品の計画的な修復</p>				<p>修復に複数年を要する作品の計画的な修復</p>							
	(3) 情報の保存とアーカイブの構築				<p>アーカイブ作業</p> <p>収蔵品データベース情報更新(画像追加等)</p>				<p>彫刻プロムナード彫刻作品の状態調査</p> <p>高額を要する修復作品のリストアップ</p> <p>4月: 収蔵品データベース新登録録分公開・登録情報更新</p>				<p>修復費用確保のためのクラウドファンディング導入</p> <p>彫刻プロムナード彫刻作品の修復</p> <p>所蔵作品、書籍等の美術関係資料のデジタル化・データの更新</p> <p>高精度画像追加</p>				<p>彫刻プロムナード彫刻作品の修復</p> <p>所蔵作品、書籍等の美術関係資料のデジタル化・データの更新</p> <p>高精度画像追加</p>				<p>彫刻プロムナード彫刻作品の修復・整備完了</p> <p>所蔵作品、書籍等の美術関係資料のデジタル化・データの更新</p> <p>高精度画像追加</p>				<p>彫刻プロムナード彫刻作品の修復・整備完了</p> <p>所蔵作品、書籍等の美術関係資料のデジタル化・データの更新</p> <p>高精度画像追加</p>			

年度別計画及び取組実績

項目	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)
3 展示	<p>大展示室展</p> <p>兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～</p> <p>絶景を描く 一江戸時代の風景表現</p> <p>みる誕生 鴻池朋子展</p> <p>近代の誘惑 一日本画の実践</p> <p>新収蔵品展</p> <p>絶景考 I・II</p> <p>朝川図と 蘭亭曲水図</p> <p>光一 The Light</p>	<p>センス・オブ・ワンダー :感覚で味わう美術</p> <p>糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。</p> <p>大木の名宝 永青文庫 x 静岡県美の狩野派展</p> <p>天地耕作展(仮)</p> <p>新収蔵品展</p> <p>太田正樹コレクション展</p> <p>美術館のなか</p> <p>版画でひもとく聖書と神話:テューラー</p> <p>静岡の現代美術と1980年代</p> <p>9/3～9/14 小山市総合文化会館</p> <p>9/22～10/1 沼津市民文化センター</p>	<p>テオ・ヤンセン展</p> <p>カナレット展</p> <p>無言館展</p> <p>石崎光瑤展</p> <p>40周年記念 企画展準備 チーム立上げ、研究会実施</p> <p>新収蔵品展</p> <p>ピラネージとローマの景</p> <p>ロダン館30周年 記念 描く、作る、変化する:地獄の門ができるまで:素描、試作から完成へ</p> <p>第1部 異国への眼差し / 第2部 殉難たる花鳥図</p> <p>9/14～9/29 島田市金谷生きたがいセンター (初の試みとなる若手アーティスト2名による展示)</p>	<p>コレクションを核とした展覧会、学芸員の自主企画による展覧会を実施</p> <p>海外文明展</p> <p>県ゆかりの現代作家展</p> <p>40周年記念企画展の準備</p> <p>新収蔵品展</p> <p>障害のある方を 含む多様な鑑賞者を想定した展示</p> <p>各ジャンルの作品をバランスよく展示 コレクションの新たな価値や楽しみ方の発見に結びつくプログラムの実施</p> <p>県内美術館、公共施設で開催 (年間1～2回)</p>	<p>40周年記念 企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当館の歴史と特色を生かした展覧会 ・コレクションの新たな価値を発信する展覧会 ・幅広く多様な文化に触れる展覧会 <p>新収蔵品展</p> <p>コレクション形成の歴史を検証し、今後の収集活動へとつなげる展示</p> <p>・コレクションの魅力を発見し、広その価値を還元する展示</p>
	(1) 企画展	(2) 収蔵品展	(3) 移動美術展		

年度別計画及び取組実績

項目	R4(2022)				R5(2023)				R6(2024)				R7(2025)				R8(2026)			
	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四
4 教育普及	<p>(1) 館内での取り組み</p> <p>【評価指標7】目標値 コレクションを活用した教育プログラム 16件 【評価指標18】 学校教育と連携した取組 91件、9,433人 【評価指標19】 鑑賞系プログラム実施数 17件 【評価指標22】 講演会等の開催件数 79件</p>				<p>【評価指標7】目標値 コレクションを活用した教育プログラム 20件 【評価指標18】 学校教育と連携した取組 120件 【評価指標19】 鑑賞系プログラム実施数 17件 【評価指標22】 講演会等の開催件数 100件</p>				<p>ロタン館30周年記念ロタンウィーク</p> <p>高齢者等多様な利用者のためのプログラム開発</p>				<p>高齢者等多様な利用者のためのプログラム実施</p>							
	<p>(2) 館外での取り組み</p> <p>出張講座 6件305人 Webコンテンツの開発 2件 教材キット貸出 27件2,221人 教員研修協力 4件57人</p>				<p>一般向け/学校向けWebコンテンツの開発</p> <p>ポランティアによるオンラインギャラリートナー及び彫刻プログラムナードツアアの試行</p>				<p>【一般向け】講演会、美術講座、ポランティアによるギャラリートナーロタン館デッサン会、実技講座、ねんど・えのぐ開放日 などの実施 【学校向け】ねんど・えのぐ教室、ロタン館デッサン、ポランティアスタッフとの鑑賞 学芸員資格取得のための博物館実習の受け入れ などの実施</p>				<p>【一般向け】移動美術展での関連イベントの実施、出張講座などの実施 Webコンテンツの開発 【学校向け】オリジナル教材キットの貸出、出張美術講座、図工・美術などの授業への協力、教員研修協力</p>							
5 調査研究	<p>(1) 調査研究</p> <p>学芸語研究会 12回 他の美術館、大学と連携した取組 3件 紀要の発行 など</p> <p>収蔵品に関するシンポジウム開催および記録集の刊行</p>				<p>学芸語研究会 12回 他の美術館、大学と連携した取組 3件 紀要の発行 など</p> <p>調査研究に基づく自主企画展 3本</p>				<p>展覧会、教育普及事業等を通じた学芸員の調査研究結果の発表</p>											
	<p>(2) 書庫・図書室</p> <p>図書購入予算 1,159千円</p> <p>蔵書データベース新規分入力</p> <p>新規ボランティア募集 (閲覧室担当含む)</p>				<p>図書購入予算 1,000千円</p> <p>蔵書データベース新規分</p>				<p>専門書籍の雑誌情報約6,000冊分を追加公開</p> <p>図書、作品資料の収集 図書データのデジタル化及び公開</p>				<p>閲覧室の整備 ・検索機能の拡充 ・情報コーナーと連動した機能強化</p> <p>蔵書データベース新規分</p>				<p>蔵書データベース 全点登録・公開完了</p>			

年度別計画及び取組実績

項目	R4(2022)				R5(2023)				R6(2024)				R7(2025)				R8(2026)			
	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四
6 広報	(1) 広報体制の充実				<p>広報アドバイザーによる効果的なSNS運用</p>				<p>広報専門人材の配置要求</p>				<p>外部専門家を活用した戦略的な広報の展開</p>							
					<p>デジタルアーカイブ情報発信 作品作家情報公開更新288件 現代美術関連資料公開9,534件 図書情報公開23,293件</p>				<p>デジタルアーカイブ情報発信 作品作家情報公開更新749件 現代美術関連資料公開12,088件 図書情報公開29,923件</p>											
	(2) 情報発信機能の強化				<p>県内小中高、特別支援校へ美術館情報を提供</p>				<p>県内小中高、特別支援校へ美術館情報を提供</p>				<p>SNS等で常に最新情報を発信、デジタルアーカイブを活用した情報発信</p>							
					<p>県立大、文芸大、常葉大等学生向け展覧会情報を提供</p>				<p>県立大、文芸大、産業大等学生向け展覧会情報を提供</p>											
(3) 教育機関との連携				<p>大学への学委員の出講 ・県立大学(6月、11月) ・静岡大学(5月、12月) ・県文芸大学(6月、1月) ・東京芸芸大学(4月)</p>				<p>大学への学委員の出講 ・県立大学(6月、7月) ・静岡大学(5月、6月、1月) ・常葉大学(7月)</p>				<p>県内すべての小中高への美術館情報の定期的な提供 県内大学との連携、学生への情報提供、学生による情報発信</p>								
				<p>ロダンウィークで地元草薙の団体と連携(11月)</p>				<p>ロダンウィークで地元草薙の団体と連携(11月)</p>												
(4) 観光業界、アーツカウンシルしずおか等との連携				<p>ロダンウィークで地元草薙の団体と連携(11月)</p>				<p>ロダンウィークで地元草薙の団体と連携(11月)</p>				<p>観光デジタルプラットフォームを活用した情報の提供 県下の多様な文化芸術活動、美術館周辺地域の団体等との連携</p>								
				<p>県観光協会と連携 教育旅行用資料作成(12月)</p>				<p>県観光協会と連携 教育旅行用資料作成(7月)</p>												

年度別計画及び取組実績

項目	R4(2022)				R5(2023)				R6(2024)				R7(2025)				R8(2026)											
	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四								
7 環境・施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ロダン館1階ホール照明更新工事 監視カメラ更新工事 ファンコイルユニット更新工事 レストラン給排水管更新工事 トイレ洋式改修工事等 				<ul style="list-style-type: none"> 本館外壁タイル他修繕工事 本館非常用発電設備更新工事 本館吸収式冷温水発生機他更新工事 本館送風機更新工事 本館レストラン空調機更新工事 ロダン館屋根立木部分防水修繕工事 ロダン館調光装置修繕工事 本館展示室ガラスケースドアアゴム取替改修工事 本館ラウンジ他窓サッシ改修工事 				<p>中期維持保全計画(R3~R7)に基づく施設の改修</p> <p>次期中期維持保全計画策定のための劣化診断</p> <ul style="list-style-type: none"> 講堂舞台音響設備更新工事 講堂舞台照明設備更新工事等 				<p>中期維持保全計画(R3~R7)に基づく施設の改修</p> <p>次期中期維持保全計画策定</p> <ul style="list-style-type: none"> 電流ボイラー更新工事 ロダン館受変電設備他更新工事 収蔵庫センサー修繕工事等 				<p>施設の修繕、美術館園地の整備</p>				<p>彫刻プロムナムード環境整備(作品修復、文化観光推進事業と運動)</p>				<p>次期計画(5年)に基づく改修</p>			
	<p>館内の通信状況の改善</p> <p>キャッシュレス決済導入</p>				<p>館内写真撮影基準の改善</p> <p>キャッシュレス決済拡充</p> <p>展覧会限定メニュー提供</p>				<p>情報コーナー改装・利用目的拡充</p> <p>シェアサイクルステーション設置検討</p>				<p>来館者の意見等に対する対応</p>				<p>駐車場、収蔵庫整備の検討</p>				<p>収入確保の取組(外部資金の確保、法人メンバーシップ)</p>							
	<p>第三駐車場等白線引き直し</p>				<p>バス乗り場、駐輪場の塗り替え</p>				<p>ふじのくに応援寄附金(個人)積立制度</p> <p>芸術文化振興基金から助成</p> <p>文化観光推進事業(文化庁補助事業)の検討</p>				<p>文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業(文化庁補助事業)活用</p>				<p>事業の効率化及び経費削減の取組</p>				<p>事業実施(企業等への学芸員の派遣)</p>							
8 運営	<p>「朝川園と蘭亭曲水園」展でタカシマヤ文化基金から助成</p>				<p>経営者協会に令和4年度美術館年間スケジュールや企画展のちらしを配布</p>				<p>「朝川園と蘭亭曲水園」展でタカシマヤ文化基金から助成</p>				<p>経営者協会に令和4年度美術館年間スケジュールや企画展のちらしを配布</p>				<p>経営者協会交流会3会場でセミナー講師として館長が講演</p>				<p>企業協賛を活用した企画展イベントの充実</p>							
	<p>ペーパーレス化の推進</p> <p>郵送物発送方法見直し</p>				<p>広報物送付先の見直し</p>				<p>広報物送付先の見直し</p>				<p>広報物送付先の見直し</p>				<p>広報物送付先の見直し</p>											
	<p>経営者協会に令和4年度美術館年間スケジュールや企画展のちらしを配布</p>				<p>経営者協会に令和4年度美術館年間スケジュールや企画展のちらしを配布</p>				<p>経営者協会に令和4年度美術館年間スケジュールや企画展のちらしを配布</p>				<p>経営者協会に令和4年度美術館年間スケジュールや企画展のちらしを配布</p>				<p>経営者協会に令和4年度美術館年間スケジュールや企画展のちらしを配布</p>											

歳入予算

一般会計

区分	調定額 A 円	収入		納期後 C 円
		納期内 B 円	納期外 円	
款 08 使用料及び手数料	1,769,720	1,766,720		3,000
項 01 使用料	1,769,720	1,766,720		3,000
目 04 スポーツ・文化観光使 用料	1,769,720	1,766,720		3,000
01 美術館観覧料	251,300	248,300		3,000
02 美術館使用料	1,419,800	1,419,800		0
06 庁舎等使用料	98,620	98,620		0
款 10 財産収入	146,972	30,786		116,186
項 02 財産売却収入	146,972	30,786		116,186
目 04 その他財産売却収入	146,972	30,786		116,186
01 美術館図録売却収入	146,972	30,786		116,186
款 14 諸収入	271,539	264,769		0
項 07 雑入	271,539	264,769		0
目 02 雑入	271,539	264,769		0
87 保険料負担金	60,697	60,697		0
非常勤職員	60,697	60,697		0
90 雑収	210,842	204,072		0
計	2,188,231	2,062,275		119,186

執行状況調

(令和6年度)
(令和6年5月31日現在)

不納欠損額 D 円	収入		額 計	収入歩合 $\frac{B+C}{A-D-F}$ %	納期内収入率 $\frac{B}{A-D-F}$ %
	納期限経過 E 円	納期限未到来 F 円			
0	0	0	0	100.0	99.8
0	0	0	0	100.0	99.8
0	0	0	0	100.0	99.8
0	0	0	0	100.0	98.8
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	20.9
0	0	0	0	100.0	20.9
0	0	0	0	100.0	20.9
0	0	0	0	100.0	20.9
0	0	6,770	6,770	100.0	100.0
0	0	6,770	6,770	100.0	100.0
0	0	6,770	6,770	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	0	0	100.0	100.0
0	0	6,770	6,770	100.0	100.0
0	0	6,770	6,770	100.0	94.5

歳出予算執行状況調

(令和6年度)
(令和6年5月31日現在)

区	分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
		円	円	円	
款	04 経営管理費	3,070,418	190,702	2,879,716	
項	01 経営管理費	3,070,418	190,702	2,879,716	
目	01 一般総務費	3,070,418	190,702	2,879,716	
	01 報酬	1,728,000	148,048	1,579,952	
	03 非常勤職員報酬	1,728,000	148,048	1,579,952	
	03 職員手当等	623,000	0	623,000	
	01 その他の職員手当等	623,000	0	623,000	
	04 共済費	695,418	40,654	654,764	
	01 地方公務員共済組合に 対する負担金	142,000	15,650	126,350	
	02 報酬、給料及び賃金に 係る社会保険料	553,418	25,004	528,414	
	08 旅費	24,000	2,000	22,000	
	01 その他の旅費	24,000	2,000	22,000	
款	06 スポーツ・文化観光費	410,661,000	61,211,383	349,449,617	
項	03 文化費	410,661,000	61,211,383	349,449,617	
目	01 文化事業費	18,321,000	99,000	18,222,000	
	08 旅費	16,000	0	16,000	
	01 その他の旅費	16,000	0	16,000	
	10 需用費	2,994,000	0	2,994,000	
	01 その他の需用費	2,986,000	0	2,986,000	
	02 食糧費	8,000	0	8,000	
	11 役務費	7,811,000	99,000	7,712,000	
	12 委託料	4,000,000	0	4,000,000	
	18 負担金、補助及び交付 金	3,500,000	0	3,500,000	
目	04 美術館費	392,340,000	61,112,383	331,227,617	
	01 報酬	13,132,000	1,643,616	11,488,384	
	02 委員報酬	146,000	0	146,000	
	03 非常勤職員報酬	12,986,000	1,643,616	11,342,384	
	03 職員手当等	2,172,000	0	2,172,000	

ZIR0030
ZIRB0030

(令和6年度)
(令和6年5月31日現在)

区	分	令 達 予 算 額	支 出 済 額	支 出 未 済 額	摘 要
		円	円	円	
	01 その他の職員手当等	2,172,000	0	2,172,000	
	04 共済費	2,625,000	129,099	2,495,901	
	01 地方公務員共済組合に 対する負担金	900,000	46,622	853,378	
	02 報酬、給料及び賃金に 係る社会保険料	1,725,000	82,477	1,642,523	
	07 報償費	5,664,000	124,500	5,539,500	
	01 その他の報償費	5,589,000	124,500	5,464,500	
	02 買上金	75,000	0	75,000	
	08 旅費	4,577,000	104,851	4,472,149	
	01 その他の旅費	2,076,000	68,853	2,007,147	
	02 普通旅費	2,501,000	35,998	2,465,002	
	10 需用費	78,458,000	4,606,545	73,851,455	
	01 その他の需用費	78,420,000	4,606,545	73,813,455	
	02 食糧費	38,000	0	38,000	
	11 役務費	18,982,000	424,352	18,557,648	
	12 委託料	209,040,000	15,344,729	193,695,271	
	13 使用料及び賃借料	1,983,000	233,941	1,749,059	
	14 工事請負費	2,690,000	0	2,690,000	
	17 備品購入費	5,501,000	24,750	5,476,250	
	18 負担金、補助及び交付 金	47,503,000	38,476,000	9,027,000	
	26 公課費	13,000	0	13,000	
款	11 教育費	1,486,000	115,681	1,370,319	
項	09 社会教育費	1,486,000	115,681	1,370,319	
目	02 図書館費	1,486,000	115,681	1,370,319	
	12 委託料	1,486,000	115,681	1,370,319	
	計	415,217,418	61,517,766	353,699,652	

ZIR0030
ZIRB0030

令和5年度 設置者（県）の取組状況

1 東アジア文化都市事業の実施

令和5年に開催した「東アジア文化都市 2023 静岡県」は、事業数 979 本、来場者数 1,345 万人、経済効果 389 億円と、これまでの開催都市を大きく上回る事業を実施し、幅広く文化活動を展開することができました。

東アジア文化都市実行委員会の委員として、木下館長も文化施設の代表として名を連ね、県立美術館で開催する企画展やイベントは、東アジア文化都市のコア事業として位置付け、広く情報発信を行いました。

11月に県立美術館で開催した「ロダンウィーク」では、一般社団法人アジア芸術文化促進会と連携して、中国の選定都市である成都市・梅州市の伝統文化を紹介するイベントも併せて実施し、文化交流を通じ本年度 30 周年を迎えるロダン館のPRにも繋げる事ができました。

東アジア文化都市 2023 静岡県を通じて生まれたつながりや取組を一過性のものとすることなく、文化で地域を盛り上げる機運を継続し、地域に根ざすことのできる仕組みを構築することを目指していきます。

「東アジア文化都市 2023 静岡県」の実績

区 分	目標値	実績値
事業数	500 事業以上	979 本
来場者数	360 万人以上	1,345 万人
経済効果	100 億円以上	389 億円

＜参考＞直近の先催都市の実績

区 分	R 元	R2, 3	R4	R5	過去最高
開催都市	豊島区	北九州市	大分県	静岡県	—
事業本数	397 本	214 本	非公表	979 本	397 本
来訪者数	353 万人	164 万人	非公表	1,345 万人	357 万人
経済効果	約 9 億	約 16 億	非公表	389 億円	約 91 億

2 文化観光推進法に基づく地域計画の申請について

県立美術館をはじめとした多くの文化資源が集積する日本平周辺の地域としての連携を強化し、文化観光の振興と地域の活性化につなげることを目的として、文化観光推進法に基づく地域計画を令和6年6月に文化庁に申請しました。

今回の申請については、残念ながら認定にいたりませんでした。今後も引き続き、県立美術館をはじめとした周辺文化施設、観光施設、観光事業者、交通事業者等との連携を深め、日本平地域の文化観光を推進し、国内外からの来訪者を増やしていきたいと考えております。

3 美術館の修繕

県立美術館は昭和61年4月に開館し、令和5年度で37年目となりました。そこで、文化政策課では、資産経営課と連携し、令和元年度に行った劣化診断業務委託の結果をもとに中期維持保全計画（5年間の修繕計画）を策定し、修繕工事などを計画的に進めています。

(1)劣化診断の結果 (R1)

区分	部材・設備機器	症状	対応方針	実施(予定)
建築	展示移動壁	穴・補修跡が相当数あり	改修	R3 済
	乗用・荷物用エレベータ	耐用年数超過	更新	R3 済
	外壁タイル剥離	外壁全面打診調査(R2)結果により実施	改修	R5 済
電気	監視カメラ設備	保守部品入手不可・機能低下	更新	R4 済
	展示室スポットライト	照明効率の低下	更新	R3 済
機械	吸収式冷凍機・スクリーユ冷凍機	故障頻発、劣化	更新	R5 済
	ハロゲン消火装置	耐用年数超過	更新	R3 済
	ファンコイルユニット	故障頻発	更新	R4 済
舞台	講堂舞台照明	保守部品入手不可、劣化	更新	R6
	講堂舞台音響設備	故障、保守部品入手不可	更新	R6

(2) 中期維持保全計画

(単位：千円)

	R2	R3	R4	R5	R6	合計
委託料	9,767	4,802	10,848	6,026	0	31,443
工事費	170,797	240,511	153,533	311,256	184,000	1,060,097
合計	180,564	245,313	164,381	317,282	184,000	1,091,540

(3) 令和5年度の美術館改修工事

項 目	内 容
工事期間	令和5年12月～令和6年2月（3ヶ月）
金 額	311,256 千円
改修工事 の内容	本館非常用発電設備更新、本館外壁タイル他修繕、本館 吸収式冷温水発生機（R-4）他更新など

令和5年度
静岡県立美術館評価業務
報告書

令和6年3月
静岡県立美術館

令和5年度 静岡県立美術館評価業務報告書

目次

1	調査概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 実施概要	1
	(3) 報告書内のデータ記述について	1
2	調査結果概要	2
	(1) 結果概要	2
	(2) 提言	2
3	美術館評価指標の現状値	3
4	展覧会アンケート結果	4
	(1) 回収状況	4
	(2) 観覧者の属性	6
	F 1 性別	6
	F 2 年齢	8
	F 3 居住地	10
	(3) 観覧者の行動	12
	Q 1 今回の来館回数	12
	Q 1-1 1年以内の来館回数(今回を除く)	13
	Q 2 来館人数	14
	Q 2-1 当日の来館の同行者(複数回答可)	16
	Q 3 この展覧会への来館理由	19
	Q 3-1 勧誘の手段(複数回答可)	22
	(4) 展覧会への評価	25
	Q 4 「風景とロダンの美術館」としての認知度	25
	Q 5① 作品やテーマへの興味・関心の深まり	27
	Q 5② 会場における観覧時の心地よさ	29
	Q 5③ スタッフの対応の適切さ	31
	Q 5④ 展覧会のことを勧めたいか	33
	Q 5⑤ 情報の入手しやすさ	35
	Q 5⑥ 来館の際の主な交通手段	37
	Q 5⑦ 交通機関の利用のスムーズさ(※令和4年度では、公共交通機関の回答者のみが回答しています)	39
	Q 5⑧ 満足度	41

5	レストラン、ミュージアム・ショップアンケート結果.....	43
	Q 7 レストランの満足度.....	43
	Q 7 ミュージアム・ショップの満足度.....	47
6	追加設問アンケート結果.....	51
	Q 6 ① ご来場前に最も関心のあったもの.....	51
	Q 6 ② ご覧になって、最も良かったもの.....	52
7	自由意見.....	53
	<A 感想>.....	53
	【1 今回の展覧会】.....	53
	【2 企画全般】.....	56
	【3 展示方法】.....	56
	【4 施設・環境】.....	57
	【5 運営・スタッフ】.....	58
	<B 要望>.....	59
	【1 今回の展覧会】.....	59
	【2 企画全般】.....	59
	【3 展示方法】.....	60
	【4 施設・環境】.....	61
	【5 運営・スタッフ】.....	62
	<C 苦情>.....	62
	【1 今回の展覧会】.....	62
	【2 企画全般】.....	62
	【3 展示方法】.....	62
	【4 施設・環境】.....	63
	【5 運営・スタッフ】.....	63

1 調査概要

(1) 調査目的

静岡県立美術館では、評価委員会提言「評価と経営の確立に向けて」（平成17年3月）を踏まえ、館長公約を柱とする自己評価システムの体系を構築している。

今般、館の全体像を把握する評価指標を整理するためアンケートを実施した。

(2) 実施概要

	センス・オブ・ワンダー 感覚で味わう美術	糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。	大大名の名宝 永青文庫×静岡県美の狩野派展
会期	令和5年4月18日 ～7月9日	令和5年7月25日 ～9月18日	令和5年10月17日 ～令和5年12月10日
開催日数	83日	56日	55日
観覧者数	16,404人	13,431人	8,179人
1日当たりの平均観覧者数	198人/日	240人/日	149人/日
アンケート実施数	75件	268件	236件
回収率 ※観覧者数に占める実施の割合	0.5%	2.0%	2.9%

展覧会開催中、調査票を出入り口付近に置き、来館者の自記式により調査を行った。

(3) 報告書内のデータ記述について

- ・比率は全て百分率で表し、小数第2位を四捨五入して算出した。そのために、比率の合計が100%にならないことがある。
- ・基数とすべき実数は、表中に「件数」として記載した。比率はこの基数を100%として算出している。
- ・質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常100%を超える場合がある。

2 調査結果概要

(1) 結果概要

	センス・オブ・ワンダー 感覚で味わう美術		糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。		大大名の名宝 永青文庫×静岡県美の狩野派展	
①展覧会満足度（展覧会別）	81.3%		88.4%		89.4%	
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
②展覧会満足度（経年）	85.0%	84.4%	88.0%	85.7%	87.9%	
③レストラン満足度	63.0%	11.7%	9.4%	9.2%	10.4%	
④ミュージアム・ショップ満足度	94.0%	49.1%	39.2%	19.2%	35.8%	
⑤ホームページ満足度	62.5%	71.8%	70.6%	—	—	

(2) 提言

満足度と評価の相関係数

問	Q 5 ①	Q 5 ②	Q 5 ③	Q 5 ④	Q 5 ⑤	Q 5 ⑦
評価	作品やテーマへの興味・関心の深まり	会場における観覧時の心地よさ	スタッフの対応の適切さ	展覧会のことを誰かに勧めたいか	美術館に関する情報の入手しやすさ	交通機関の利用のスムーズさ
センス・オブ・ワンダー 感覚で味わう美術	0.436	0.574	0.504	0.726	0.352	0.287
糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。	0.553	0.609	0.614	0.637	0.410	0.492
大大名の名宝 永青文庫×静岡県美の狩野派展	0.339	0.502	0.426	0.338	0.305	0.495
全体	0.457	0.572	0.533	0.566	0.361	0.451

※算出方法：展覧会の評価【Q 5 ①～⑦】の5段階評価を1点～5点に置き換えて相関係数を算出した。欠損値は除いて計算した。

※相関係数：-1～1をとる係数で、0に近いほど相関は薄い。1に近づくほど正の相関が、-1に近づくほど負の相関がある。(0.0～±0.2…ほとんど相関がない／±0.2～±0.4…やや相関がある／±0.4～±0.7…相関がある／±0.7～±0.9…強い相関がある／±0.9～±1.0…極めて強い相関がある)

相関係数をみると、評価が高いほど満足度も高い傾向にある項目は、下表のとおり。

センス・オブ・ワンダー 感覚で味わう美術	1位	展覧会のことを誰かに勧めたいか	0.726
	2位	会場における観覧時の心地よさ	0.574
	3位	スタッフの対応の適切さ	0.504
糸で描く物語 刺繍と、絵と、ファッションと。	1位	展覧会のことを誰かに勧めたいか	0.637
	2位	スタッフの対応の適切さ	0.614
	3位	会場における観覧時の心地よさ	0.609
大大名の名宝 永青文庫×静岡県美の狩野派展	1位	会場における観覧時の心地よさ	0.502
	2位	公共交通機関の利用のスムーズさ	0.495
	3位	スタッフの対応の適切さ	0.426
全体	1位	会場における観覧時の心地よさ	0.572
	2位	展覧会のことを誰かに勧めたいか	0.566
	3位	スタッフの対応の適切さ	0.533

3 美術館評価指標の現状値

		R4実績	R5実績	展覧会				
				A*	B*	C*		
A	2	展覧会リピート率	77.2%	72.5%	82.7%	65.7%	77.1%	
	3	展覧会満足度	85.7%	87.9%	81.3%	88.4%	89.4%	
	8	鑑賞環境満足度	85.3%	91.7%	84.0%	92.5%	93.2%	
B	23	風景美術館認知度	68.0%	66.8%	66.7%	64.9%	69.1%	
C	25	情報が「入手しやすい」	75.5%	79.1%	76.0%	82.5%	76.3%	
	26	公共交通機関アクセス満足度	80.9%	74.5%	77.8%	77.1%	69.8%	
	27	自家用車アクセス満足度	-	70.8%	70.6%	71.0%	70.7%	
	29	スタッフ対応満足度	84.0%	87.9%	84.0%	88.1%	89.0%	
	34	レストラン満足度	38.1%	47.2%	50.0%	41.4%	52.7%	
	36	ミュージアム・ショップ満足度	53.3%	65.1%	68.4%	63.2%	66.4%	
D	46	ホームページ満足度	-	-				
	51	展覧会での新規観覧者の割合	22.4%	26.8%	17.3%	32.8%	22.9%	
	52	展覧会での新規観覧者満足度	87.8%	89.0%	84.6%	92.0%	85.2%	
	53	地域別利用者割合	東部	15.3%	14.3%	14.7%	15.3%	13.1%
			中部	55.1%	53.0%	62.7%	52.2%	50.8%
			西部	17.0%	11.4%	8.0%	9.7%	14.4%
			県外	11.6%	20.0%	12.0%	21.6%	20.8%
54	2・3世代観覧割合	32.3%	49.5%	38.6%	60.1%	38.8%		

*展覧会A・・・センス・オブ・ワンダー

展覧会B・・・糸で描く物語

展覧会C・・・大大名の名宝

※公共交通機関アクセス満足度は、公共交通機関を利用した人を母数として集計をしています。同様に自家用車アクセス満足度は、自家用車を利用した人を母数として集計しています。

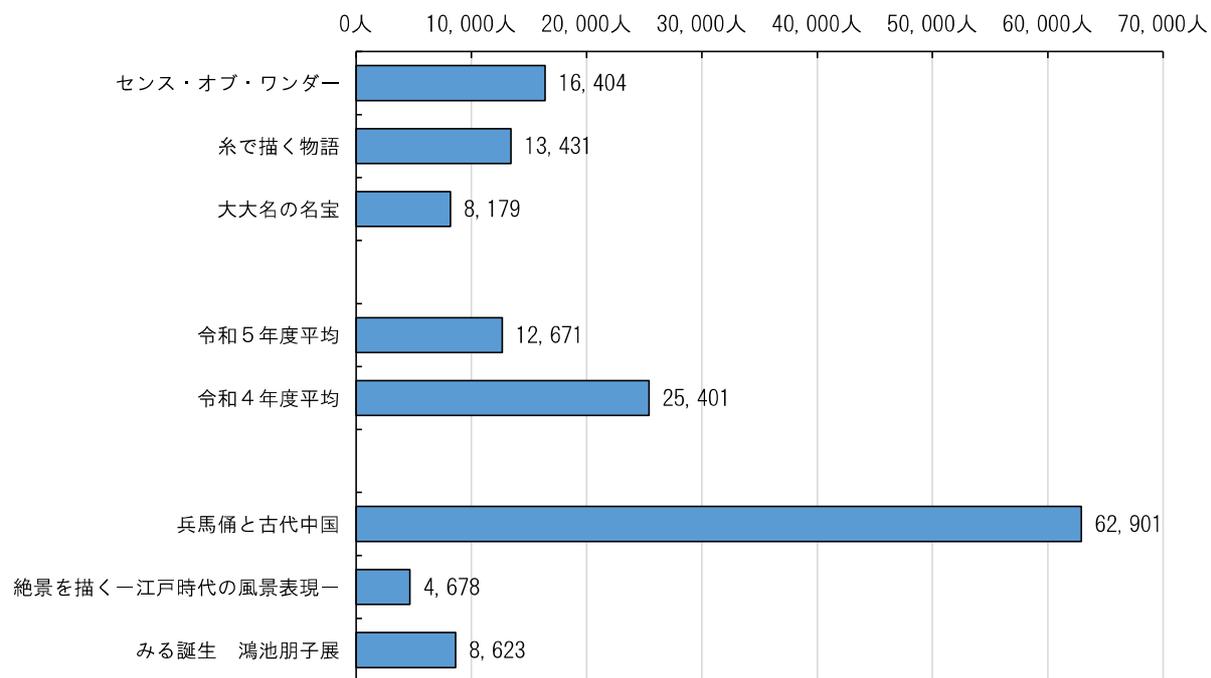
※レストラン満足度は、レストランを利用した人を母数として集計しています。同様にミュージアムショップ満足度は、ミュージアムショップを利用した人を母数として集計しています。

※2・3世代観覧割合は、同行者に親、子、孫、祖父母、その他親族を含んだ場合の人数を来館者の内同伴者がいた人数で割り、算出しています。

4 展覧会アンケート結果

(1) 回収状況

		観覧者数 (人)	回収数 (件)	回収率 (%)
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	16,404	75	0.5
	糸で描く物語	13,431	268	2.0
	大大名の名宝	8,179	236	2.9
経年	令和5年度平均	12,671	193	1.8
	令和4年度平均	25,401	98	0.4
令和4年度	兵馬俑と古代中国	62,901	233	0.4
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	4,678	22	0.5
	みる誕生 鴻池朋子展	8,623	39	0.5



(2) 観覧者の属性

F 1 性別

全体

		件数 (件)	男性	女性	その他	無回答
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	75	28.0	65.3	2.7	4.0
	糸で描く物語	268	32.1	65.3	1.5	1.1
	大大名の名宝	236	35.2	64.0	0.4	0.4
経年	令和5年度	579	32.8	64.8	1.2	1.2
	令和4年度	294	41.8	56.8	1.0	0.3
令和4年度	兵馬俑と古代中国	233	40.3	58.8	0.9	0.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	22	54.5	40.9	4.5	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	43.6	53.8	0.0	2.6

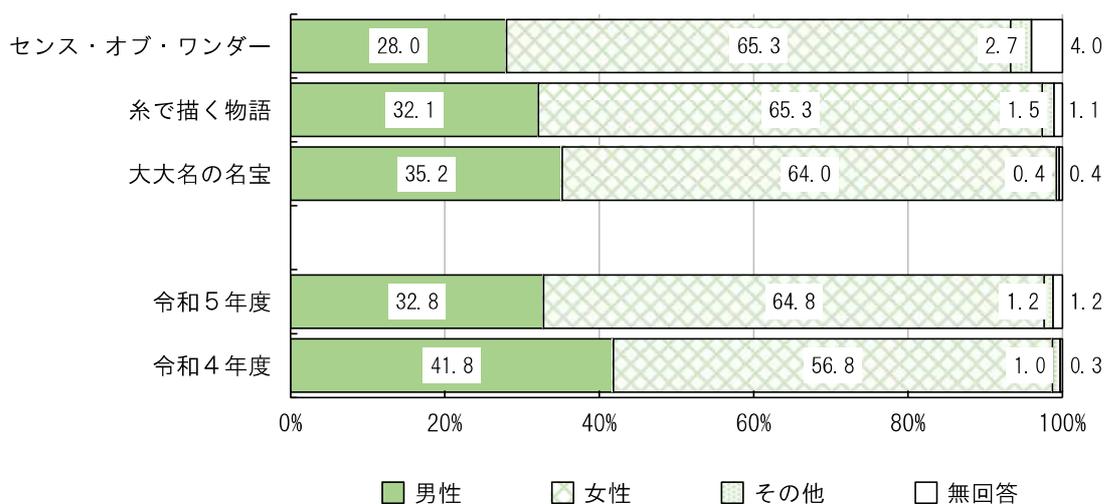
単位：％

新規来館者

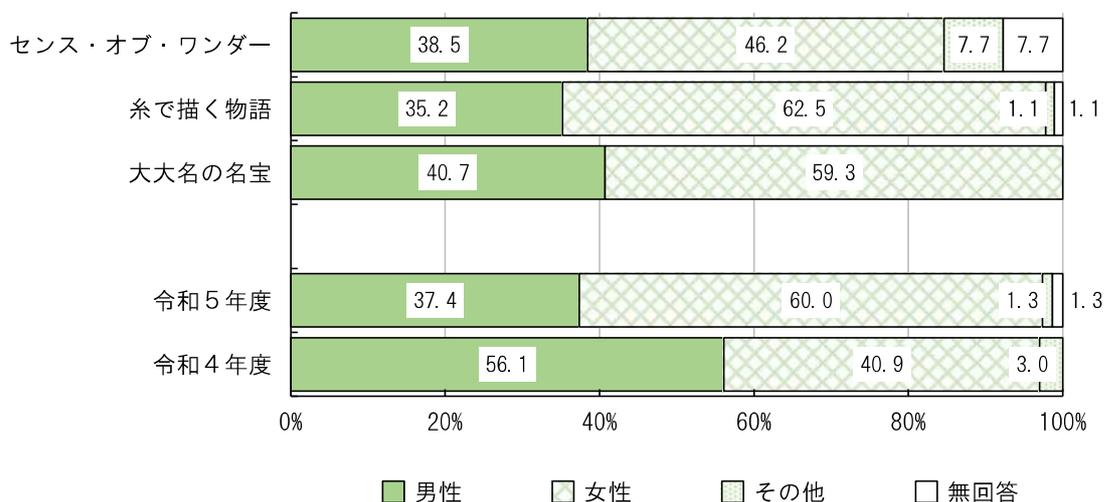
		件数 (件)	男性	女性	その他	無回答
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	13	38.5	46.2	7.7	7.7
	糸で描く物語	88	35.2	62.5	1.1	1.1
	大大名の名宝	54	40.7	59.3	0.0	0.0
経年	令和5年度	155	37.4	60.0	1.3	1.3
	令和4年度	66	56.1	40.9	3.0	0.0
令和4年度	兵馬俑と古代中国	51	56.9	41.2	2.0	0.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	40.0	40.0	20.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	60.0	40.0	0.0	0.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



性別について、令和5年度全体では、「男性」32.8%、「女性」64.8%、「その他」1.2%と、令和4年度全体より「男性」が9.0ポイント低くなり、「女性」が8.0ポイント高くなっている。

展覧会別にみると、『大大名の名宝』では「男性」が35.2%と他の展覧会と比べ高くなっている。一方、「女性」はどの展覧会でも6割半ばとなっている。

新規来館者の令和5年度全体では、「男性」37.4%、「女性」60.0%、「その他」1.3%と、令和4年度全体より「男性」が18.7ポイント低くなり、「女性」が19.1ポイント高くなっている。

展覧会別にみると、『大大名の名宝』では「男性」が40.7%と他の展覧会と比べ高く、『糸で描く物語』では「女性」が62.5%と他の展覧会と比べ高くなっている。

F 2 年齢

全体

		件数 (件)	12 歳 以下	13 歳 ～ 19 歳	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上	無 回 答
令和 5 年度	センス・オブ・ワンダー	75	12.0	9.3	17.3	8.0	13.3	14.7	13.3	9.3	2.7
	糸で描く物語	268	12.3	12.3	10.1	8.6	11.9	17.2	17.5	9.0	1.1
	大大名の名宝	236	4.2	5.1	7.2	6.8	12.7	22.0	22.0	19.5	0.4
経 年	令和5年度	579	9.0	9.0	9.8	7.8	12.4	18.8	18.8	13.3	1.0
	令和4年度	294	9.5	7.5	11.9	11.2	13.6	18.7	15.3	11.9	0.3
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	233	10.3	8.6	11.6	11.6	14.2	18.9	13.7	11.2	0.0
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	22	9.1	9.1	13.6	4.5	9.1	27.3	18.2	9.1	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	5.1	0.0	12.8	12.8	12.8	12.8	23.1	17.9	2.6

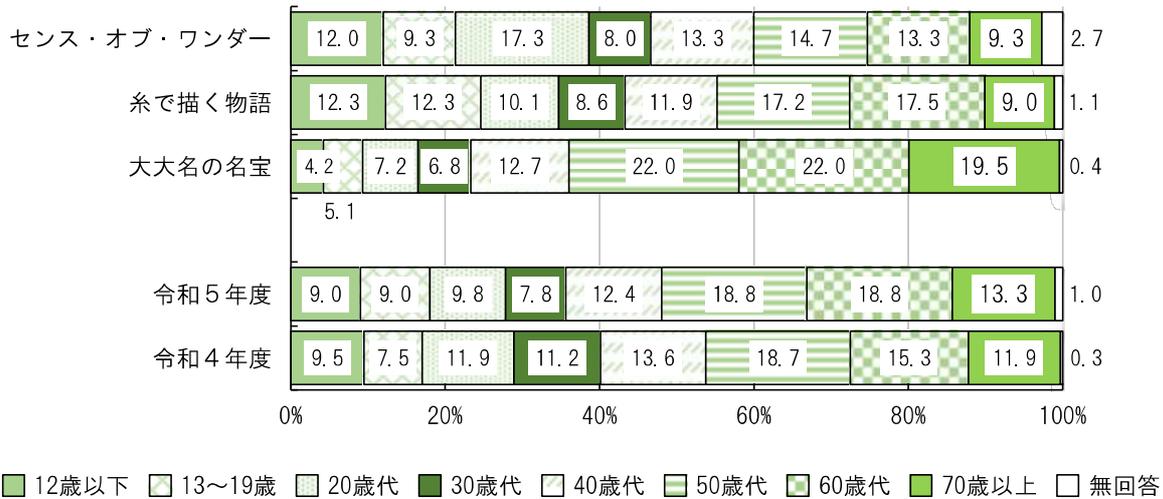
単位：%

新規来館者

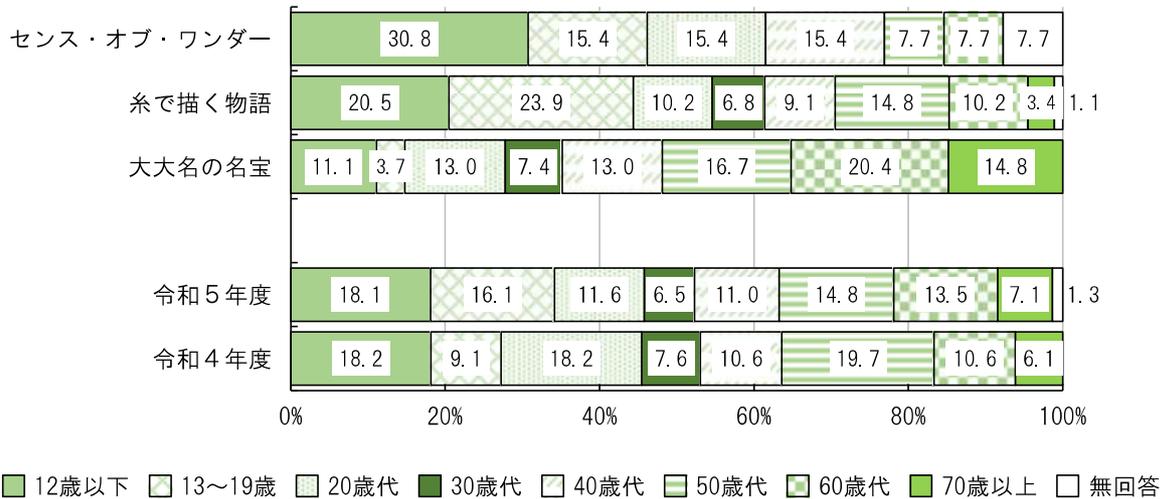
		件数 (件)	12 歳 以下	13 歳 ～ 19 歳	20 歳 代	30 歳 代	40 歳 代	50 歳 代	60 歳 代	70 歳 以上	無 回 答
令和 5 年度	センス・オブ・ワンダー	13	30.8	15.4	15.4	0.0	15.4	7.7	7.7	0.0	7.7
	糸で描く物語	88	20.5	23.9	10.2	6.8	9.1	14.8	10.2	3.4	1.1
	大大名の名宝	54	11.1	3.7	13.0	7.4	13.0	16.7	20.4	14.8	0.0
経 年	令和5年度	155	18.1	16.1	11.6	6.5	11.0	14.8	13.5	7.1	1.3
	令和4年度	66	18.2	9.1	18.2	7.6	10.6	19.7	10.6	6.1	0.0
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	51	19.6	9.8	17.6	9.8	11.8	17.6	7.8	5.9	0.0
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	5	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	0.0	0.0	30.0	0.0	10.0	20.0	30.0	10.0	0.0

単位：%

<全体>



<新規来館者>



年齢について、令和5年度全体では、「50歳代」、「60歳代」18.8%が最も高く、以下「70歳以上」13.3%、「40歳代」12.4%、「20歳代」9.8%となっている。

展覧会別にみると、『大大名の名宝』では「50歳代」、「60歳代」、「70歳以上」が他の展覧会に比べて高くなっている。

新規来館者の令和5年度全体では、「12歳以下」18.1%が最も高く、以下「13~19歳」16.1%、「50歳代」14.8%、「60歳代」13.5%、「20歳代」11.6%となっている。

展覧会別にみると、『センス・オブ・ワンダー』では「12歳以下」30.8%が最も高く、『糸で描く物語』では「13~19歳」23.9%、『大大名の名宝』では「60歳代」20.4%が最も高くなっている。

F 3 居住地

全体

		件数 (件)	静岡 市	中部 (静岡 市以外)	西 部	東 部	賀 茂	県内 (詳細 不明)	県 外	無 回 答
令和 5 年度	センス・オブ・ワンダー	75	50.7	12.0	8.0	13.3	1.3	0.0	12.0	2.7
	糸で描く物語	268	44.4	7.8	9.7	15.3	0.0	0.0	21.6	1.1
	大大名の名宝	236	42.8	8.1	14.4	13.1	0.0	0.0	20.8	0.8
経 年	令和5年度	579	44.6	8.5	11.4	14.2	0.2	0.0	20.0	1.2
	令和4年度	294	46.6	8.5	17.0	14.6	0.7	0.0	11.6	1.0
令和 4 年度	兵馬俑と古代中国	233	46.8	7.7	19.7	16.7	0.9	0.0	7.7	0.4
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	22	50.0	9.1	9.1	13.6	0.0	0.0	18.2	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	43.6	12.8	5.1	2.6	0.0	0.0	30.8	5.1

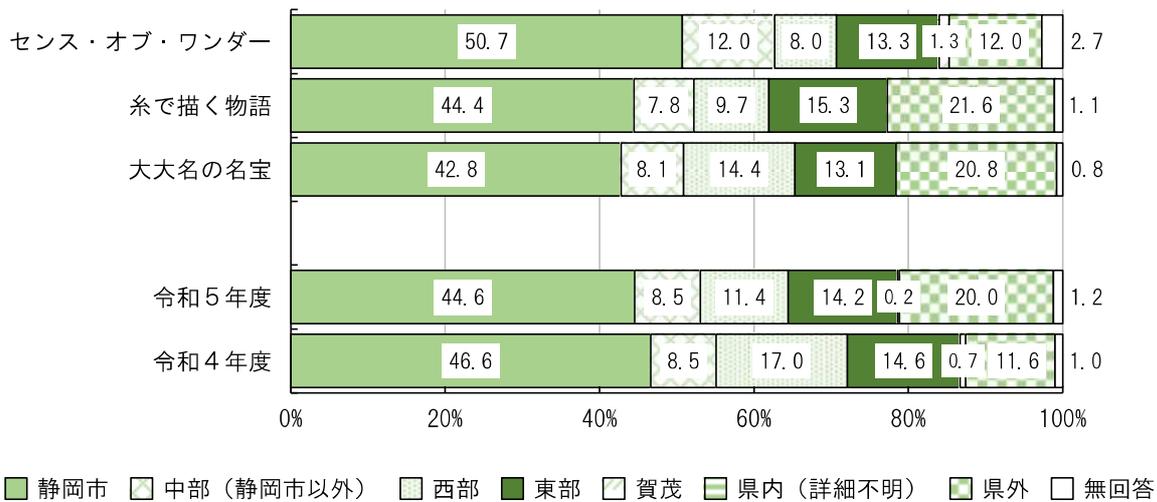
単位：%

新規来館者

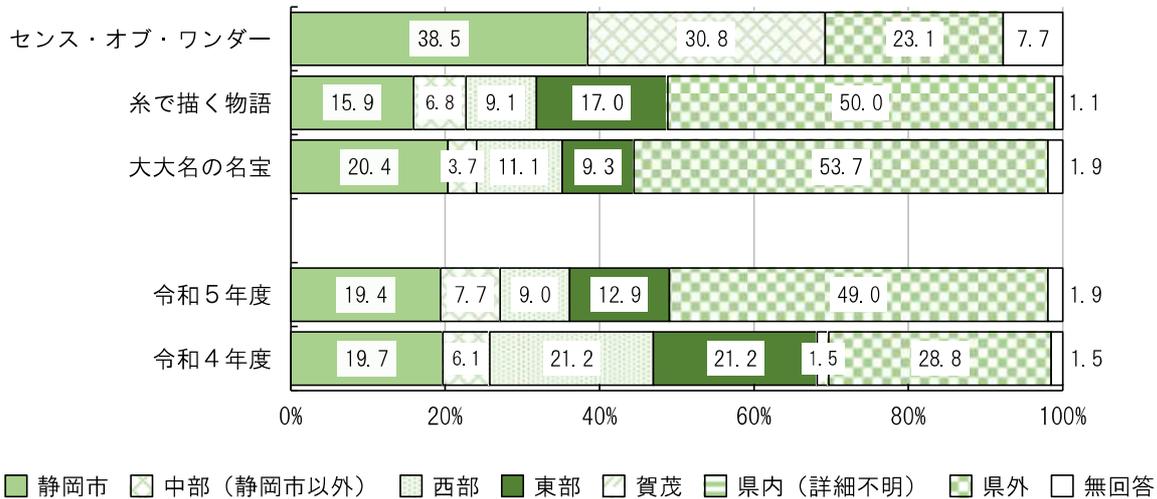
		件数 (件)	静岡 市	中部 (静岡 市以外)	西 部	東 部	賀 茂	県内 (詳細 不明)	県 外	無 回 答
令和 5 年度	センス・オブ・ワンダー	13	38.5	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	7.7
	糸で描く物語	88	15.9	6.8	9.1	17.0	0.0	0.0	50.0	1.1
	大大名の名宝	54	20.4	3.7	11.1	9.3	0.0	0.0	53.7	1.9
経 年	令和5年度	155	19.4	7.7	9.0	12.9	0.0	0.0	49.0	1.9
	令和4年度	66	19.7	6.1	21.2	21.2	1.5	0.0	28.8	1.5
令和 4 年度	兵馬俑と古代中国	51	21.6	5.9	27.5	25.5	2.0	0.0	15.7	2.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	0.0

単位：%

<全体>



<新規来館者>



居住地について、令和5年度全体では、「静岡市」44.6%が最も高く、以下「県外」20.0%、「東部」14.2%、「西部」11.4%、「中部（静岡市以外）」8.5%となっている。

展覧会別にみると、『センス・オブ・ワンダー』では「静岡市」50.7%、『糸で描く物語』では「東部」15.3%、『大大名の名宝』では「西部」14.4%と他の展覧会と比べ高くなっている。

新規来館者の令和5年度全体では、「県外」49.0%が最も高く、以下「静岡市」19.4%、「東部」12.9%、「西部」9.0%、「中部（静岡市以外）」7.7%となっている。

展覧会別にみると、『センス・オブ・ワンダー』では「静岡市」38.5%、『糸で描く物語』では「東部」17.0%、『大大名の名宝』では「県外」53.7%と他の展覧会と比べ高くなっている。

(3) 観覧者の行動

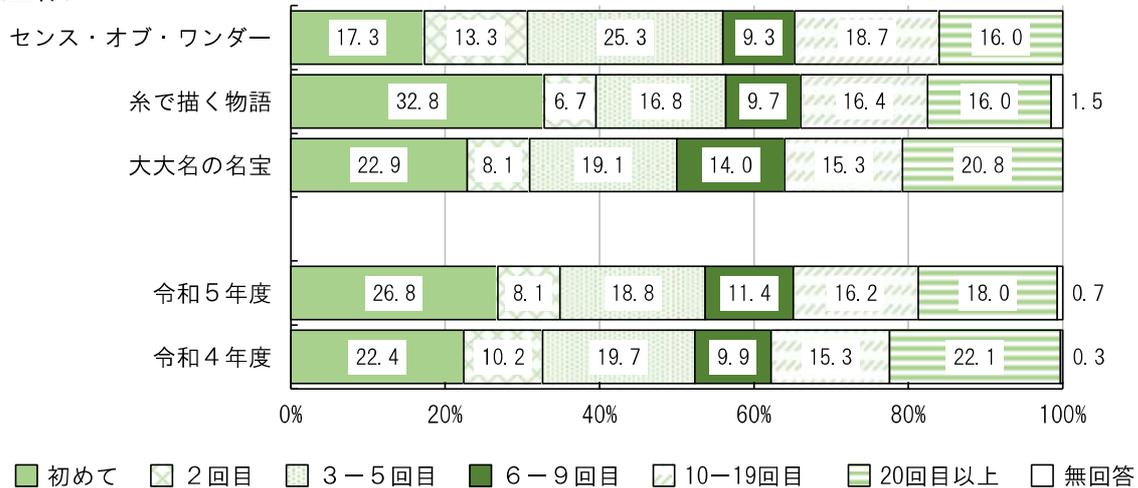
Q1 今回の来館回数

全体

		件数 (件)	初 め て	2 回 目	3 ・ 5 回 目	6 ・ 9 回 目	10 ・ 19 回 目	20 回 目 以 上	無 回 答
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	75	17.3	13.3	25.3	9.3	18.7	16.0	0.0
	糸で描く物語	268	32.8	6.7	16.8	9.7	16.4	16.0	1.5
	大大名の名宝	236	22.9	8.1	19.1	14.0	15.3	20.8	0.0
経 年	令和5年度	579	26.8	8.1	18.8	11.4	16.2	18.0	0.7
	令和4年度	294	22.4	10.2	19.7	9.9	15.3	22.1	0.3
和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	233	21.9	11.2	21.9	11.2	15.0	18.9	0.0
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	22	22.7	9.1	9.1	4.5	22.7	31.8	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	25.6	5.1	12.8	5.1	12.8	35.9	2.6

単位：%

<全体>



今回の来館回数について、令和5年度全体では、「初めて」26.8%が最も高く、以下「3-5回目」18.8%、「20回目以上」18.0%、「10-19回目」16.2%、「6-9回目」11.4%となっている。

展覧会別にみると、『センス・オブ・ワンダー』では「3-5回目」25.3%、『糸で描く物語』では「初めて」32.8%、『大大名の名宝』では「20回目以上」20.8%と他の展覧会と比べ高くなっている。

Q1-1 1年以内の来館回数（今回を除く）

全体

		件数 (件)	この1年 間には 来館し ない	1 回	2 回	3 - 5 回 目	6 - 9 回 目	10 回 目 以 上	無 回 答
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	62	41.9	24.2	17.7	9.7	0.0	0.0	6.5
	糸で描く物語	176	36.4	19.3	19.3	15.3	4.0	1.7	4.0
	大大名の名宝	182	28.6	27.5	20.9	14.3	4.4	2.2	2.2
経 年	令和5年度	420	33.8	23.6	19.8	14.0	3.6	1.7	3.6
	令和4年度	227	43.6	23.3	16.7	12.8	0.0	1.3	2.2
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	182	48.4	24.2	17.6	8.8	0.0	0.0	1.1
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	17	11.8	23.5	17.6	29.4	0.0	17.6	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	28	32.1	17.9	10.7	28.6	0.0	0.0	10.7

単位：%

<全体>



1年以内の来館回数（今回を除く）について、令和5年度全体では、「この1年間には来館していない」33.8%が最も高く、以下「1回」23.6%、「2回」19.8%、「3-5回」14.0%、「6-9回」3.6%となっている。

展覧会別にみると、『センス・オブ・ワンダー』では「この1年間には来館していない」41.9%と他の展覧会と比べ高くなっている。

Q2 来館人数

全体

		件数 (件)	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 以上	無 回 答
令和 5 年度	センス・オブ・ワンダー	75	40.0	37.3	10.7	4.0	1.3	5.3	1.3
	糸で描く物語	268	31.7	32.8	14.9	13.4	2.2	4.9	0.0
	大大名の名宝	236	41.1	41.1	10.6	4.2	0.8	2.1	0.0
経 年	令和5年度	579	36.6	36.8	12.6	8.5	1.6	3.8	0.2
	令和4年度	294	42.2	32.3	11.6	8.8	2.0	1.0	2.0
令和 4 年度	兵馬俑と古代中国	233	36.1	35.2	13.7	9.9	2.6	1.3	1.3
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	22	59.1	27.3	4.5	0.0	0.0	0.0	9.1
	みる誕生 鴻池朋子展	39	69.2	17.9	2.6	7.7	0.0	0.0	2.6

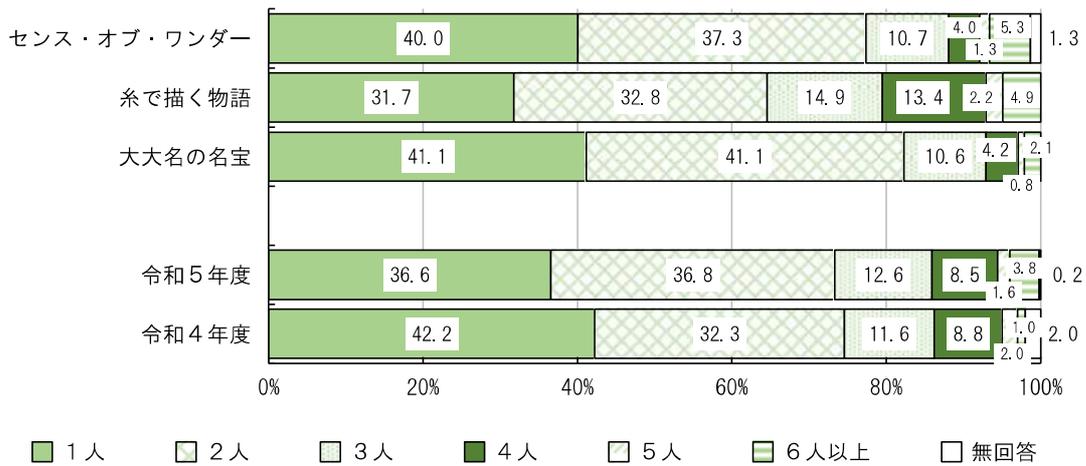
単位：%

新規来館者

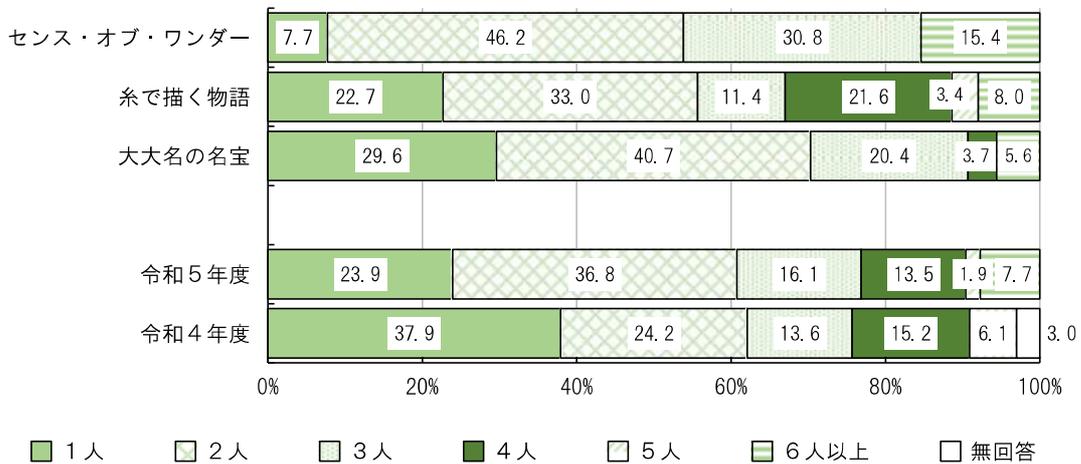
		件数 (件)	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人	6 人 以上	無 回 答
令和 5 年度	センス・オブ・ワンダー	13	7.7	46.2	30.8	0.0	0.0	15.4	0.0
	糸で描く物語	88	22.7	33.0	11.4	21.6	3.4	8.0	0.0
	大大名の名宝	54	29.6	40.7	20.4	3.7	0.0	5.6	0.0
経 年	令和5年度	155	23.9	36.8	16.1	13.5	1.9	7.7	0.0
	令和4年度	66	37.9	24.2	13.6	15.2	6.1	0.0	3.0
令和 4 年度	兵馬俑と古代中国	51	33.3	23.5	15.7	19.6	7.8	0.0	0.0
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	5	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

単位：%

<全体>



<新規来館者>



来館人数について、令和5年度全体では、「2人」36.8%が最も高く、以下「1人」36.6%、「3人」12.6%、「4人」8.5%、「6人以上」3.8%となっている。

展覧会別にみると、『糸で描く物語』では「4人」13.4%、『大大名の名宝』では「2人」41.1%と他の展覧会と比べ高くなっている。

新規来館者の令和5年度全体では、「2人」36.8%が最も高く、以下「1人」23.9%、「3人」16.1%、「4人」13.5%、「6人以上」7.7%となっている。

展覧会別にみると、『センス・オブ・ワンダー』では「2人」46.2%、『糸で描く物語』では「4人」21.6%、『大大名の名宝』では「1人」29.6%と他の展覧会と比べ高くなっている。

Q2-1 当日の来館の同行者（複数回答可）

来館時人数で、2人以上で来館したと回答した方のみ

全体

		件数 (件)	配偶者	親	兄弟姉妹	子ども	祖父母	孫	そのほかの親族	友人・知人	恋人	その他	無回答
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	44	34.1	25.0	6.8	9.1	2.3	0.0	2.3	25.0	0.0	4.5	4.5
	糸で描く物語	183	35.5	34.4	15.8	26.2	2.7	0.0	2.2	16.9	0.5	5.5	0.0
	大大名の名宝	139	51.1	23.0	11.5	15.8	1.4	0.7	4.3	14.4	0.7	2.2	0.7
経年	令和5年度	366	41.3	29.0	13.1	20.2	2.2	0.3	3.0	16.9	0.5	4.1	0.8
	令和4年度	164	33.5	35.4	17.7	18.3	7.3	1.8	5.5	14.0	1.8	0.0	1.2
令和4年度	兵馬俑と古代中国	146	33.6	34.9	19.9	19.2	8.2	2.1	6.2	14.4	1.4	0.0	0.7
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	7	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	11	27.3	27.3	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	18.2	9.1	0.0	9.1

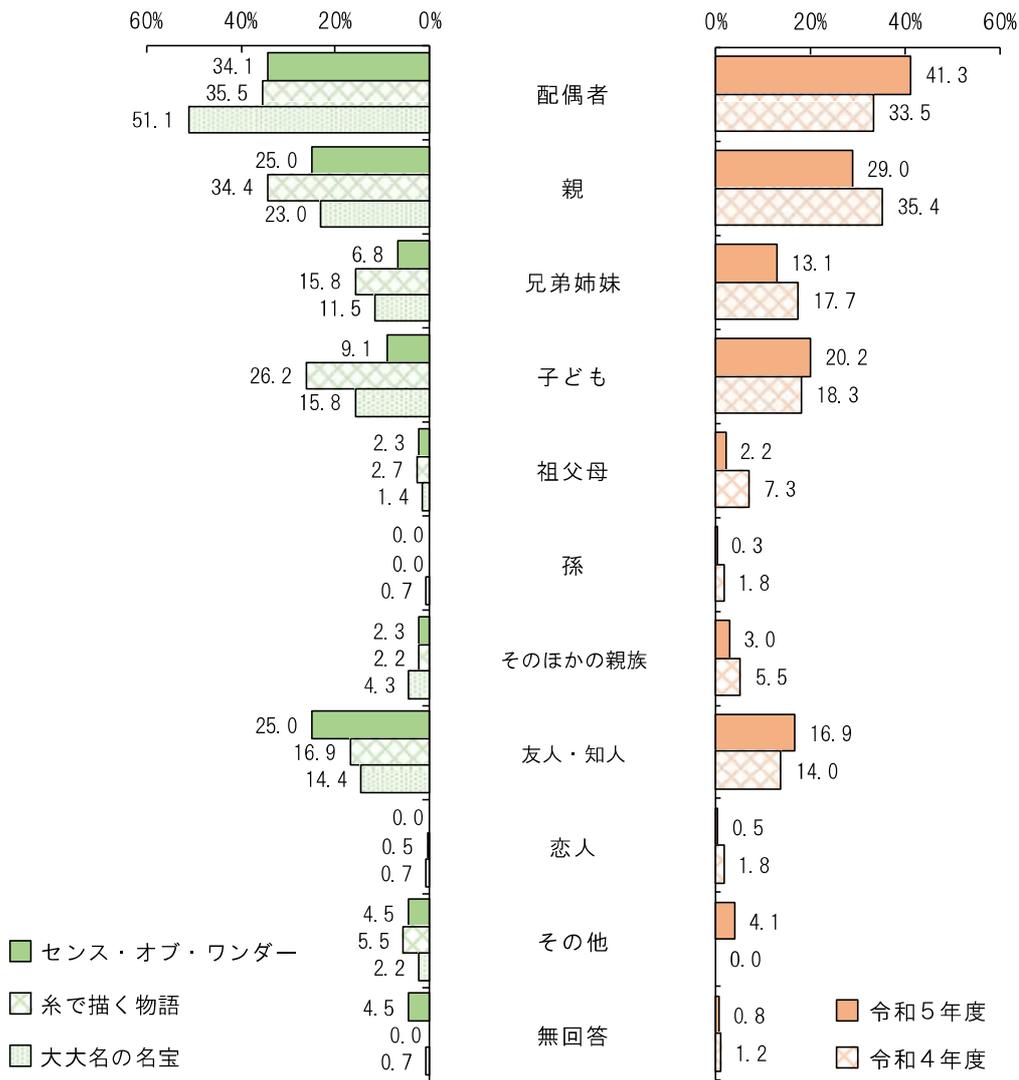
単位：％

新規来館者

		件数 (件)	配偶者	親	兄弟姉妹	子ども	祖父母	孫	そのほかの親族	友人・知人	恋人	その他	無回答
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	12	25.0	16.7	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	8.3	16.7
	糸で描く物語	68	30.9	41.2	23.5	20.6	5.9	0.0	2.9	16.2	0.0	8.8	0.0
	大大名の名宝	38	47.4	26.3	15.8	10.5	0.0	0.0	7.9	5.3	2.6	7.9	2.6
経年	令和5年度	118	35.6	33.9	18.6	16.1	3.4	0.0	4.2	13.6	0.8	8.5	2.5
	令和4年度	39	28.2	41.0	23.1	25.6	12.8	0.0	7.7	15.4	2.6	0.0	0.0
令和4年度	兵馬俑と古代中国	34	32.4	38.2	26.5	29.4	14.7	0.0	8.8	14.7	0.0	0.0	0.0
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0

単位：％

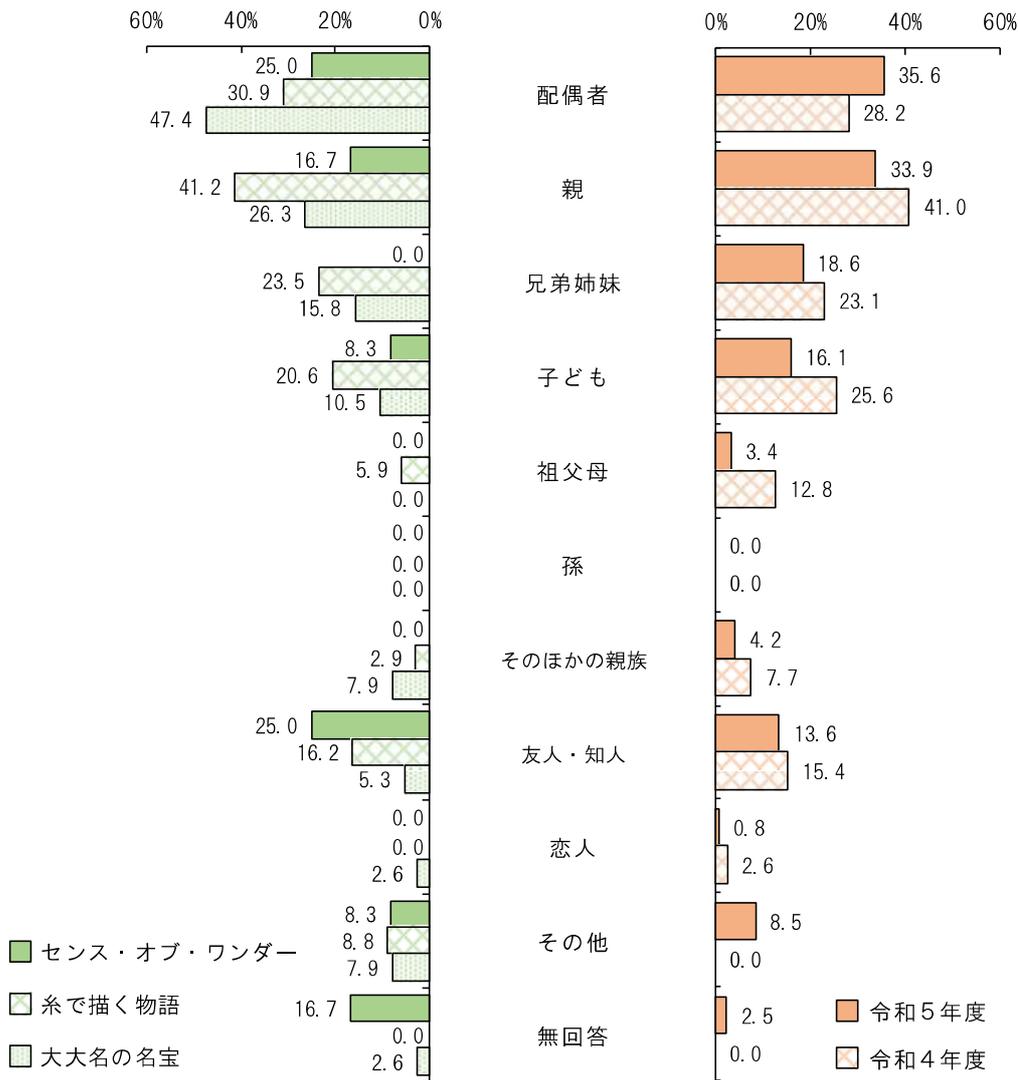
<全体>



当日の来館の同行者について、令和5年度全体では、「配偶者」41.3%が最も高く、以下「親」29.0%、「子ども」20.2%、「友人・知人」16.9%、「兄弟姉妹」13.1%となっている。

展覧会別にみると、『センス・オブ・ワンダー』では「友人・知人」25.0%、『糸で描く物語』では「親」34.4%、『大名の名宝』では「配偶者」51.1%と他の展覧会と比べ高くなっている。

<新規来館者>



新規来館者の令和5年度全体では、「配偶者」35.6%が最も高く、以下「親」33.9%、「兄弟姉妹」18.6%、「子ども」16.1%、「友人・知人」13.6%となっている。

展覧会別にみると、『センス・オブ・ワンダー』では「友人・知人」25.0%、『糸で描く物語』では「親」41.2%、『大大名の名宝』では「配偶者」47.4%と他の展覧会と比べ高くなっている。

Q3 この展覧会への来館理由

全体

		件数(件)	ポスターを見て	チラシを見て	新聞を見て	テレビを見て	静岡県立美術館のWEBまたはSNSなどを見て	その他のWEBまたはSNSなどを見て	静岡県立美術館にいつもよく来ているので	一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた	家族に誘われて・勧められて	友人・知人・恋人に誘われて・勧められて	たまたま時間があった	その他	無回答
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	75	32.0	24.0	5.3	9.3	9.3	8.0	5.3	1.3	10.7	8.0	21.3	13.3	0.0
	糸で描く物語	268	17.9	15.3	5.2	3.4	19.4	6.3	10.4	7.5	22.4	8.6	9.0	14.2	0.4
	大大名の名宝	236	25.8	21.6	11.4	3.8	22.0	3.0	11.4	5.9	14.8	6.8	6.4	8.5	0.0
経年	令和5年度	579	23.0	19.0	7.8	4.3	19.2	5.2	10.2	6.0	17.8	7.8	9.5	11.7	0.2
	令和4年度	294	22.8	14.6	15.3	29.3	17.3	6.5	12.6	4.4	16.3	4.4	5.4	8.5	1.0
令和4年度	兵馬俑と古代中国	233	24.0	13.3	15.9	36.9	13.3	6.9	7.7	2.6	17.2	5.2	3.4	8.2	0.4
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	22	27.3	18.2	0.0	0.0	40.9	4.5	45.5	9.1	18.2	0.0	13.6	13.6	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	12.8	20.5	20.5	0.0	28.2	5.1	23.1	12.8	10.3	2.6	12.8	7.7	5.1

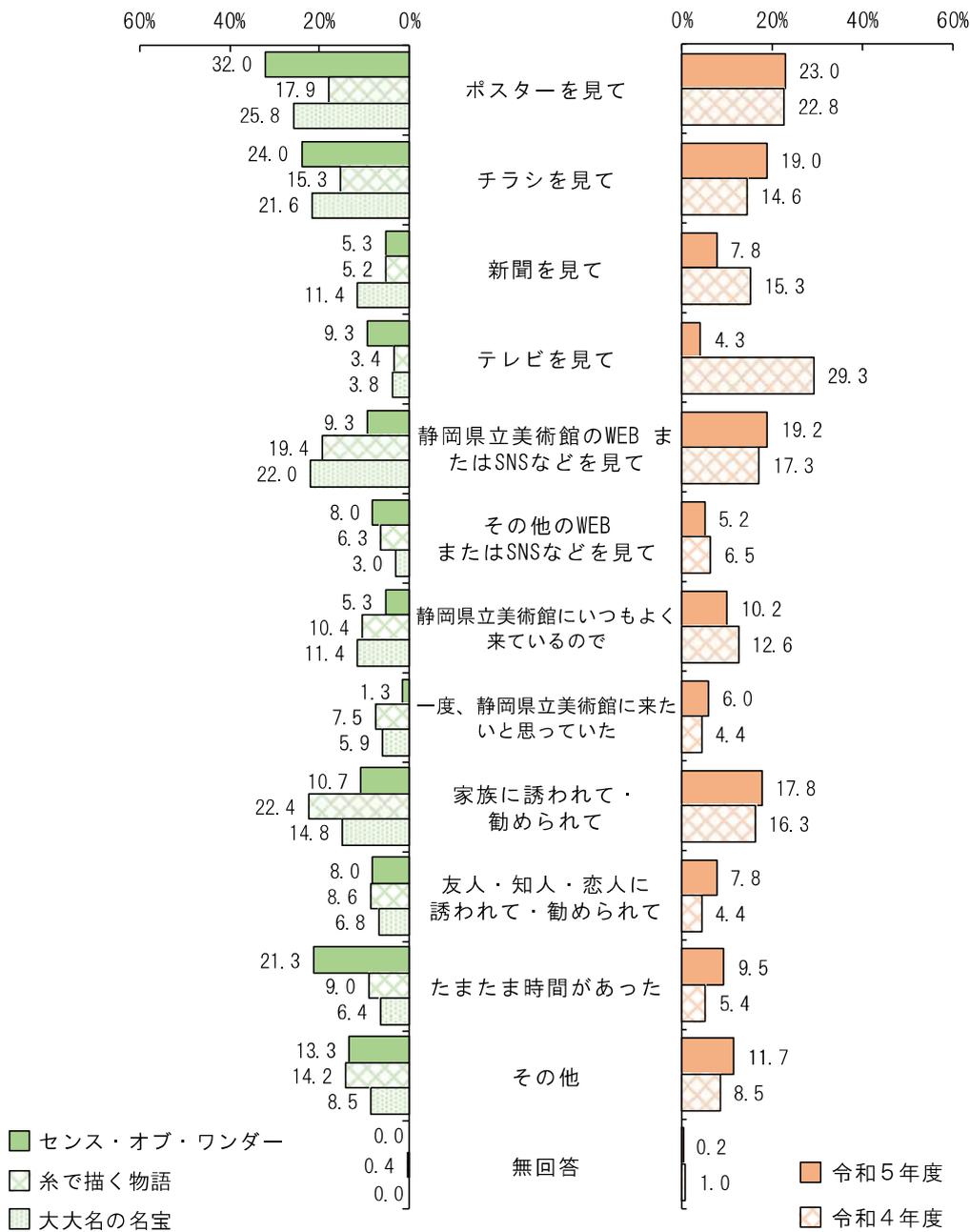
単位：%

新規来館者

		件数(件)	ポスターを見て	チラシを見て	新聞を見て	テレビを見て	静岡県立美術館のWEBまたはSNSなどを見て	その他のWEBまたはSNSなどを見て	静岡県立美術館にいつもよく来ているので	一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた	家族に誘われて・勧められて	友人・知人・恋人に誘われて・勧められて	たまたま時間があった	その他	無回答
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	13	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	0.0	7.7	15.4	15.4	38.5	7.7	0.0
	糸で描く物語	88	6.8	4.5	1.1	1.1	18.2	8.0	0.0	22.7	29.5	3.4	8.0	21.6	1.1
	大大名の名宝	54	18.5	7.4	5.6	3.7	20.4	7.4	0.0	25.9	20.4	7.4	5.6	9.3	0.0
経年	令和5年度	155	12.3	5.2	2.6	1.9	17.4	8.4	0.0	22.6	25.2	5.8	9.7	16.1	0.6
	令和4年度	66	7.6	9.1	13.6	30.3	7.6	9.1	0.0	16.7	21.2	6.1	4.5	9.1	0.0
令和4年度	兵馬俑と古代中国	51	9.8	9.8	11.8	39.2	5.9	9.8	0.0	9.8	23.5	5.9	2.0	5.9	0.0
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0	0.0	0.0	40.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	0.0	10.0	30.0	0.0	20.0	10.0	0.0	40.0	0.0	10.0	20.0	10.0	0.0

単位：%

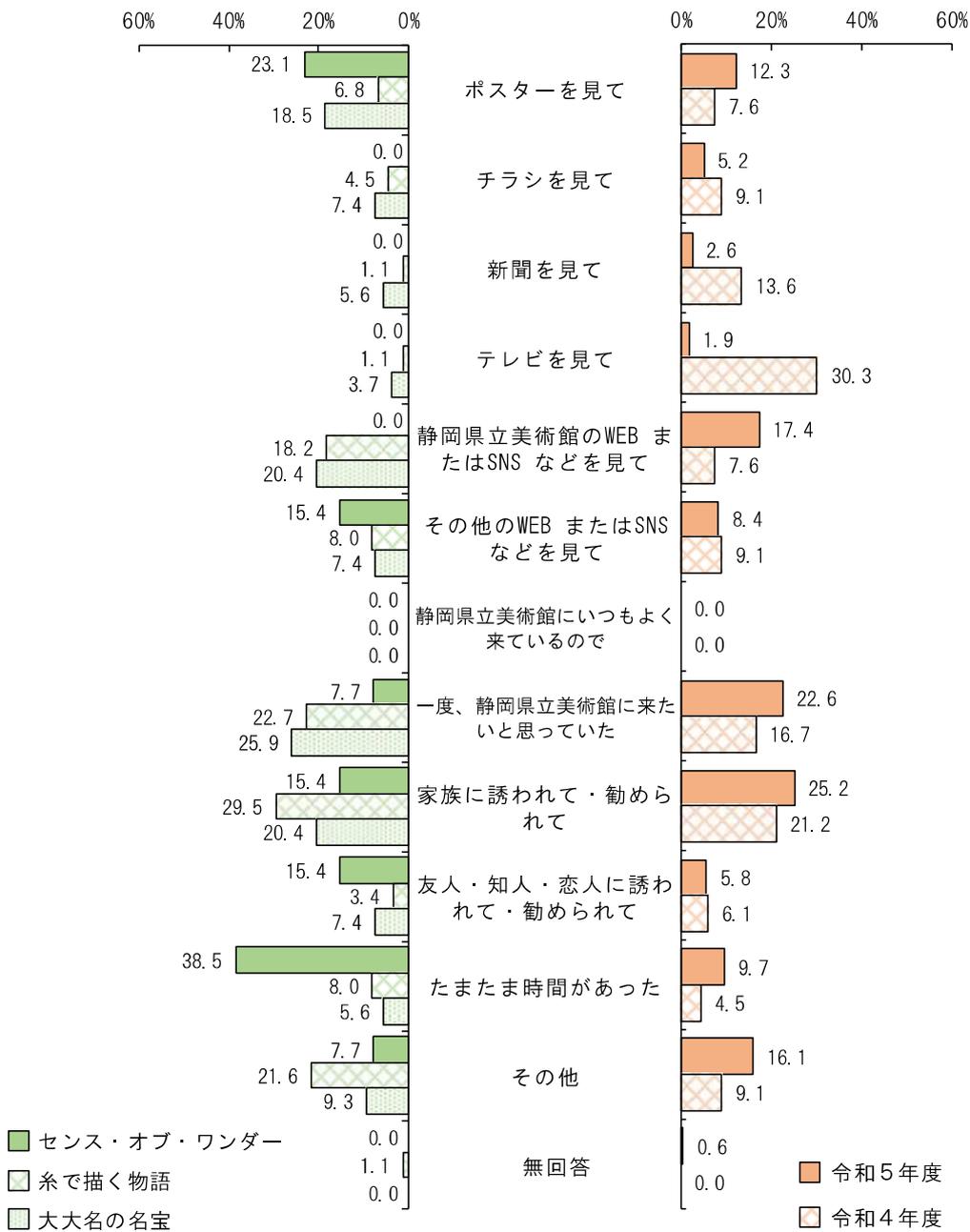
<全体>



この展覧会への来館理由について、令和5年度全体では、「ポスターを見て」23.0%が最も高く、以下「静岡県立美術館のWEB または SNS などを見て」19.2%、「チラシを見て」19.0%、「家族に誘われて・勧められて」17.8%、「その他」11.7%となっている。

展覧会別にみると、『センス・オブ・ワンダー』では「ポスターを見て」32.0%、『糸で描く物語』では「家族に誘われて・勧められて」22.4%、『大大名の名宝』では「静岡県立美術館のWEB または SNS などを見て」22.0%と他の展覧会と比べ高くなっている。

<新規来館者>



新規来館者の令和5年度全体では、「家族に誘われて・勧められて」25.2%が最も高く、以下「一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた」22.6%、「静岡県立美術館のWEB または SNS などを見て」17.4%、「その他」16.1%、「ポスターを見て」12.3%となっている。

展覧会別にみると、『センス・オブ・ワンダー』では「たまたま時間があつた」38.5%、『糸で描く物語』では「家族に誘われて・勧められて」29.5%、『大大名の名宝』では「一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた」25.9%と他の展覧会と比べ高くなっている。

Q3-1 勧誘の手段（複数回答可）

Q3で、家族や友人・知人・恋人に誘われた、勧められたと回答した方のみ

全体

		件数 (件)	直接 会って	電話 で	S N S	携 帯 メ ー ル	(e メ ー ル コ ン)	そ の 他	無 回 答
令和 5 年度	センス・オブ・ワンダー	14	71.4	7.1	7.1	14.3	7.1	7.1	0.0
	糸で描く物語	79	75.9	5.1	7.6	7.6	1.3	1.3	3.8
	大大名の名宝	49	71.4	6.1	12.2	8.2	2.0	2.0	2.0
経 年	令和5年度	142	73.9	5.6	9.2	8.5	2.1	2.1	2.8
	令和4年度	61	82.0	8.2	9.8	3.3	1.6	1.6	1.6
令和 4 年度	兵馬俑と古代中国	52	80.8	9.6	11.5	3.8	1.9	0.0	1.9
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	5	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0

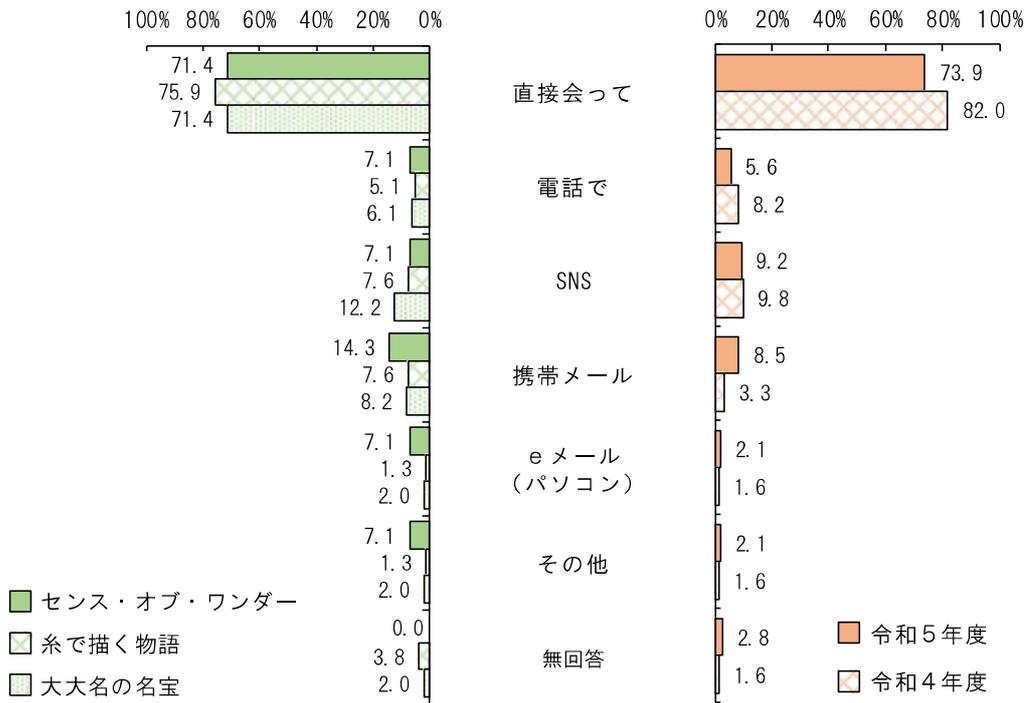
単位：%

新規来館者

		件数 (件)	直接 会って	電話 で	S N S	携 帯 メ ー ル	(e メ ー ル コ ン)	そ の 他	無 回 答
令和 5 年度	センス・オブ・ワンダー	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	糸で描く物語	29	89.7	3.4	3.4	6.9	0.0	0.0	0.0
	大大名の名宝	13	84.6	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0
経 年	令和5年度	46	89.1	2.2	4.3	4.3	2.2	0.0	0.0
	令和4年度	18	83.3	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
令和 4 年度	兵馬俑と古代中国	15	80.0	13.3	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

単位：%

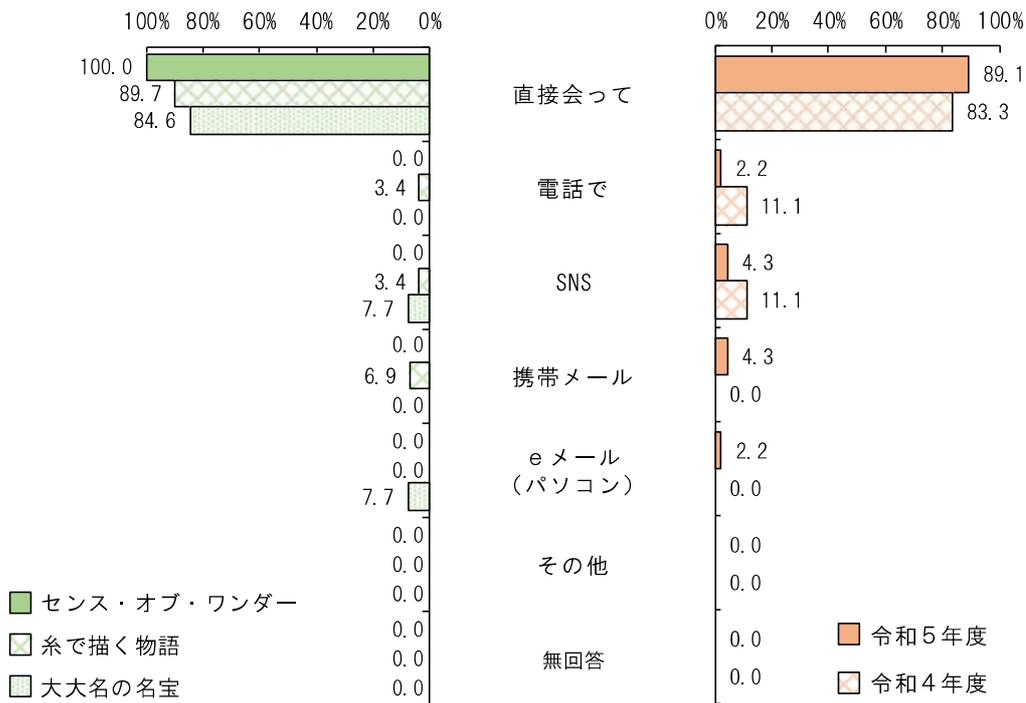
<全体>



勧誘の手段について、令和5年度全体では、「直接会って」73.9%が最も高く、以下「SNS（LINE・facebook・Twitter・mixi など）」9.2%、「携帯メール」8.5%、「電話で」5.6%となっている。

展覧会別にみると、『センス・オブ・ワンダー』では「携帯メール」14.3%、『糸で描く物語』では「直接会って」75.9%、『大大名の名宝』では「SNS（LINE・facebook・Twitter・mixi など）」12.2%と他の展覧会と比べ高くなっている。

<新規来館者>



新規来館者の令和5年度全体では、「直接会って」89.1%が最も高く、以下「SNS (LINE・facebook・Twitter・mixi など)」4.3%、「携帯メール」4.3%、「電話で」2.2%、「eメール (パソコン)」2.2%となっている。

展覧会別にみると、「直接会って」が『センス・オブ・ワンダー』では100.0%、『糸で描く物語』では89.7%、『大大名の名宝』では84.6%といずれの展覧会でも最も高くなっている。

(4) 展覧会への評価

Q4 「風景とロダンの美術館」としての認知度

全体

		件数 (件)	いいえ	はい	無回答
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	75	32.0	66.7	1.3
	糸で描く物語	268	33.6	64.9	1.5
	大大名の名宝	236	28.8	69.1	2.1
経年	令和5年度	579	31.4	66.8	1.7
	令和4年度	294	29.6	68.0	2.4
令和4年度	兵馬俑と古代中国	233	31.3	66.5	2.1
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	22	18.2	77.3	4.5
	みる誕生 鴻池朋子展	39	25.6	71.8	2.6

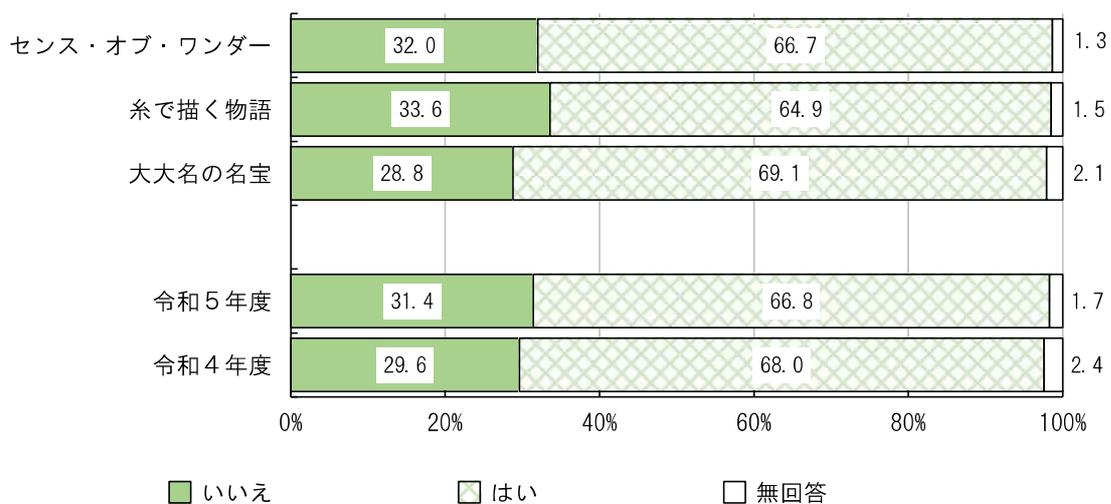
単位：%

新規来館者

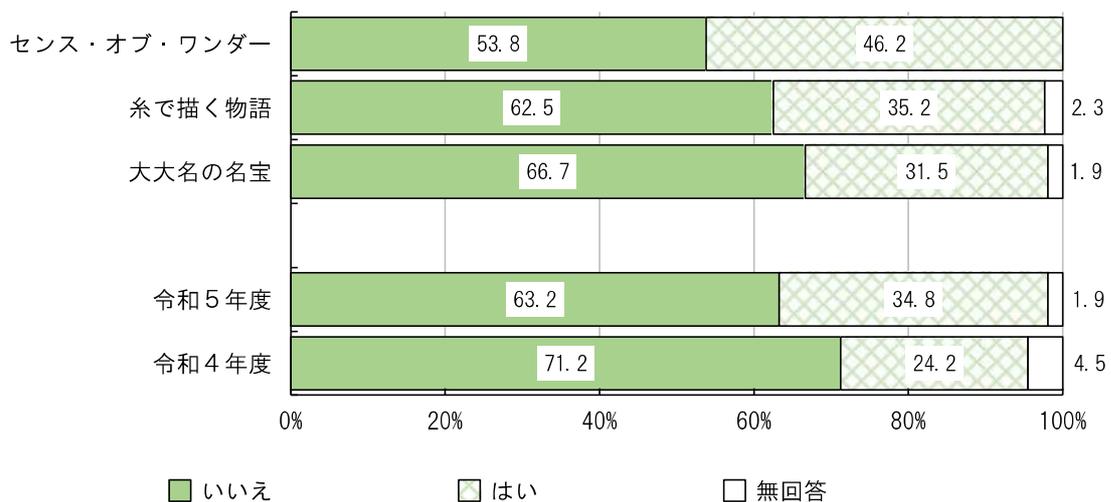
		件数 (件)	いいえ	はい	無回答
令和5年度	センス・オブ・ワンダー	13	53.8	46.2	0.0
	糸で描く物語	88	62.5	35.2	2.3
	大大名の名宝	54	66.7	31.5	1.9
経年	令和5年度	155	63.2	34.8	1.9
	令和4年度	66	71.2	24.2	4.5
令和4年度	兵馬俑と古代中国	51	70.6	23.5	5.9
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	5	80.0	20.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	70.0	30.0	0.0

単位：%

<全体>



<新規来館者>



「風景とロダンの美術館」としての認知度について、令和5年度全体では、「はい」66.8%、「いいえ」31.4%となっている。

新規来館者の令和5年度全体では、「いいえ」63.2%、「はい」34.8%となっている。

Q5① 作品やテーマへの興味・関心の深まり

全体

		件数 (件)	いいえ	いど うとら いかと え	な い ち ら で も	いど うとら はか いと	はい	無 回 答
令和 5 年度	センス・オブ・ワンダー	75	2.7	0.0	9.3	24.0	60.0	4.0
	糸で描く物語	268	1.1	1.1	3.4	26.5	67.5	0.4
	大大名の名宝	236	0.4	1.3	4.7	28.0	64.4	1.3
経 年	令和5年度	579	1.0	1.0	4.7	26.8	65.3	1.2
	令和4年度	294	2.0	1.4	4.1	23.8	68.0	0.7
令和 4 年度	兵馬俑と古代中国	233	0.9	0.9	3.9	23.2	70.8	0.4
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	22	4.5	4.5	4.5	31.8	54.5	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	7.7	2.6	5.1	23.1	59.0	2.6

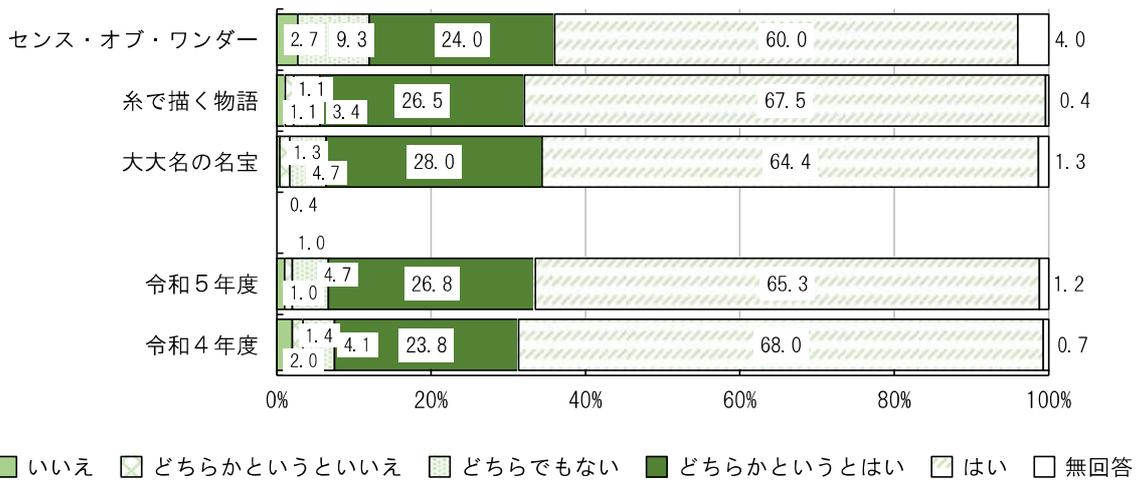
単位：％

新規来館者

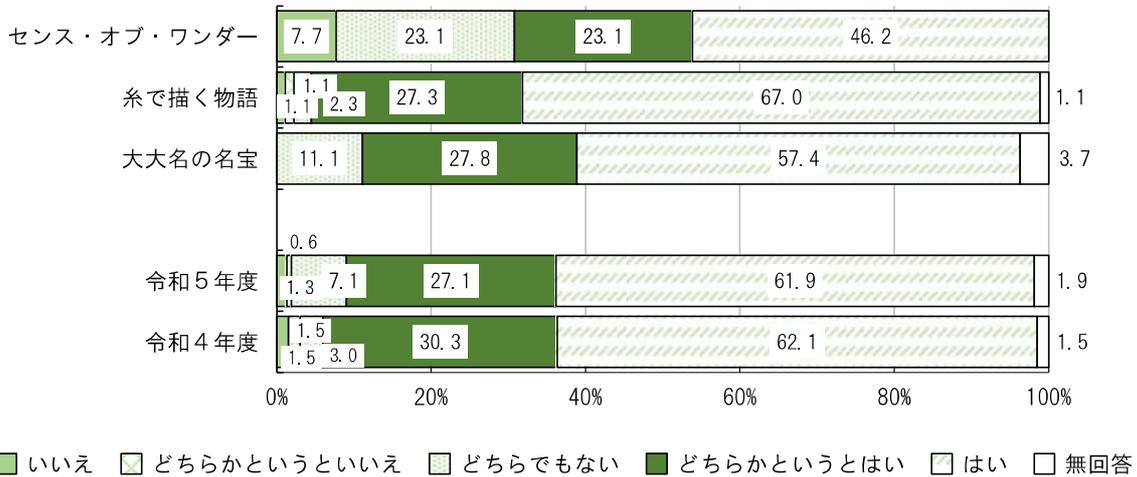
		件数 (件)	いいえ	いど うとら いかと え	な い ち ら で も	いど うとら はか いと	はい	無 回 答
令和 5 年度	センス・オブ・ワンダー	13	7.7	0.0	23.1	23.1	46.2	0.0
	糸で描く物語	88	1.1	1.1	2.3	27.3	67.0	1.1
	大大名の名宝	54	0.0	0.0	11.1	27.8	57.4	3.7
経 年	令和5年度	155	1.3	0.6	7.1	27.1	61.9	1.9
	令和4年度	66	1.5	1.5	3.0	30.3	62.1	1.5
令和 4 年度	兵馬俑と古代中国	51	0.0	0.0	3.9	25.5	68.6	2.0
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	5	0.0	20.0	0.0	40.0	40.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	10.0	0.0	0.0	50.0	40.0	0.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



作品やテーマへの興味・関心が深まりについて、令和5年度全体では、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が92.1%となっている。一方、「どちらかというといいえ」と「いいえ」を合わせた否定的評価が2.1%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』が84.0%、『糸で描く物語』が94.0%、『大大名の名宝』が92.4%となっている。

新規来館者の令和5年度全体では、肯定的評価が89.0%となっている。一方、否定的評価が1.9%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』が69.2%、『糸で描く物語』が94.3%、『大大名の名宝』が85.2%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

Q5② 会場における観覧時の心地よさ

全体

		件数 (件)	いいえ	どちら かといえ	な い ち ら も	い ど ち ら は か い	はい	無 回 答
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	75	5.3	2.7	5.3	21.3	62.7	2.7
	糸で描く物語	268	2.6	0.7	3.7	18.3	74.3	0.4
	大大名の名宝	236	0.4	2.1	3.0	16.1	77.1	1.3
経 年	令和5年度	579	2.1	1.6	3.6	17.8	73.9	1.0
	令和4年度	294	4.1	5.4	4.4	24.8	60.5	0.7
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	233	3.9	6.0	4.7	25.3	59.7	0.4
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	22	0.0	9.1	4.5	31.8	54.5	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	7.7	0.0	2.6	17.9	69.2	2.6

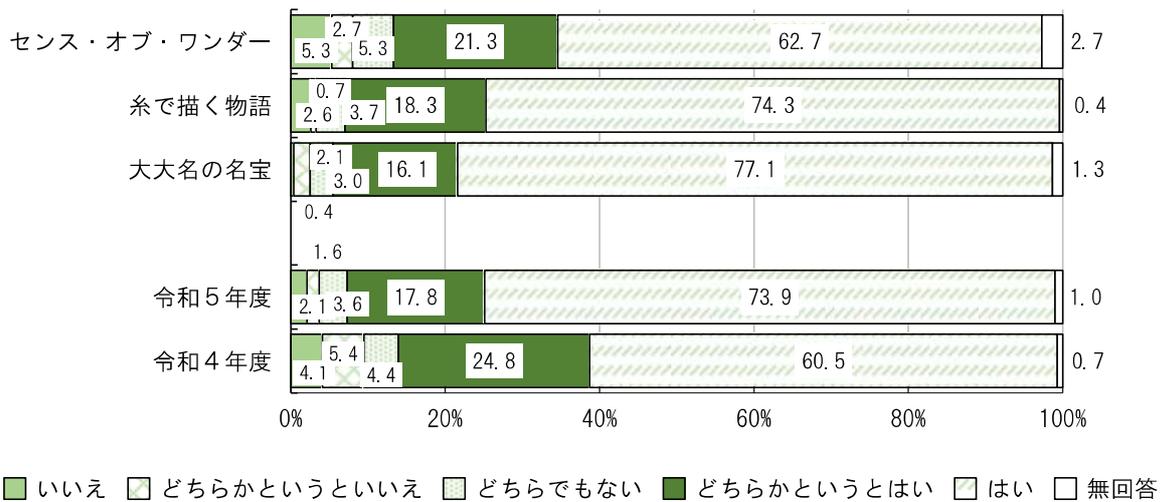
単位：％

新規来館者

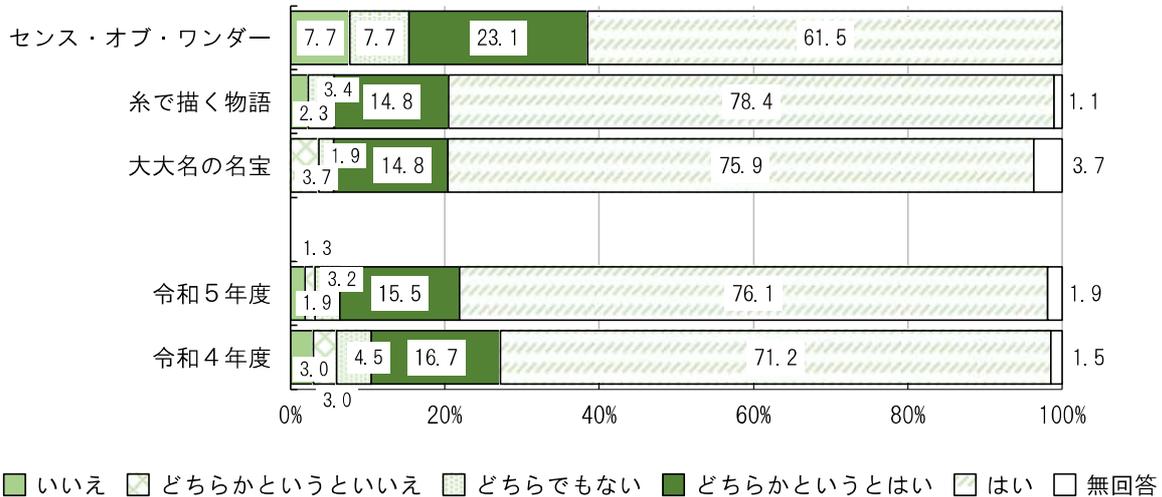
		件数 (件)	いいえ	どちら かといえ	な い ち ら も	い ど ち ら は か い	はい	無 回 答
令 和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	13	7.7	0.0	7.7	23.1	61.5	0.0
	糸で描く物語	88	2.3	0.0	3.4	14.8	78.4	1.1
	大大名の名宝	54	0.0	3.7	1.9	14.8	75.9	3.7
経 年	令和5年度	155	1.9	1.3	3.2	15.5	76.1	1.9
	令和4年度	66	3.0	3.0	4.5	16.7	71.2	1.5
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	51	2.0	3.9	2.0	19.6	70.6	2.0
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	5	0.0	0.0	20.0	0.0	80.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	10.0	0.0	10.0	10.0	70.0	0.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



会場における観覧時の心地よさについて、令和5年度全体では、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が91.7%となっている。一方、「どちらかというといいえ」と「いいえ」を合わせた否定的評価が3.6%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』が84.0%、『糸で描く物語』が92.5%、『大大名の名宝』が93.2%となっている。

新規来館者の令和5年度全体では、肯定的評価が91.6%となっている。一方、否定的評価が3.2%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』が84.6%、『糸で描く物語』が93.2%、『大大名の名宝』が90.7%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

Q5③ スタッフの対応の適切さ

全体

		件数 (件)	いいえ	どちら かといえ	ない どちら でも	どちら はかと はい	はい	無 回 答
令和 5 年度	センス・オブ・ワンダー	75	4.0	2.7	8.0	16.0	68.0	1.3
	糸で描く物語	268	2.6	1.1	7.5	13.8	74.3	0.7
	大大名の名宝	236	0.8	1.7	6.8	14.8	74.2	1.7
経 年	令和5年度	579	2.1	1.6	7.3	14.5	73.4	1.2
	令和4年度	294	1.0	1.7	12.2	19.0	65.0	1.0
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	233	0.9	2.1	13.3	19.3	63.5	1.9
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	22	0.0	0.0	13.6	22.7	63.6	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	2.6	0.0	5.1	15.4	74.4	2.6

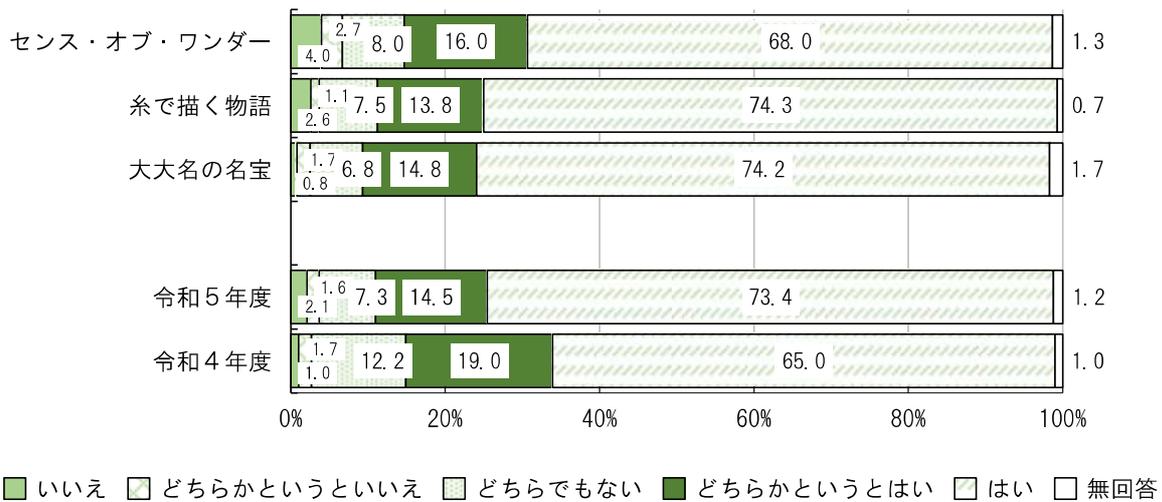
単位：％

新規来館者

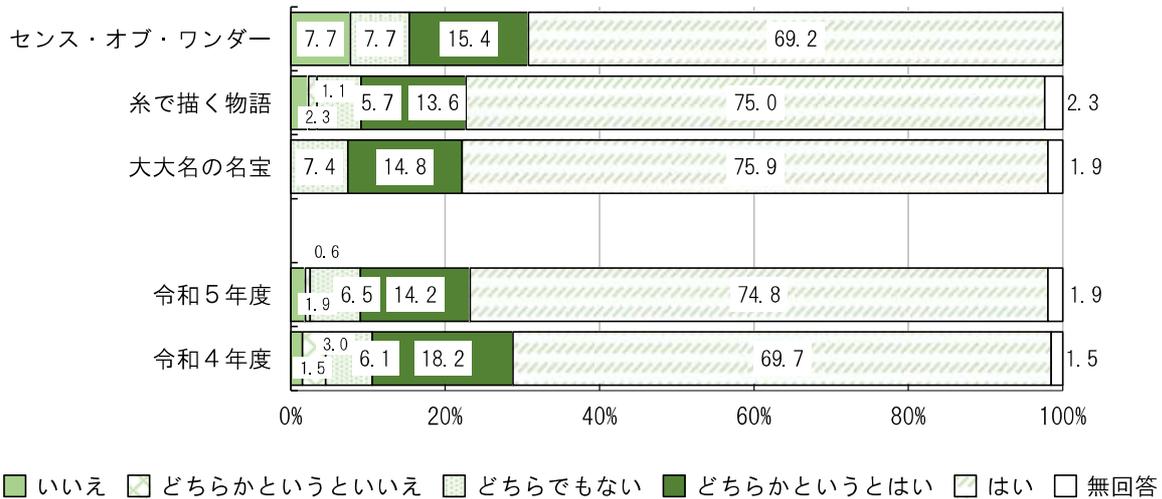
		件数 (件)	いいえ	どちら かといえ	ない どちら でも	どちら はかと はい	はい	無 回 答
令和 5 年度	センス・オブ・ワンダー	13	7.7	0.0	7.7	15.4	69.2	0.0
	糸で描く物語	88	2.3	1.1	5.7	13.6	75.0	2.3
	大大名の名宝	54	0.0	0.0	7.4	14.8	75.9	1.9
経 年	令和5年度	155	1.9	0.6	6.5	14.2	74.8	1.9
	令和4年度	66	1.5	3.0	6.1	18.2	69.7	1.5
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	51	0.0	3.9	5.9	19.6	68.6	2.0
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	5	0.0	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	10.0	0.0	10.0	0.0	80.0	0.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



美術館スタッフの対応の適切さについて、令和5年度全体では、「どちらかというとはいい」と「はい」を合わせた肯定的評価が87.9%となっている。一方、「どちらかというといいえ」と「いいえ」を合わせた否定的評価が3.6%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』が84.0%、『糸で描く物語』が88.1%、『大大名の名宝』が89.0%となっている。

新規来館者の令和5年度全体では、肯定的評価が89.0%となっている。一方、否定的評価が2.6%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』が84.6%、『糸で描く物語』が88.6%、『大大名の名宝』が90.7%となっている。

※「どちらかというとはいい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

Q5④ 展覧会のことを勧めたいか

全体

		件数 (件)	いいえ	どちら ともい え	な い ち ら ど も	い ど ち ら は か と	はい	無 回 答
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	75	6.7	0.0	17.3	22.7	50.7	2.7
	糸で描く物語	268	3.0	0.7	11.6	24.6	59.7	0.4
	大大名の名宝	236	0.4	1.3	16.1	26.3	53.8	2.1
経 年	令和5年度	579	2.4	0.9	14.2	25.0	56.1	1.4
	令和4年度	294	4.1	2.0	11.2	24.5	56.8	1.4
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	233	3.0	1.3	11.6	25.3	57.5	1.3
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	22	9.1	0.0	18.2	18.2	54.5	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	7.7	7.7	5.1	23.1	53.8	2.6

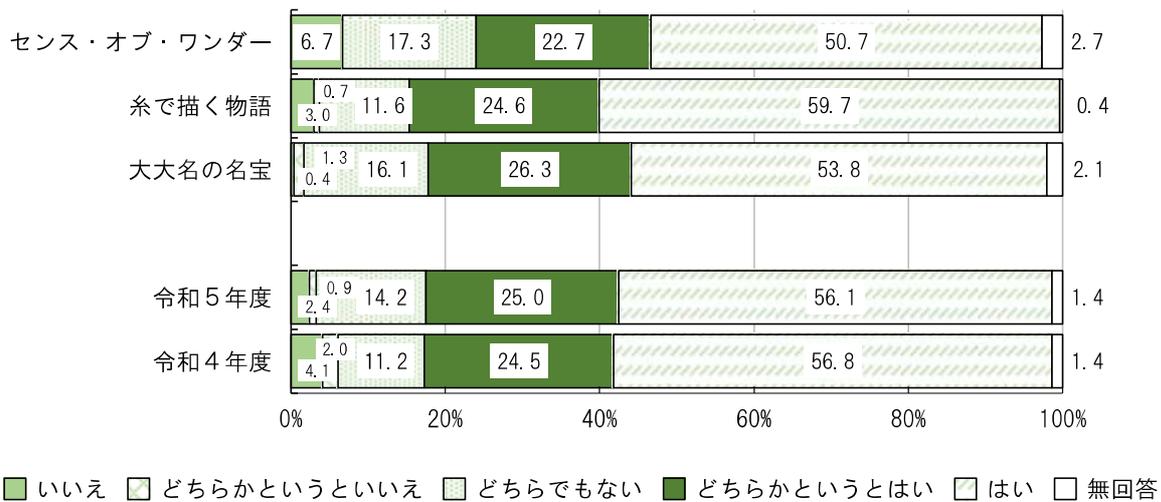
単位：％

新規来館者

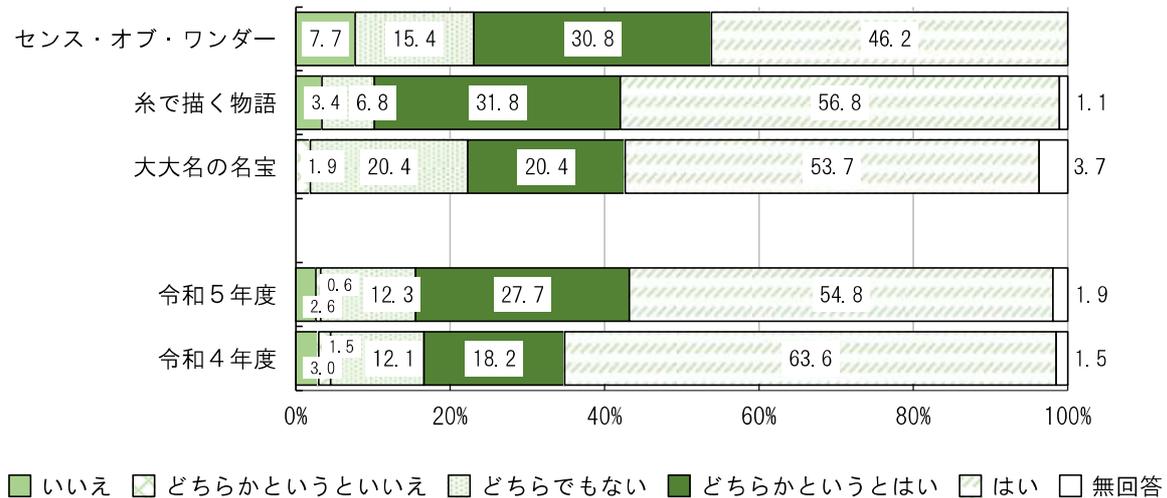
		件数 (件)	いいえ	どちら ともい え	な い ち ら ど も	い ど ち ら は か と	はい	無 回 答
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	13	7.7	0.0	15.4	30.8	46.2	0.0
	糸で描く物語	88	3.4	0.0	6.8	31.8	56.8	1.1
	大大名の名宝	54	0.0	1.9	20.4	20.4	53.7	3.7
経 年	令和5年度	155	2.6	0.6	12.3	27.7	54.8	1.9
	令和4年度	66	3.0	1.5	12.1	18.2	63.6	1.5
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	51	0.0	2.0	15.7	13.7	66.7	2.0
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	5	20.0	0.0	0.0	20.0	60.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	10.0	0.0	0.0	40.0	50.0	0.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



展示会の推奨意向について、令和5年度全体では、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が81.2%となっている。一方、「どちらかというといいえ」と「いいえ」を合わせた否定的評価が3.3%となっている。

展示会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』が73.3%、『糸で描く物語』が84.3%、『大大名の名宝』が80.1%となっている。

新規来館者の令和5年度全体では、肯定的評価が82.6%となっている。一方、否定的評価が3.2%となっている。

展示会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』が76.9%、『糸で描く物語』が88.6%、『大大名の名宝』が74.1%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

Q5⑤ 情報の入手しやすさ

全体

		件数 (件)	いいえ	どちら かといえ	な い ち ら も	い ど ち ら は か と	はい	無 回 答
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	75	2.7	5.3	14.7	21.3	54.7	1.3
	糸で描く物語	268	2.6	2.6	11.9	26.5	56.0	0.4
	大大名の名宝	236	0.4	5.9	14.4	23.7	52.5	3.0
経 年	令和5年度	579	1.7	4.3	13.3	24.7	54.4	1.6
	令和4年度	294	2.0	4.4	16.3	20.1	55.4	1.7
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	233	2.1	4.7	15.9	19.3	56.7	1.3
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	22	0.0	4.5	9.1	27.3	59.1	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	39	2.6	2.6	23.1	20.5	46.2	5.1

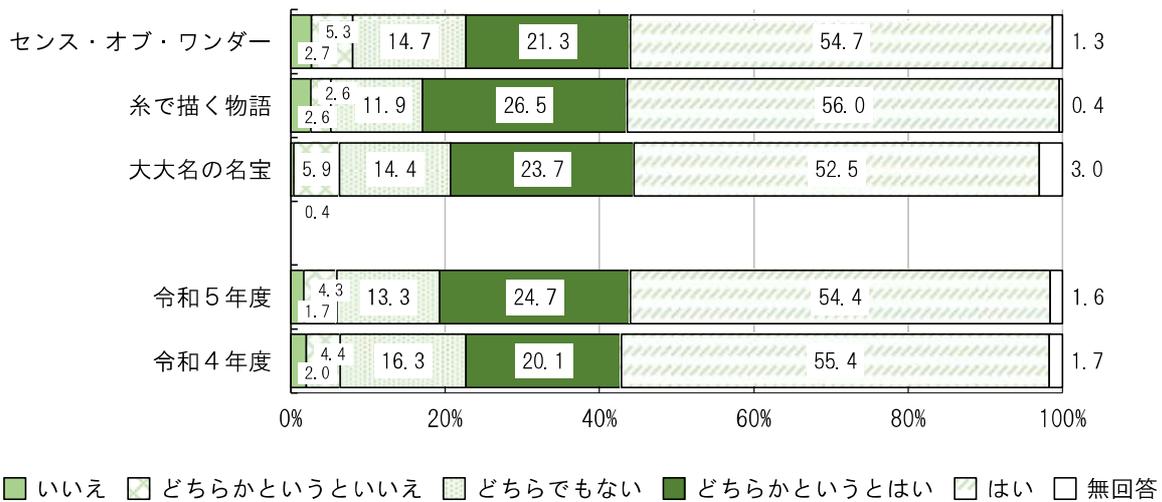
単位：％

新規来館者

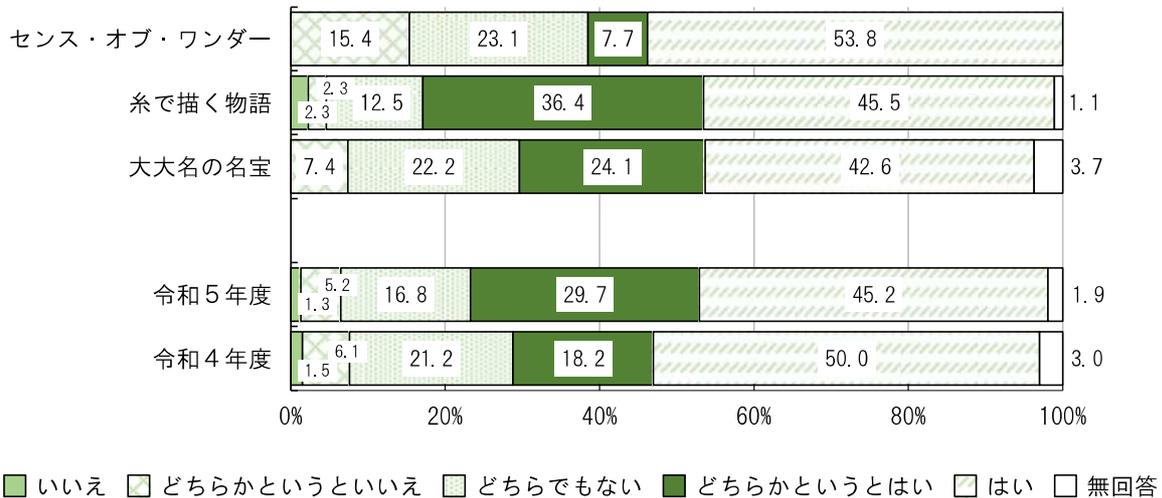
		件数 (件)	いいえ	どちら かといえ	な い ち ら も	い ど ち ら は か と	はい	無 回 答
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	13	0.0	15.4	23.1	7.7	53.8	0.0
	糸で描く物語	88	2.3	2.3	12.5	36.4	45.5	1.1
	大大名の名宝	54	0.0	7.4	22.2	24.1	42.6	3.7
経 年	令和5年度	155	1.3	5.2	16.8	29.7	45.2	1.9
	令和4年度	66	1.5	6.1	21.2	18.2	50.0	3.0
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	51	0.0	5.9	23.5	13.7	54.9	2.0
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	5	0.0	20.0	0.0	20.0	60.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	10.0	0.0	20.0	40.0	20.0	10.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



美術館に関する情報の入手しやすさについて、令和5年度全体では、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が79.1%となっている。一方、「どちらかというといいえ」と「いいえ」を合わせた否定的評価が6.0%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』が76.0%、『糸で描く物語』が82.5%、『大大名の名宝』が76.3%となっている。

新規来館者の令和5年度全体では、肯定的評価が74.8%となっている。一方、否定的評価が6.5%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』が61.5%、『糸で描く物語』が81.8%、『大大名の名宝』が66.7%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

Q5⑥ 来館の際の主な交通手段

全体

		件数 (件)	J R	静 鉄 電 車	路 線 バ ス	タ ク シ ー	自 家 用 車	そ の 他	無 回 答
令 和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	75	12.0	8.0	4.0	0.0	68.0	5.3	2.7
	糸で描く物語	268	9.7	9.0	6.3	1.1	63.1	9.7	1.1
	大大名の名宝	236	13.1	3.0	6.4	0.0	69.5	7.2	0.8
経 年	令和5年度	579	11.4	6.4	6.0	0.5	66.3	8.1	1.2
	令和4年度	294	11.9	6.1	4.4	0.7	66.0	9.2	1.7
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	233	9.9	4.7	4.7	0.4	71.2	8.6	0.4
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	22	9.1	13.6	0.0	0.0	63.6	4.5	9.1
	みる誕生 鴻池朋子展	39	25.6	10.3	5.1	2.6	35.9	15.4	5.1

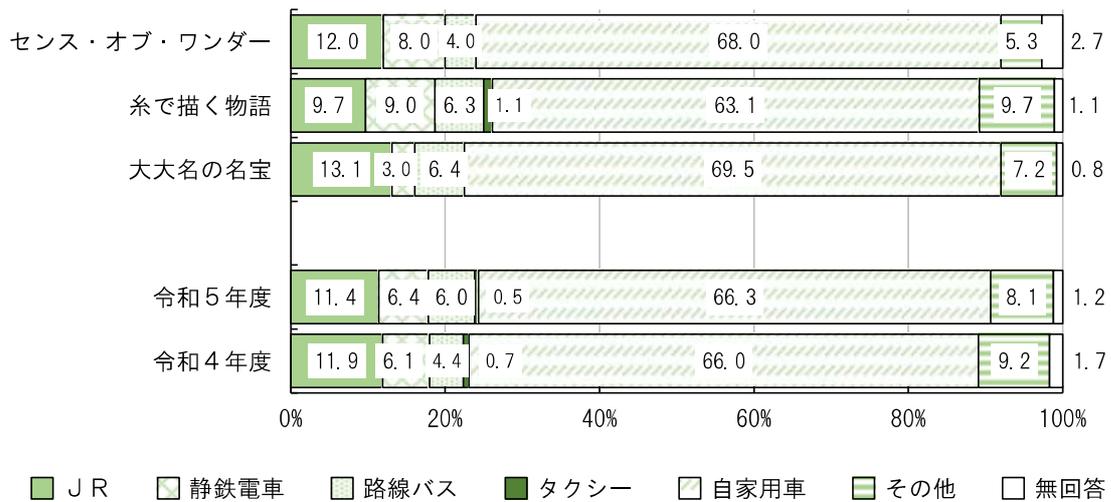
単位：％

新規来館者

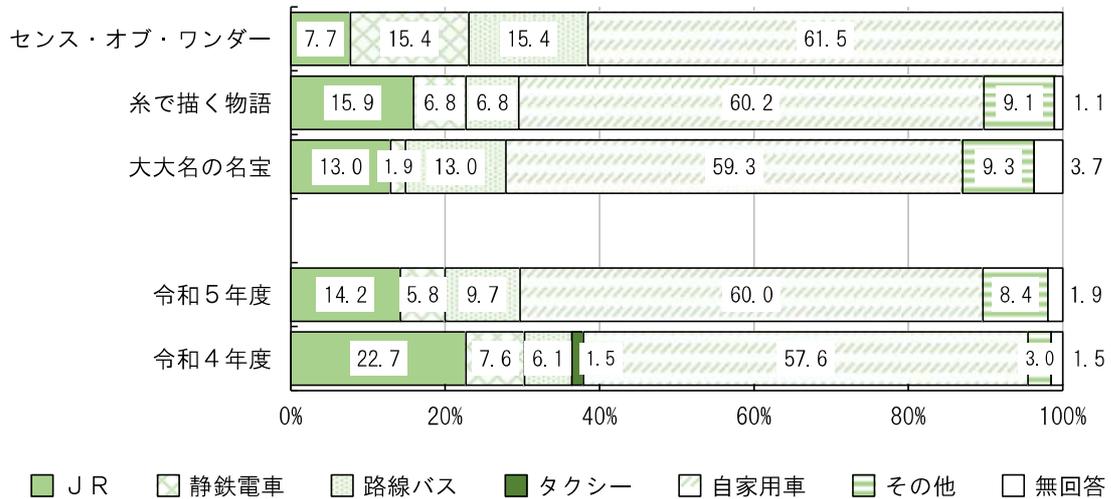
		件数 (件)	J R	静 鉄 電 車	路 線 バ ス	タ ク シ ー	自 家 用 車	そ の 他	無 回 答
令 和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	13	7.7	15.4	15.4	0.0	61.5	0.0	0.0
	糸で描く物語	88	15.9	6.8	6.8	0.0	60.2	9.1	1.1
	大大名の名宝	54	13.0	1.9	13.0	0.0	59.3	9.3	3.7
経 年	令和5年度	155	14.2	5.8	9.7	0.0	60.0	8.4	1.9
	令和4年度	66	22.7	7.6	6.1	1.5	57.6	3.0	1.5
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	51	17.6	7.8	5.9	0.0	62.7	3.9	2.0
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	5	20.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	50.0	10.0	10.0	10.0	20.0	0.0	0.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



来館の際の主な交通手段について、令和5年度全体では、「自家用車」66.3%が最も高く、以下「JR」11.4%、「その他」8.1%、「静鉄電車」6.4%、「路線バス」6.0%となっている。

新規来館者の令和5年度全体では、「自家用車」60.0%が最も高く、以下「JR」14.2%、「路線バス」9.7%、「その他」8.4%、「静鉄電車」5.8%となっている。

Q5⑦ 交通機関の利用のスムーズさ（※令和4年度では、公共交通機関の回答者のみが回答しています）

全体

		件数 (件)	いいえ	どちら とら いか いと え	な ど ち ら で も	い ど ち ら は か と	はい	無 回 答
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	18	0.0	16.7	0.0	33.3	44.4	5.6
	糸で描く物語	70	4.3	5.7	8.6	25.7	51.4	4.3
	大大名の名宝	53	5.7	13.2	11.3	13.2	56.6	0.0
経 年	令和5年度	141	4.3	9.9	8.5	22.0	52.5	2.8
	令和4年度	68	1.5	4.4	13.2	11.8	69.1	0.0
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	46	2.2	6.5	13.0	13.0	65.2	0.0
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	17	0.0	0.0	17.6	11.8	70.6	0.0

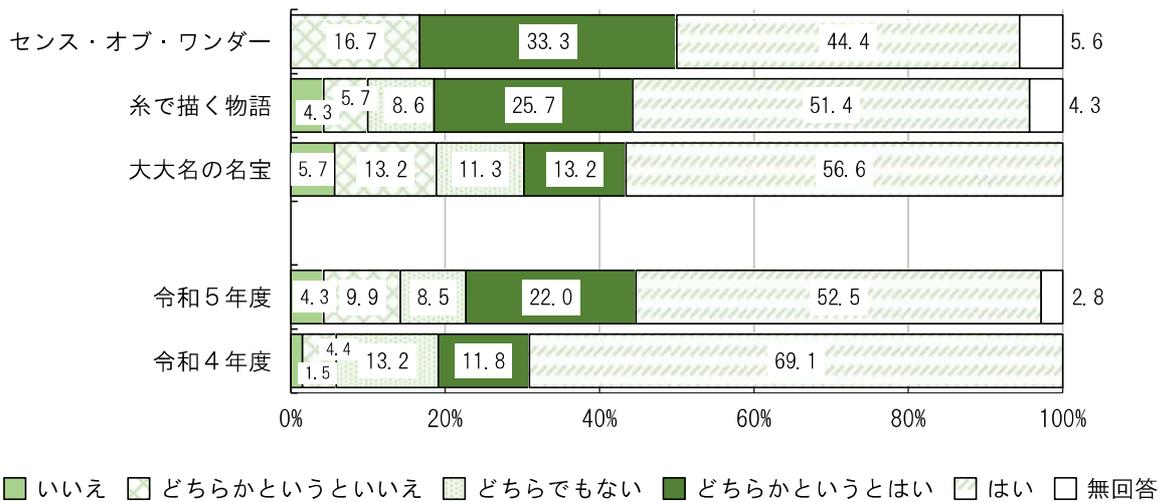
単位：%

新規来館者

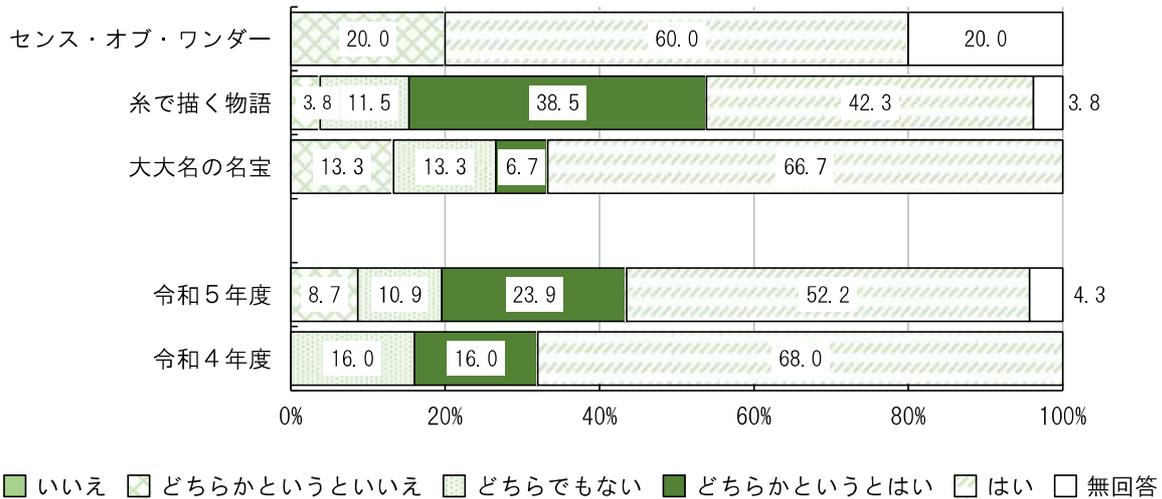
		件数 (件)	いいえ	どちら とら いか いと え	な ど ち ら で も	い ど ち ら は か と	はい	無 回 答
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	5	0.0	20.0	0.0	0.0	60.0	20.0
	糸で描く物語	26	0.0	3.8	11.5	38.5	42.3	3.8
	大大名の名宝	15	0.0	13.3	13.3	6.7	66.7	0.0
経 年	令和5年度	46	0.0	8.7	10.9	23.9	52.2	4.3
	令和4年度	25	0.0	0.0	16.0	16.0	68.0	0.0
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	16	0.0	0.0	18.8	18.8	62.5	0.0
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	8	0.0	0.0	12.5	12.5	75.0	0.0

単位：%

<全体>



<新規来館者>



公共交通機関の利用のスムーズさについて、令和5年度全体では、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が74.5%となっている。一方、「どちらかというといいえ」と「いいえ」を合わせた否定的評価が14.2%となっている。

展览会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』が77.8%、『糸で描く物語』が77.1%、『大大名の名宝』が69.8%となっている。

新規来館者の令和5年度全体では、肯定的評価が76.1%となっている。一方、否定的評価が8.7%となっている。

展览会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』が60.0%、『糸で描く物語』が80.8%、『大大名の名宝』が73.3%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

Q5⑧ 満足度

全体

		件数 (件)	いいえ	どちら かといえ	ない どちら でも	どちら はかと はい	はい	無回 答
令和 5 年度	センス・オブ・ワンダー	75	4.0	4.0	5.3	22.7	58.7	5.3
	糸で描く物語	268	1.5	1.1	6.0	18.3	70.1	3.0
	大大名の名宝	236	1.3	0.8	3.4	20.8	68.6	5.1
経 年	令和5年度	579	1.7	1.4	4.8	19.9	68.0	4.1
	令和4年度	294	2.0	2.7	4.1	20.4	65.3	5.4
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	233	2.1	2.1	3.9	22.3	64.8	4.7
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	22	0.0	4.5	4.5	18.2	68.2	4.5
	みる誕生 鴻池朋子展	39	2.6	5.1	5.1	10.3	66.7	10.3

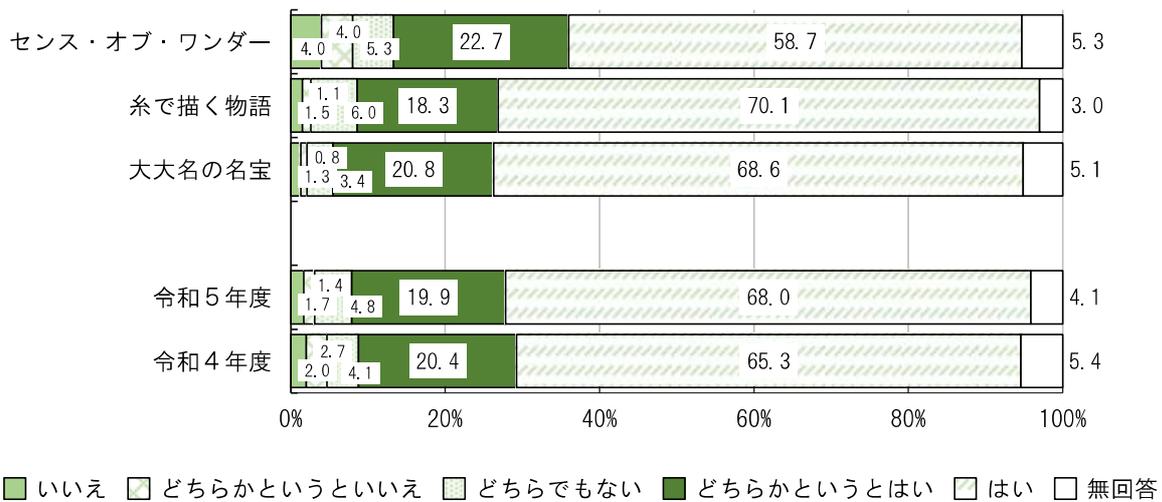
単位：％

新規来館者

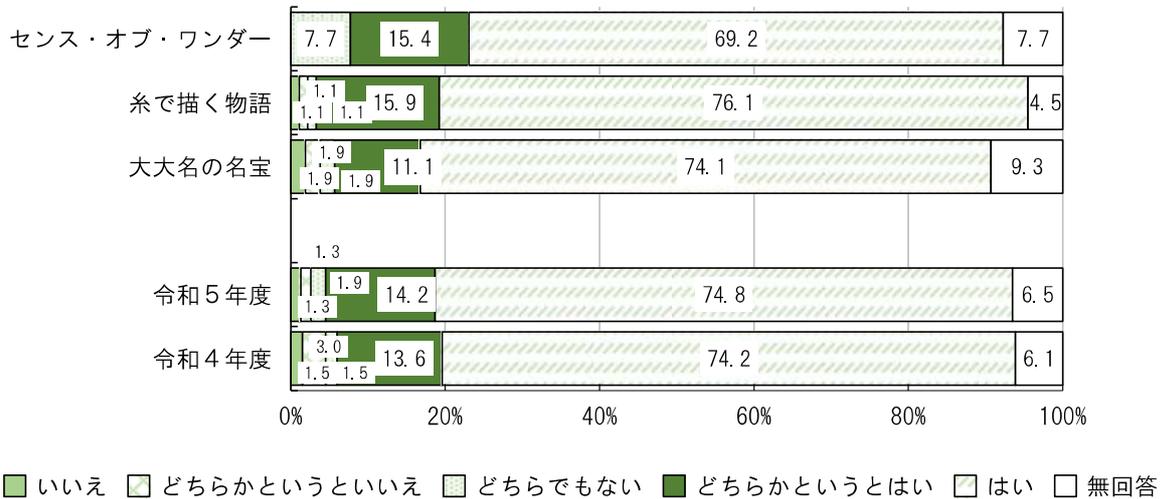
		件数 (件)	いいえ	どちら かといえ	ない どちら でも	どちら はかと はい	はい	無回 答
令和 5 年度	センス・オブ・ワンダー	13	0.0	0.0	7.7	15.4	69.2	7.7
	糸で描く物語	88	1.1	1.1	1.1	15.9	76.1	4.5
	大大名の名宝	54	1.9	1.9	1.9	11.1	74.1	9.3
経 年	令和5年度	155	1.3	1.3	1.9	14.2	74.8	6.5
	令和4年度	66	1.5	3.0	1.5	13.6	74.2	6.1
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	51	2.0	2.0	2.0	13.7	74.5	5.9
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	0.0	10.0	0.0	20.0	60.0	10.0

単位：％

<全体>



<新規来館者>



全体的な満足度について、令和5年度全体では、「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた肯定的評価が87.9%となっている。一方、「どちらかというといいえ」と「いいえ」を合わせた否定的評価が3.1%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』が81.3%、『糸で描く物語』が88.4%、『大大名の名宝』が89.4%となっている。

新規来館者の令和5年度全体では、肯定的評価が89.0%となっている。一方、否定的評価が2.6%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』が84.6%、『糸で描く物語』が92.0%、『大大名の名宝』が85.2%となっている。

※「どちらかというとはい」と「はい」を合わせた比率、「いいえ」と「どちらかというといいえ」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

5 レストラン、ミュージアム・ショップアンケート結果

Q7 レストランの満足度

全体

		件数 (件)	利用 レストラン	利用 しない	無 回答
令和 5 年度	センス・オブ・ワンダー	75	18.7	54.7	26.7
	糸で描く物語	268	21.6	60.1	18.3
	大大名の名宝	236	23.3	59.3	17.4
経 年	令和5年度	579	21.9	59.1	19.0
	令和4年度	294	24.1	49.7	26.2
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	233	26.6	48.1	25.3
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	22	9.1	72.7	18.2
	みる誕生 鴻池朋子展	39	17.9	46.2	35.9

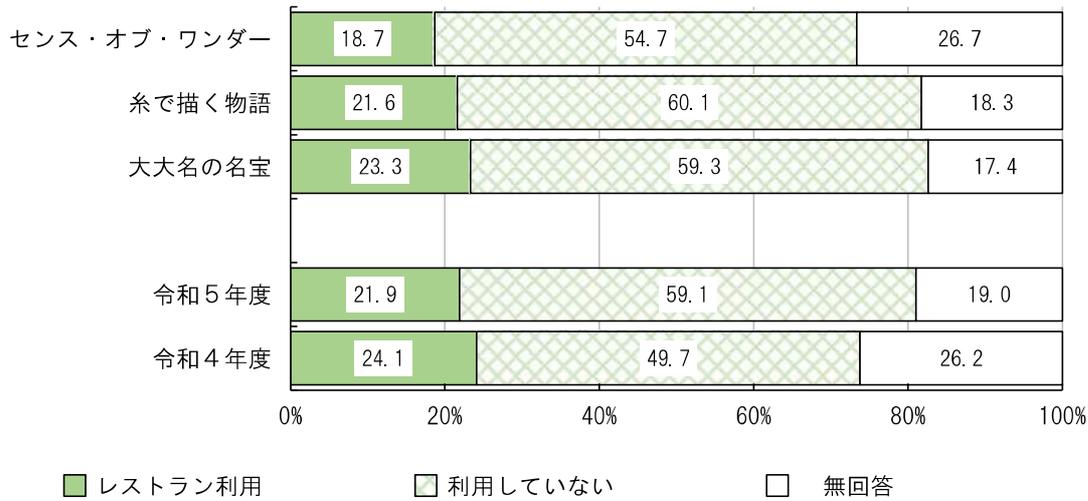
単位：%

新規来館者

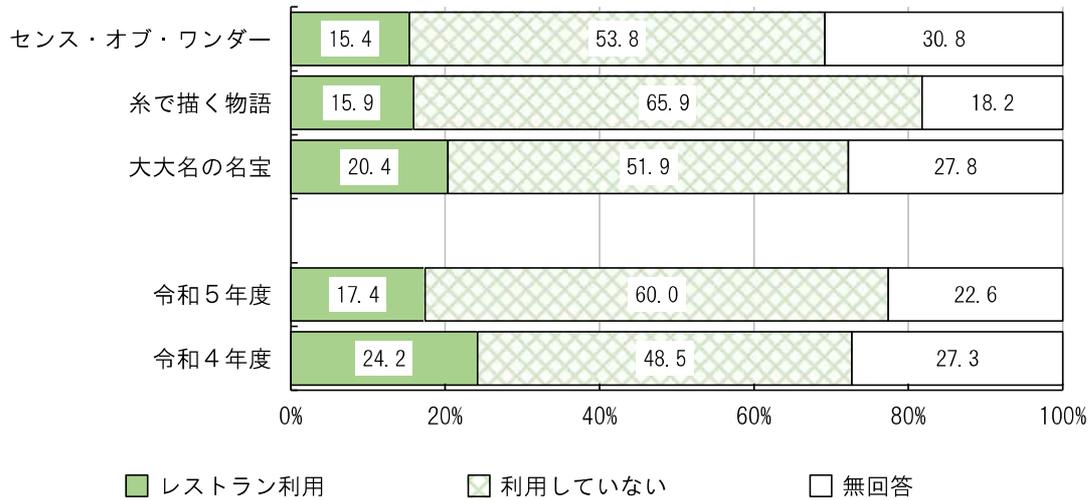
		件数 (件)	利用 レストラン	利用 しない	無 回答
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	13	15.4	53.8	30.8
	糸で描く物語	88	15.9	65.9	18.2
	大大名の名宝	54	20.4	51.9	27.8
経 年	令和5年度	155	17.4	60.0	22.6
	令和4年度	66	24.2	48.5	27.3
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	51	27.5	45.1	27.5
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	5	0.0	80.0	20.0
	みる誕生 鴻池朋子展	10	20.0	50.0	30.0

単位：%

<全体>



<新規来館者>



レストラン利用の有無について、令和5年度全体では、「レストラン利用」21.9%、「利用していない」59.1%となっている。

展覧会別にみると、「レストラン利用」は『センス・オブ・ワンダー』では18.7%、『糸で描く物語』では21.6%、『大大名の名宝』では23.3%となっている。

新規来館者の令和5年度全体では、「レストラン利用」17.4%、「利用していない」60.0%となっている。

新規来館者の展覧会別にみると、「レストラン利用」は『センス・オブ・ワンダー』では15.4%、『糸で描く物語』では15.9%、『大大名の名宝』では20.4%となっている。

レストランを利用された人の満足度
全体

		件数 (件)	不 満	や や 不 満	普 通	や や 満 足	満 足
令 和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	14	0.0	0.0	50.0	7.1	42.9
	糸で描く物語	58	3.4	5.2	50.0	13.8	27.6
	大大名の名宝	55	0.0	3.6	43.6	18.2	34.5
経 年	令和5年度	127	1.6	3.9	47.2	15.0	32.3
	令和4年度	71	1.4	4.2	56.3	12.7	25.4
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	62	1.6	3.2	59.7	12.9	22.6
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	みる誕生 鴻池朋子展	7	0.0	0.0	28.6	14.3	57.1

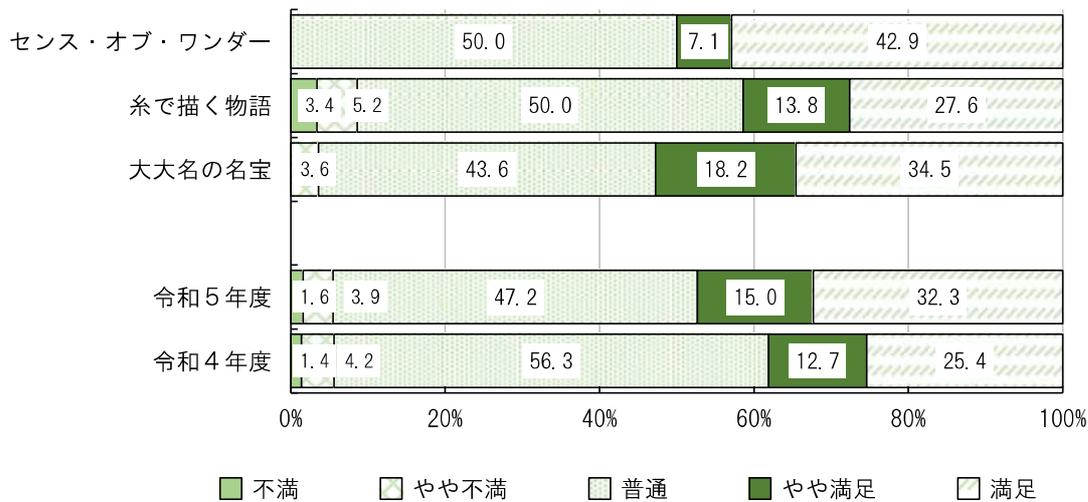
単位：%

新規来館者

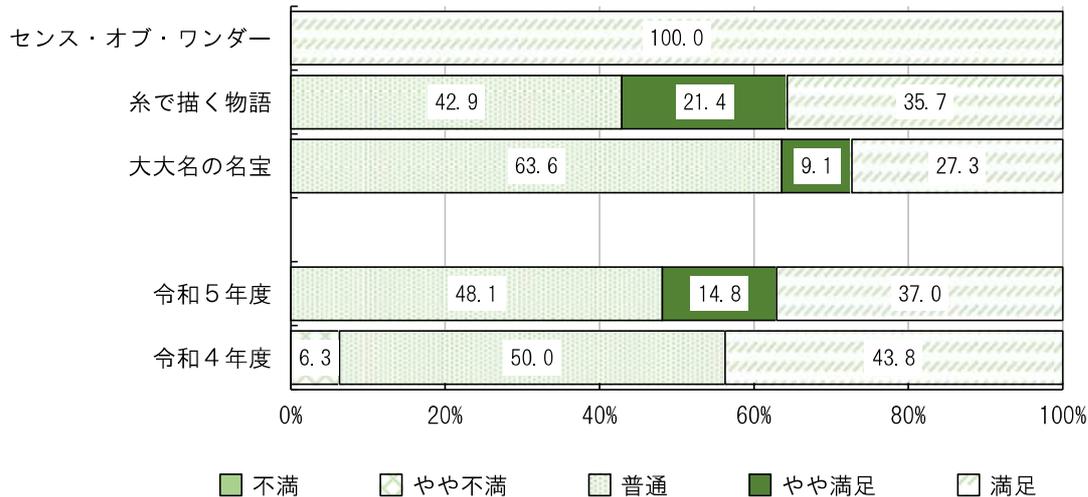
		件数 (件)	不 満	や や 不 満	普 通	や や 満 足	満 足
令 和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	糸で描く物語	14	0.0	0.0	42.9	21.4	35.7
	大大名の名宝	11	0.0	0.0	63.6	9.1	27.3
経 年	令和5年度	27	0.0	0.0	48.1	14.8	37.0
	令和4年度	16	0.0	6.3	50.0	0.0	43.8
令 和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	14	0.0	7.1	50.0	0.0	42.9
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	0	-	-	-	-	-
	みる誕生 鴻池朋子展	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0

単位：%

<全体>



<新規来館者>



レストランを利用された人の満足度について、令和5年度全体では、「やや満足」と「満足」を合わせた肯定的評価が47.2%となっている。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた否定的評価が5.5%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』50.0%、『糸で描く物語』41.4%、『大大名の名宝』52.7%となっている。

新規来館者の令和5年度全体では、肯定的評価が51.9%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』100.0%、『糸で描く物語』57.1%、『大大名の名宝』36.4%となっている。

※「やや満足」と「満足」を合わせた比率、「やや不満」と「不満」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

Q7 ミュージアム・ショップの満足度

全体

		件数 (件)	シミュ ッポー ジリア 用ム	い利用 してい な	無回 答
令和 5年 度	センス・オブ・ワンダー	75	50.7	26.7	22.7
	糸で描く物語	268	57.8	27.6	14.6
	大大名の名宝	236	53.0	30.9	16.1
経 年	令和5年度	579	54.9	28.8	16.2
	令和4年度	294	35.7	28.6	35.7
令和 4年 度	兵馬俑と古代中国	233	33.0	27.9	39.1
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	22	54.5	36.4	9.1
	みる誕生鴻池朋子展	39	41.0	28.2	30.8

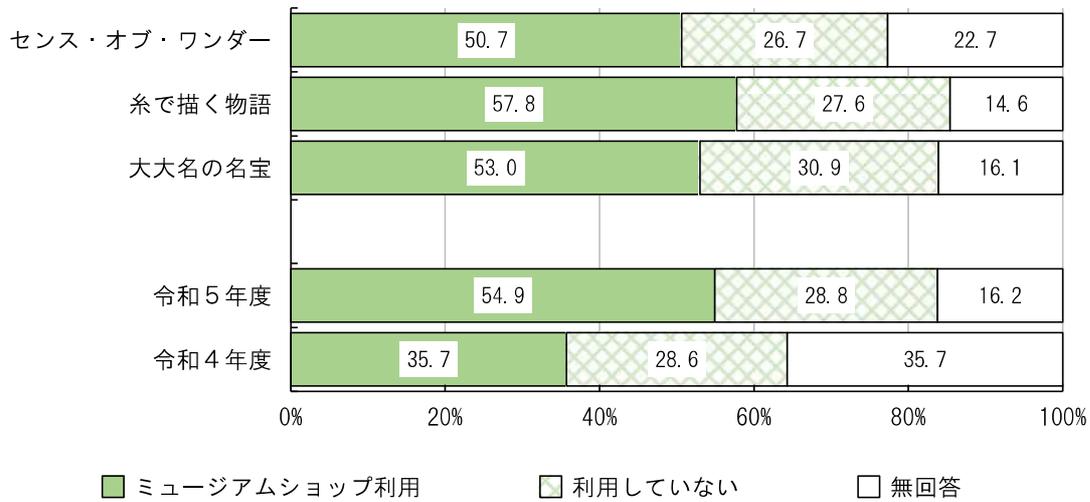
単位：%

新規来館者

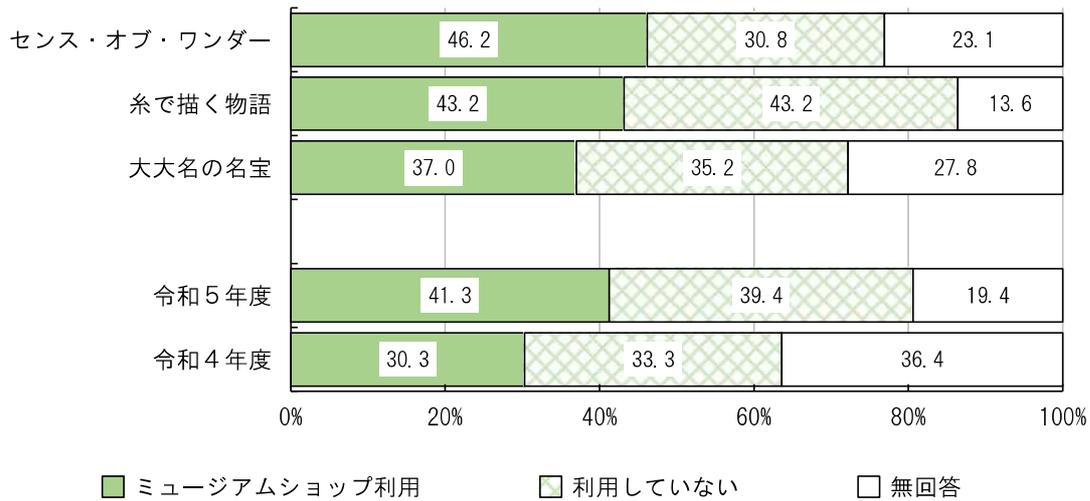
		件数 (件)	シミュ ッポー ジリア 用ム	い利用 してい な	無回 答
令和 5年 度	センス・オブ・ワンダー	13	46.2	30.8	23.1
	糸で描く物語	88	43.2	43.2	13.6
	大大名の名宝	54	37.0	35.2	27.8
経 年	令和5年度	155	41.3	39.4	19.4
	令和4年度	66	30.3	33.3	36.4
令和 4年 度	兵馬俑と古代中国	51	21.6	37.3	41.2
	絶景を描くー江戸時代の風景表現ー	5	60.0	20.0	20.0
	みる誕生鴻池朋子展	10	60.0	20.0	20.0

単位：%

<全体>



<新規来館者>



ミュージアムショップ利用の有無について、令和5年度全体では、「ミュージアムショップ利用」54.9%、「利用していない」28.8%となっている。

展覧会別にみると、「ミュージアムショップ利用」は『センス・オブ・ワンダー』では50.7%、『糸で描く物語』では57.8%、『大大名の名宝』では53.0%となっている。

新規来館者の令和5年度全体では、「ミュージアムショップ利用」41.3%、「利用していない」39.4%となっている。

新規来館者の展覧会別にみると、「ミュージアムショップ利用」は『センス・オブ・ワンダー』では46.2%、『糸で描く物語』では43.2%、『大大名の名宝』では37.0%となっている。

ミュージアムショップを利用された人の満足度
全体

		件数 (件)	不 満	や や 不 満	普 通	や や 満 足	満 足
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	38	5.3	5.3	21.1	21.1	47.4
	糸で描く物語	155	0.0	1.9	34.8	20.0	43.2
	大大名の名宝	125	0.0	0.8	32.8	20.0	46.4
経 年	令和5年度	318	0.6	1.9	32.4	20.1	45.0
	令和4年度	105	1.9	1.0	43.8	17.1	36.2
令和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	77	1.3	0.0	48.1	15.6	35.1
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	12	0.0	0.0	33.3	25.0	41.7
	みる誕生 鴻池朋子展	16	6.3	6.3	31.3	18.8	37.5

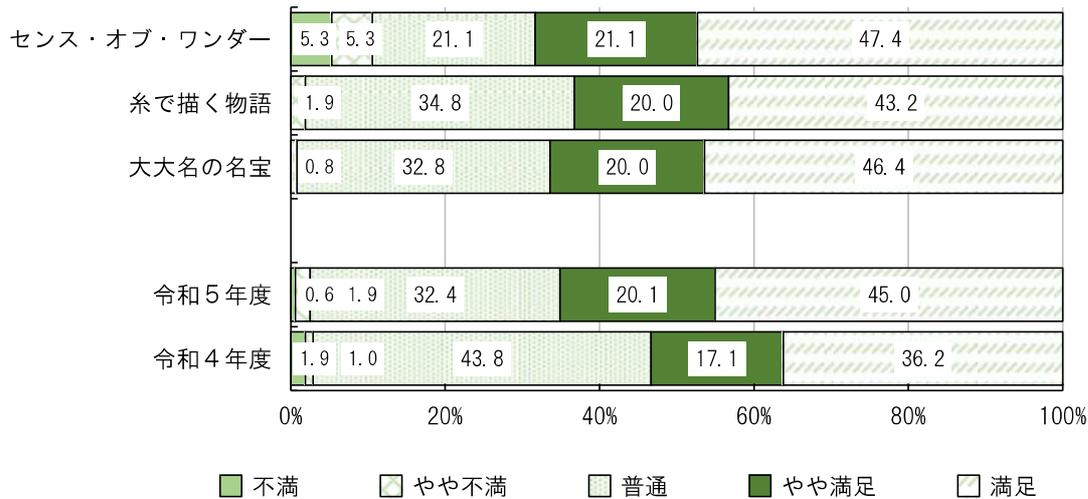
単位：％

新規来館者

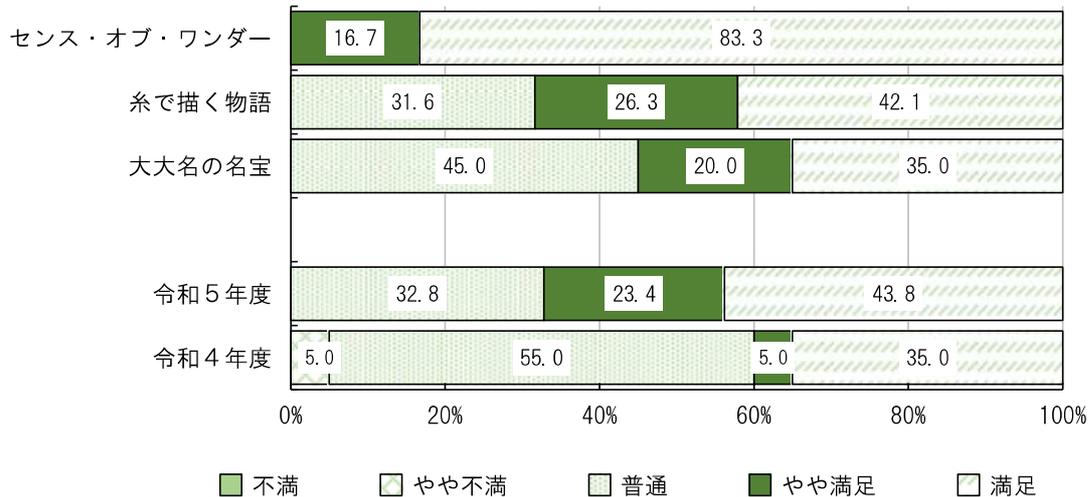
		件数 (件)	不 満	や や 不 満	普 通	や や 満 足	満 足
令和 5 年 度	センス・オブ・ワンダー	6	0.0	0.0	0.0	16.7	83.3
	糸で描く物語	38	0.0	0.0	31.6	26.3	42.1
	大大名の名宝	20	0.0	0.0	45.0	20.0	35.0
経 年	令和5年度	64	0.0	0.0	32.8	23.4	43.8
	令和4年度	20	0.0	5.0	55.0	5.0	35.0
令和 4 年 度	兵馬俑と古代中国	11	0.0	0.0	63.6	9.1	27.3
	絶景を描く－江戸時代の風景表現－	3	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7
	みる誕生 鴻池朋子展	6	0.0	16.7	50.0	0.0	33.3

単位：％

<全体>



<新規来館者>



ミュージアムショップを利用された人の満足度について、令和5年度全体では、「やや満足」と「満足」を合わせた肯定的評価が65.1%となっている。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた否定的評価が2.5%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』68.4%、『糸で描く物語』63.2%、『大大名の名宝』66.4%となっている。

新規来館者の令和5年度全体では、肯定的評価が67.2%となっている。

展覧会別にみると、肯定的評価は『センス・オブ・ワンダー』100.0%、『糸で描く物語』68.4%、『大大名の名宝』55.0%となっている。

※「やや満足」と「満足」を合わせた比率、「やや不満」と「不満」を合わせた比率は、それぞれ小数点第2位を四捨五入せずに合わせているため、表中の比率を合わせた値と0.1%異なる場合がある。

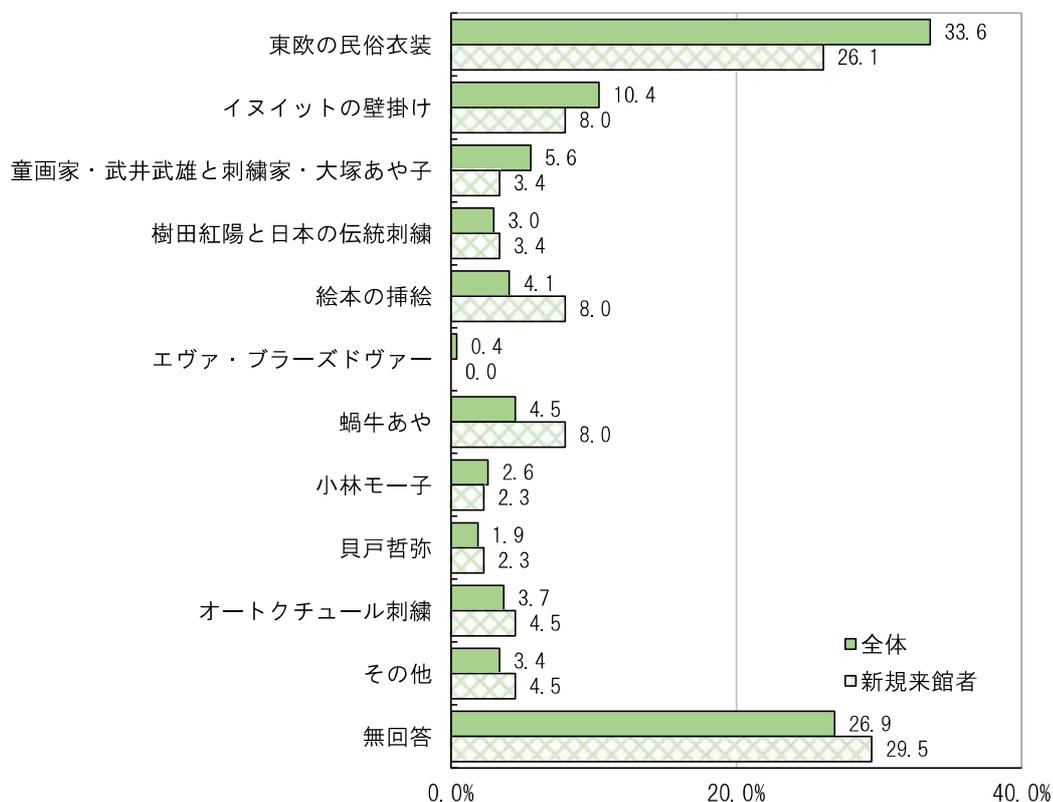
6 追加設問アンケート結果

Q6① ご来場前に最も関心のあったもの

	件数 (件)	東欧の 民族衣装	イヌイットの 壁掛け	童画家・武井武雄と刺繍家・大塚あや子	樹田紅陽と日本の 伝統刺繍	絵本の挿絵 (エヴァ・ブラーズドヴァー、 ホジェル・メモ)	エヴァ・ブラーズドヴァー (チエコの アート)	蝸牛あや (日本の 現代アート)	小林モー子 (日本の刺繍 アーティスト)	貝戸哲弥 (日本の刺繍 アーティスト)	オートクチュール刺繍	その他	無回答
全体	268	33.6	10.4	5.6	3.0	4.1	0.4	4.5	2.6	1.9	3.7	3.4	26.9
新規来館者	88	26.1	8.0	3.4	3.4	8.0	0.0	8.0	2.3	2.3	4.5	4.5	29.5

単位：%

<糸で描く物語>



ご来場前に最も関心があったものについて、全体では、「東欧の民俗衣装」33.6%が最も高く、以下「イヌイットの壁掛け」10.4%、「童画家・武井武雄と刺繍家・大塚あや子」5.6%、「蝸牛あや」4.5%となっている。

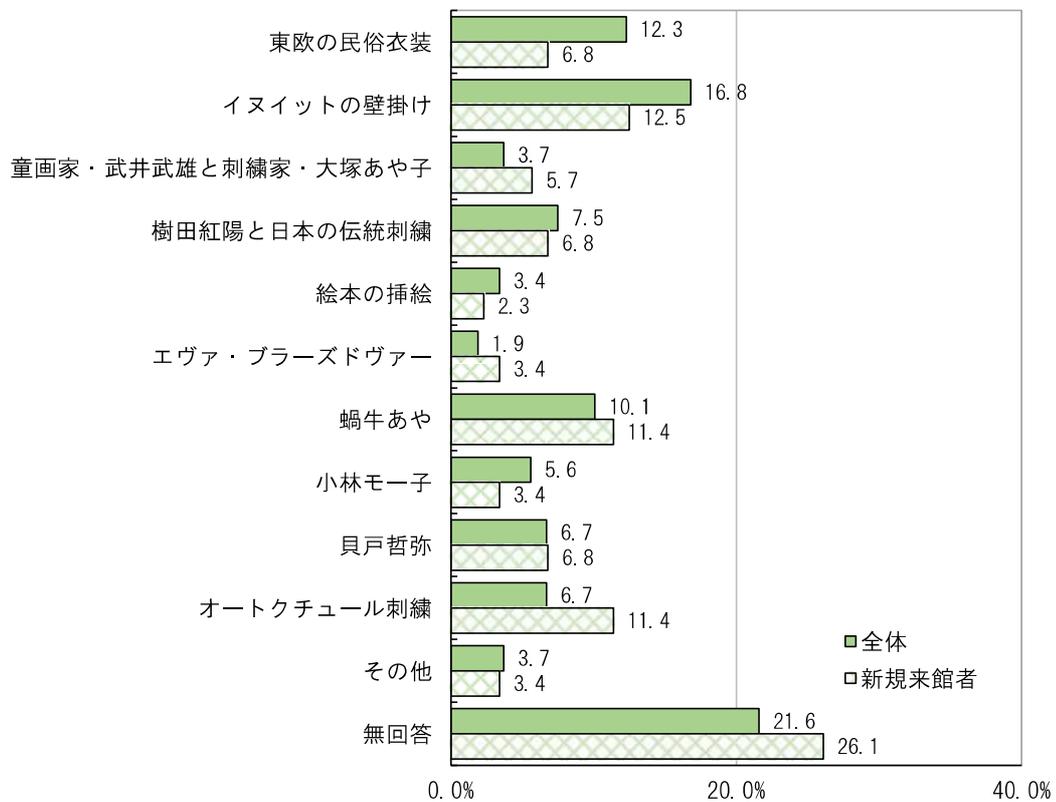
新規来館者の全体では、「東欧の民俗衣装」26.1%が最も高く、以下「イヌイットの壁掛け」8.0%、「絵本の挿絵」8.0%、「蝸牛あや」8.0%となっている。

Q6② ご覧になって、最も良かったもの

	件数 (件)	東欧の 民族衣装	イヌイットの 壁掛け	童画家・武井武雄と刺繍家・ 大塚あや子	樹田紅陽と日本の 伝統刺繍	絵本の挿絵 (エヴァ・ブロードヴァー、 ホジエル・メロ)	エヴァ・ブロードヴァー (チエコの アート)	蝸牛あや (日本の 現代アート)	小林モー子 (日本の 刺繍アーティスト)	貝戸哲弥 (日本の 刺繍アーティスト)	オートクチュール 刺繍	その他	無回答
全体	268	12.3	16.8	3.7	7.5	3.4	1.9	10.1	5.6	6.7	6.7	3.7	21.6
新規来館者	88	6.8	12.5	5.7	6.8	2.3	3.4	11.4	3.4	6.8	11.4	3.4	26.1

単位：%

<糸で描く物語>



ご覧になって、最も良かったものについて、全体では、「イヌイットの壁掛け」16.8%が最も高く、以下「東欧の民俗衣装」12.3%、「蝸牛あや」10.1%、「樹田紅陽と日本の伝統刺繍」7.5%となっている。

新規来館者の全体では、「イヌイットの壁掛け」12.5%が最も高く、以下「蝸牛あや」11.4%、「オートクチュール刺繍」11.4%、「東欧の民俗衣装」6.8%、「樹田紅陽と日本の伝統刺繍」6.8%、「貝戸哲弥」6.8%となっている。

7 自由意見

この展覧会または当美術館についてのご指摘やご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。とたずねたところ、231件の自由意見があり、分類・性質別に整理し掲載する。

自由意見の分類・性質別件数

	1			2			3			4			5		
	今回の展覧会			企画全般			展示方法			施設・環境			運営・スタッフ		
	A 感想	B 要望	C 苦情												
センス・オブ・ワンダー	20	2	0	3	2	1	8	4	2	5	4	0	2	2	4
糸で描く物語	32	1	1	2	4	0	2	14	2	21	7	3	1	2	7
大大名の名宝	23	1	0	1	8	0	4	8	6	15	6	6	2	5	2
全体	75	4	1	6	14	1	14	26	10	41	17	9	5	9	13

単位：件

< A 感想 >

【1 今回の展覧会】

内容	性別	年代
センス・オブ・ワンダー		
楽しかったね。	男性	12歳以下
中村宏「イカルス」を観たいと思いき来館した。実物が観られて幸運だ。	男性	50歳代
タイトルから、インスタレーション作品がもっと多いことを期待していました。	男性	60歳代
太田正樹コレクション展、良かった！	男性	60歳代
すばらしい一言。感動、感謝、感激。	男性	70歳以上
センス・オブ・ワンダーと出ていたけれど、あまりそう感じなかった。もっと触れたり、徳があると思った。	女性	12歳以下
楽しかったよ。	女性	12歳以下
とても楽しく観させていただきました。	女性	20歳代
五感…？展示作品は面白かったです。	女性	20歳代
水上の蛍の鑑賞体験が非常に新鮮で楽しめた。他の作品も今まで目にしたことのない作品や作家をすることができ、見識を広めることができ、面白かった。	女性	20歳代
五感を使って作品を観るといのは自分にとって新たな視点でした。	女性	20歳代
太田コレクション、もらえて良かった。今を生きる人のアート、もっと観たい。	女性	30歳代
良いコレクションをいただきましたね。	女性	40歳代
娘が光の部屋に大興奮でした。	女性	40歳代
現代美術が好きなので、寄贈された太田コレクションを楽しみにしていた。全て観れると思っていたので、たった20点でがっかり。	女性	50歳代

内容	性別	年代
現代ファンなので太田さんのコレクションを本当にうれしく思っています！これからも展示して下さい。李さん作品の回顧展もできそうですね。	女性	50 歳代
本日は、解説を聞くことができて良かったです。	女性	60 歳代
草間弥生の「水の蛍」の展示は素晴らしかったです。展示にかかる手間や管理体制などいろいろとご苦労もありがたかと存じますが、また定期的に展示していただけたら幸いです。	女性	60 歳代
センス・オブ・ワンダーが良かったです。	女性	70 歳以上
とても楽しかったです。	その他	20 歳代
糸で描く物語		
すごく楽しかったからまた来たい。	男性	12 歳以下
作品一つ一つを観る度に「すごい」と思わず言ってしまうようなものばかりでした。	男性	20 歳代
とても良かったです。興味深く観ることができました。	男性	20 歳代
良い展示でした。ありがとうございました。	男性	30 歳代
糸や布モノはあまり興味がわかないのですが、おもしろかった。	男性	50 歳代
刺繍は芸術作品。特にアンティークが素晴らしい。	男性	50 歳代
糸をテーマにした展覧会というのは初めてであり、ユニークでとても良かった。	男性	60 歳代
東欧の衣装の刺繍の細かさに驚きました。衣服や工芸というイメージばかり強かった刺繍が、絵本や現代美術としての表現手段になっていることにさらに驚きました。	男性	60 歳代
とても楽しかったです。	女性	13～19 歳
初めて観たけれど、感動しました。	女性	13～19 歳
想像していたよりずっとおもしろかったです。昔の伝統と現代作家を一緒に観られて良かったです。	女性	13～19 歳
糸や布でも表現できることの素晴らしさを感じました。とても美しかったです。	女性	20 歳代
マーケット（9/10）に合わせて来館しました。イベントと関連性のある企画展で楽しめました。	女性	20 歳代
細かい刺繍（企画1）が観れて良かった。	女性	30 歳代
本当に素敵な企画でした。東京から来て良かったと思いました。ありがとうございます。	女性	30 歳代
どの展示も良かったです。	女性	30 歳代
いつも観られない作品が一同に観られて、とても楽しかったです。	女性	40 歳代
“刺繍”というテーマで横断された展示会、すごく良かった。	女性	50 歳代
今回の展覧会は実際に観たからこそ良さがわかったと思った。	女性	50 歳代
絵の多い中、刺繍というジャンルで思ったよりも中味が濃くて楽しめました。	女性	50 歳代
刺繍が好きなので楽しかったです。一部撮影も OK なのもありがたかったです。	女性	50 歳代
細かな作業に魅了されました。	女性	50 歳代
細かい刺繍に目が釘付けでした。	女性	50 歳代
一通り全て拝見いたしまして全て本当に良かったです。本当にありがとうございます。大感謝致します。	女性	50 歳代

内容	性別	年代
とても感動しました。	女性	60 歳代
展覧会はどの作品も素晴らしく、内容も深く、とても満足しました。テクニクアートにも参加させていただき、ありがとうございました。	女性	60 歳代
とっても楽しいひと時でした。ありがとうございます。	女性	60 歳代
ゆったりと観れてリラックスできました。	女性	60 歳代
別のところで開催されたニュースを見て静岡にも巡回されることを知りました。刺繍は本物を観ないとよくわからないので、来て、目にできて良かったです。	女性	60 歳代
迷いながら来たけれど、イヌイット以降、素晴らしかった。インドの子どものための絵本展（練馬区立美術館）の感動を思い出した。イヌイットや蝸牛、樹田を前面に出せば良かったと思う。刺繍の表現方法の広さを知った。	女性	70 歳以上
イヌイットの壁掛けがグラフィカルかつ、彼らの暮らしが見えるおもしろい作品ばかりで、手元に置いておきたかったのですが、グッズが販売されておらず、少し悲しかったです。	その他	13~19 歳
本日 2 回目でスケッチに来ました。おもしろかったです。	その他	13~19 歳
大大名の名宝		
とても良かった。	男性	12 歳以下
良い絵を観られて満足です。	男性	30 歳代
とても楽しかったです。	男性	40 歳代
狩野派に関する情報と研究が伺えた。	男性	40 歳代
狩野派の特集をいつも楽しみにしています。	男性	50 歳代
フロア解説が良かったです。	男性	50 歳代
また楽しみにしています。	男性	50 歳代
今回、企画良かったです。国立（東京国立博物館、西洋美術館など）に行きますが、ゆっくり鑑賞できました。	男性	60 歳代
県立美術館の収蔵品も含めての展示という企画が面白かったです。	男性	60 歳代
コロナ禍以降、県外の美術館へ行くにはやめていたので、東京の永青文庫の名品を党間で観ることができて良かったです。	男性	60 歳代
妻の予定に合わせて来静。会合中の嫁と別行動で観覧、鑑賞し満足できた。	男性	60 歳代
2 年前の狩野派展で衝撃を受けて以来、とても楽しみにしていました。狩野派の作品をじっくり観られてうれしいです。解説も含め、すごく見応えがありました。また楽しみにしています。	女性	30 歳代
また来たいです。	女性	40 歳代
なかなか観られないもので、想像が膨らみました。	女性	50 歳代
自館の作品と他館の作品がマッチしていました。	女性	50 歳代
見応えがあった。	女性	50 歳代
企画展だけで時間がいっぱい。またゆっくり来たいです。	女性	50 歳代
見応えがあり、面白かったです。	女性	50 歳代

内容	性別	年代
ギャラリートークが良かった。	女性	60 歳代
見応えがありました。	女性	70 歳以上
永青文庫に行けないので大変うれしい。後期も来ます。	女性	70 歳以上
最高でした。	女性	70 歳以上
久しぶりに来て、とても良かったです。	女性	70 歳以上

【2 企画全般】

内容	性別	年代
センス・オブ・ワンダー		
現代アートの展覧会が増えるとうれしいです。静岡であまり観ることができず、東京へ行くことが多いため。	女性	30 歳代
以前、床に大きな枝のようなものを置き、シロフォンのパチで音を出す作品があり、とても良かったので、また体験したいです。	女性	60 歳代
会場での出会いの作品がありました（出身で）。大久保婦久子さんの作品の説明や作品を鑑賞でき、市の文化会館に飾られていたゆかりのある芸術作品との出会いがあり、思い出深い展覧会でした。	女性	60 歳代
糸で描く物語		
また来てゆっくり観たいです。	女性	40 歳代
これからもおもしろいものを願います。	女性	50 歳代
大大名の名宝		
武将の展示など。	男性	20 歳代

【3 展示方法】

内容	性別	年代
センス・オブ・ワンダー		
企画が面白い。キュレーターの力量がよく反映されていると思う。大規模なものよりも、練られた展示コンセプトを考えさせられるのが楽しみです。アートの見方を考えさせられた。	男性	50 歳代
わかりにくい展示物だった。	男性	70 歳以上
1つのテーマに特化した展示というよりかは、美術全体の鑑賞の仕方、面白さがわかるような展示だったので、ご年配の方というよりかは、小さい子や学生の私達が楽しめるような展示で面白かったです。もっと他の学生さんも来てほしいなと思いました。	女性	13~19 歳
テーマは面白いですが、非常に中途半端な感じ。五感と言いつつ、結局、視覚のみでは？	女性	40 歳代
センス・オブ・ワンダーともう少し関わりがあればなお良かったです。音や触感など控え目でした。もっと五感を使いたかったです。	女性	40 歳代
素材に触れる、音が聴けるところが面白かったです。	女性	40 歳代
画そうですが、音との組み合わせはとても良かったです。驚くことも多かったです。	女性	50 歳代

寄贈作品を丁寧かつ見やすく展示できる館の設えと、学芸員さんがいるのは良いことだと思う。	無回答	40 歳代
糸で描く物語		
見やすい展示で良かったです。	女性	40 歳代
ロダンについても1つずつ文章があると良いと思いました。楽しめました。	女性	60 歳代
大大名の名宝		
展示の意図がわかりやすく説明されていました。大変勉強になりました。	男性	60 歳代
展示や空間の演出が心地良く、じっくり観ることができました。	女性	20 歳代
展示物が多く、見応えのあるものだった。ゆったりして見やすい。	女性	60 歳代
キャプションの字が大きくて良かったです。	その他	50 歳代

【4 施設・環境】

内容	性別	年代
センス・オブ・ワンダー		
座るところを作ってくれてありがとう。	男性	70 歳以上
静かですごく落ち着きました。	女性	12 歳以下
静かな雰囲気のため、じっくり見れました。照明も見やすかったです。	女性	20 歳代
別な用事で近くに来たので立ち寄りしました。晴天でもなく気持ちの良い日です。第3？第2？駐車場に停め歩きました。様々な作品が向かう道の途中に展示され、ワクワクしてきました。美術館がとても大きく、圧倒されました。作品一つひとつ、テレビで観るのと違い、立体感、質感、におい、温度を感じられました。作者がどうしてこれらの作品を思いつき、何と想像を超えるほどの時間と労力をかけて今、私の目の前に現れたのか！と圧倒させられました。	女性	40 歳代
ロダン館がとても良かったです。自然光が入るのが特に気に入りました。	女性	40 歳代
糸で描く物語		
ロダン館が神秘的でとても良かった。	男性	12 歳以下
静かで見やすかったです。	男性	13～19 歳
美術館に来るのは初めてでしたが、落ち着いた空気が良かったです。	男性	13～19 歳
静かで落ち着いた空間で観ることができました。公式 Twitter も楽しく拝見しています。	男性	30 歳代
非常に素晴らしい美術館です。もっと知られても（雑誌の取り上げ等）良いと思います。	男性	40 歳代
中が広くて子どもと一緒にでも落ち着いて拝見できました。	男性	40 歳代
ロダンの展示が素晴らしいので是非続けてください。	男性	50 歳代
ロダン展の置かれている空間が良かった。	男性	70 歳以上
収蔵品展の書についてが良かったです。	男性	70 歳以上
雰囲気も空調も快適でした。	女性	13～19 歳
小1男子が初めて観る彫刻にとっても興味を持っていてびっくりしました。いつも動く昆虫ばかり追いかけていますが、思い切って連れて来て良かったです。	女性	40 歳代

内容	性別	年代
ロダン館、初めて見学しました。静岡に住んで5年ですが、知りませんでした。素晴らしかったです。	女性	40歳代
美術館の建物の構造そのもの（ロダン館の天井）も素晴らしいです。	女性	50歳代
入館前に冷茶をいただいた。静岡だなあと感じてうれしかった。	女性	50歳代
落ち着いた雰囲気です。じっくり鑑賞できて良かったです。	女性	50歳代
温かい時間をありがとうございました。ロダン館、静かに悠然と佇んでいて想像以上でした。	女性	50歳代
ロダン館は良かったです。	女性	60歳代
室温も良かったです。	女性	60歳代
平塚ではよく行っていたので、また来たいです。	女性	60歳代
給水コーナーがうれしいです。	女性	60歳代
大学生無料がありがたいです。	その他	13～19歳
大大名の名宝		
地獄の門が思っていたよりもとてもでかく、印象的だった。	男性	12歳以下
以前のミュシャは最高で、何回か来館するほどだった。	男性	40歳代
洋画、書、日本画、彫刻。	男性	70歳以上
地獄の門がかっこよかったです。	女性	13～19歳
休むイスが多くて良かった。もちろん作品も！	女性	20歳代
大好きな美術館です。また来ます。	女性	30歳代
空間が広くとられていて、動きやすい。日常から離れた雰囲気がうれしい。	女性	30歳代
ロダン館と一緒に観られたり、ワークショップに参加できたりと、予想以上に楽しめました。	女性	40歳代
ロダンウィークの地獄の門に感動した。近々、家族で来たい。	女性	40歳代
平日だったので静かに観られて良かった。	女性	50歳代
気持ちや和らぐ時間を過ごさせてもらっています。今日もリフレッシュができてうれしいです。	女性	60歳代
キリスト聖書もあり、良かった。	女性	60歳代
自然豊かな立地で、景色も良い。	女性	60歳代
体験をさせていただき、ありがとうございました。	女性	70歳以上
東京にはよく行っていましたが、年も取りましたので、また来館したいです。	女性	70歳以上

【5 運営・スタッフ】

内容	性別	年代
センス・オブ・ワンダー		
大学生以下は無料なのがとてもうれしいです。	女性	13～19歳
資料室では関連ある小冊子や赤城氏の本を調べて下さり、ありがとうございました。	女性	60歳代
糸で描く物語		
スタッフさんの対応も丁寧で、また来たいと思います。ありがとうございました。	男性	20歳代

内容	性別	年代
大大名の名宝		
クイズラリー、良かったです。	女性	30歳代
学芸員さんたちの解説がとても良く、絵の理解が深まった。	女性	70歳以上

<B 要望>

【1 今回の展覧会】

内容	性別	年代
センス・オブ・ワンダー		
レイアウトのパンフは入口でほしかった。	男性	70歳以上
触れるレプリカの台座、子どもも触れる高さにしてあげてほしかったです。	無回答	無回答
糸で描く物語		
日本刺繍をもっと観たかった。	女性	70歳以上
大大名の名宝		
11/12の対談は、絵を観るうえでとても参考になりました。最後の方のスライドをもっと詳しく観たかったです。	女性	50歳代

【2 企画全般】

内容	性別	年代
センス・オブ・ワンダー		
水上の蛍は、また定期的に展示してほしい。	女性	30歳代
一方で、寄贈でしかコレクションを増やすことができないのだとしたら、静岡県はちょっと恥ずかしいなと思いました。他館のショップを何館かリサーチに行ったらどうですか？	無回答	40歳代
糸で描く物語		
魅力ある企画展をお願いします。また来ます。	男性	50歳代
体験イベントの日数を増やしてほしいです。	女性	12歳以下
perfume 初の大規模衣裳展を開催してほしいと思います。	女性	20歳代
現代の作家さんのをもっと観たい。	女性	30歳代
大大名の名宝		
若者人気を狙え。鳥山明やってほしい。三国志も。	男性	12歳以下
企画展の回数を増やしてほしい。	男性	70歳以上
Perfume 初の大規模衣裳展を開催してほしいと思います。	女性	20歳代
近代日本画や版画を観たいです。	女性	50歳代
刀剣展をやってほしい。	女性	50歳代
浮世絵をもっと取り上げてほしいです。	女性	50歳代

内容	性別	年代
美術館散策と題して、ウォーキングと合体したらと思った。イヤな人もいるかしら？職員の方の、ここを見てとかアピールがあると良いかも？作品を観ていて色々な質問がわき出たので、質問受付箱みたいなものを設置して、HPで質問に答えるような対応をしたらどうでしょうか？	女性	60歳代
華やかな色遣いの絵や陶器の作品展を観たい。	女性	60歳代

【3 展示方法】

内容	性別	年代
センス・オブ・ワンダー		
アートシーンで会場で音楽が流れていることを知り、興味を持って来たが、音を使うならもう少し音量を上げるなど、もっと積極的に使用しても良かったと思う。	男性	60歳代
#52 嶋本昭三の作品は、影が出ないような照明の当て方にすべき。	男性	60歳代
逆回りしている人が多かったので、順路を書いてほしい。	女性	20歳代
もう少し映像作品やインスタレーションがあると良かったです。	女性	50歳代
糸で描く物語		
実際に着ている（民族衣装）写真や絵があったら、もっとイメージが付くと思いました。	男性	13～19歳
刺繍に興味があったので、作品の技法、素材について知りたかった。	男性	50歳代
写真可のものをより多くしてください。	男性	70歳以上
説明が多く、わかりやすいが、どの作品のものかももう少し明確だと良いかもしれません。	女性	13～19歳
キャプションに素材や手法を書いてほしかった。	女性	20歳代
写真OKについて、Room2のところがわかりにくかった。	女性	20歳代
使っている素材が糸を何本どりで使用してあるかの説明がほしかった。ビーズ、スパンコール、刺繍にトライしてみたくなった。	女性	40歳代
キャプションがガラスに反射して見づらい時があります。他はいつも満足しています。	女性	50歳代
刺繍技術について詳しく解説してほしかった。	女性	50歳代
時々、鑑賞の順序がわからなくて行ったり来たりすることがある。特に新しい分野(?)に移動する時。	女性	50歳代
説明がもう少しあると良い。	女性	50歳代
素材の表記がほしい。	女性	60歳代
刺繍についての説明のVTR等がほしい。	女性	60歳代
東欧の刺繍（頭にかぶる作品）、できれば頭に着けた写真（それに似たもので可）があれば。	女性	70歳以上
大大名の名宝		
難しい漢字にカナを付けてほしい。その他は満足しています。	男性	40歳代
途中、左一右に観ようになっていたのは残念。	男性	50歳代
彫刻を触れるようにしてほしい。	女性	30歳代
様々な種類の鳥が描かれていました。漢字にフリガナがふってあると良いと思いました。	女性	50歳代

内容	性別	年代
中高生向けにルビを添える。無料の解説、講演をする。説明が少ない。西王母は冷泉家に立派な雛人形があり、三千歳、東方朔は九千歳で桃を3つ盗んだなども。	女性	60歳代
狩野派の家系図がもう少しわかりやすいところにあったら良かったです。途中にあり、黒っぽかったので探しにくかった。	女性	60歳代
順番がわかりにくいところがありました。	女性	60歳代
44の解説、蘇我の生年について書いてあると時代がわかって良いと思った。	女性	70歳以上

【4 施設・環境】

内容	性別	年代
センス・オブ・ワンダー		
駐車場が狭くて不安がある。駐車スペースを広くしてほしい。	女性	12歳以下
自販機があるとうれしいです。	女性	20歳代
観覧時間も長くしてほしい。	女性	30歳代
駅からレンタサイクル（パルクール）が使えると良いと思いました。美術館に乗り捨てステーションがあると坂道が楽です。	女性	50歳代
糸で描く物語		
座れるところを増やしてほしい。	男性	60歳代
美術館について、杖をついた方がいたのですが、スロープがわかりにくいのか階段をのぼってきたので、玄関側（外です）に1つあるといいよね。	女性	40歳代
古いのでトイレをきれいにしてほしい。	女性	40歳代
レストランに子どもメニュー（お子様ランチ）を入れてほしいです。	女性	50歳代
ランチと思いましたが、付設のレストランにグルテンフリーのメニューがなく断念。カレーライスで良いので、ライスメニューがほしかった。	女性	60歳代
ロープのないところで思わず…。全てロープをかけてほしい。	女性	70歳以上
中が暗い。作品のためかもしれませんが、工夫してください。あべのハルカス美術館などは明るくて見やすい。	女性	70歳以上
大大名の名宝		
聖書の挿絵の続きが観たい。最後の晚餐以後の絵とか。	男性	40歳代
道路案内表示板（→美術館）が今日、南幹線になかった？見落とした。	男性	70歳以上
狩野派についてもっと知りたいので、ショップに関連本を置いていただけるとありがたいです。	女性	30歳代
託児を再開してほしい。駐車場に満車表示があると良い。	女性	30歳代
夜間開館日がもう少し増えるとありがたいのですが、なかなか大変かとは思います。	女性	50歳代
バス便をもっと増やしてほしい。	女性	50歳代

【5 運営・スタッフ】

内容	性別	年代
センス・オブ・ワンダー		
写真不可では集客できない。もっとたくさんの人に観てもらいたい。	女性	50 歳代
チラシ（左下）『ギターを弾く少年』が鑑賞の動機でしたが、チラシに紹介がない。	女性	60 歳代
糸で描く物語		
どんな展示をどんなスケジュールでやっているのかを新聞やチラシ等で知りたい。	女性	40 歳代
説明のチラシがほしい。	女性	50 歳代
大大名の名宝		
アンケート記入スペースが少ない。	男性	50 歳代
写真可を希望。	男性	50 歳代
解説を聞きたい。有料イヤホン。	女性	50 歳代
今日のようなクイズラリーをまたお願いします。	女性	50 歳代
前売り券を記念として正規の入場券と交換していただけるシステムにしてほしい。県外に住む者に不親切です。チケットをここの美術館で買うしか絵柄のあるチケットが手に入らないのでは淋しすぎる。年間予定表から「これを観に行こう」とコンビニで前売り券を買った。前売り券をここまで買いに来なければ手に入らないのであれば、交換チケットを用意してほしい。県外利用者への配慮をお願いしたい。新東名を使い、2時間かけて来た。展覧会作品は毎回満足できるので、良い美術館とは思っている。	女性	60 歳代

<C 苦情>

【1 今回の展覧会】

内容	性別	年代
糸で描く物語		
この展覧会、字が小さい。	女性	40 歳代

【2 企画全般】

内容	性別	年代
センス・オブ・ワンダー		
17 世紀以降の東西の山水・風景画を観ることができず。常設展示しないのはなぜか！	男性	60 歳代

【3 展示方法】

内容	性別	年代
センス・オブ・ワンダー		
嵐の作品に嵐の音が流れていたが、これはいらぬ。ナンセンス、ぶち壊し。他の作品の邪魔になる。	女性	60 歳代
スピーカーで嵐の音を流すのをやめるべき。	無回答	無回答

内容	性別	年代
糸で描く物語		
所々キャプションがかすれていて少し見づらかったです。	女性	20 歳代
順路がわかりづらかった。	女性	20 歳代
大大名の名宝		
説明文が小さすぎる。もっともっと大きくパネルでも良いと思う。大勢になったら何も見えない。	男性	70 歳以上
漢字や難しいことが多く（絵は好きだが詳しくない）、説明が頭に入らないです。	女性	30 歳代
展示の説明書きがやや足りない気がする。	女性	50 歳代
キャプションの文字もう少し大きいうれしいです。	女性	60 歳代
字が小さくて説明がよく見えなかった。絵も照明が暗くてよく見えなかった。	女性	70 歳以上
キャプションの内容や漢字の表現は難しかったです。	その他	50 歳代

【4 施設・環境】

内容	性別	年代
糸で描く物語		
子どもが多くうるさい。	男性	60 歳代
徒歩だと駅から入口まで遠い。	女性	40 歳代
バスの運休はバス停に示すべき。不利益を被る来館者に配慮すべきでは。路線バスを待ったが来ず、タクシーに乗った。来館して初めて運休を知った。ひどすぎる。文化服装学院が間違っていた。パネルが割れていた。	無回答	60 歳代
大大名の名宝		
ドアが重い。	女性	12 歳以下
年配の方の私語や飲食が不愉快だった。	女性	40 歳代
ただ、場所によってにおい（古い物）？がするところがあり、ちょっと気になった。	女性	50 歳代
換気の音なのかわかりませんが、音が気になります。	女性	60 歳代
植栽が少々荒れているように感じました。手入れは大変だと思いますが…。	女性	60 歳代
私語が気になりました。	女性	60 歳代

【5 運営・スタッフ】

内容	性別	年代
センス・オブ・ワンダー		
子ども連れだとスタッフさんにずっとマークされるのがつらいです。子ども連れでも気にせず美術館へ来たいです。	男性	30 歳代
展示室内の話し声がうるさすぎる。隣の部屋まで響いてくる。注意して下さい。	女性	20 歳代

内容	性別	年代
子どもの動きには注意しているつもりでしたが、最初から最後までスタッフの方がずっと監視されて、少し動きが大きくなるだけで注意されて、気持ち良く観れず残念です。作品の大切さは十分わかりますが…。	女性	30 歳代
気にしすぎかもしれませんが、観覧時、見張っているスタッフが気になりました。(HSP のため) ←目が気になってしまいました。	女性	50 歳代
糸で描く物語		
子どもの声や大人の話し声がうるさくて、つらかった。対応をきちんとしてほしい。	男性	40 歳代
スタッフが来館にプレッシャーを与えず。もう少し控え目をお願いします。	男性	50 歳代
場内のページュのエプロンをつけたスタッフの方の対応がとても不快でした。伝え方が下手で、さらに気分を害しました。	女性	30 歳代
チラシ（フライヤー）が入手しにくかったです。	女性	60 歳代
ちょっと指をさして友人に小声で話しかけただけで、「線から中に指を入れないでください」と注意を受けた。少し感じが悪かった。スタッフの対応が良くなかった。目に余る行動をした時くらいの注意でいいのでは。目に余ったのかな。スタッフのエプロン姿は美術館らしくない。	女性	60 歳代
いつも思いますが、売店員の私語が多く不快です。	その他	30 歳代
たった1人のスタッフの対応で嫌な気持ちになり、途中で観るのをやめた。	無回答	無回答
大大名の名宝		
警備員が絵を観ながら回っていた。非常に目立つ。まずいのではないか。	男性	60 歳代
妻が咳き込み、のど飴を口にしようとしたところ、ラウンジに行くように言われましたが、一言目に、「ここは飲食ができません」でした。なぜ、「大丈夫ですか？」といった一言が出てこないのでしょうか。人間味にかけ、今日が台無しでした。	男性	60 歳代

8 経年比較

(1) 評価指標について

- 「展覧会リピート率」は72.5%と、令和4年度（77.2%）よりも微減となっています。
- 「鑑賞環境満足度」は91.7%と、令和4年度（85.3%）よりも5ポイント以上増加しています。また、「レストラン満足度」「ミュージアム・ショップ満足度」も47.2%、65.1%と令和4年度（38.1%、53.3%）よりも5ポイント以上増加しています。一方、「公共交通機関アクセス満足度」については74.5%と、令和4年度（80.9%）よりも5ポイント以上減少しています。
- 「2・3世代観覧割合」は49.5%と、令和4年度（32.3%）よりも10ポイント以上増加しています。
- 「展覧会での新規来館者の割合」は26.8%と、令和4年度（22.4%）よりも微増となっています。企画展別にみると、「糸で描く物語」では32.8%となっており、令和4年度・令和5年度の企画展の中で最も高くなっています。

(2) 回答者の属性について

- 性別については、「男性」が32.8%と、令和4年度（41.8%）よりも5ポイント以上減少し、「女性」が64.8%と、令和4年度（56.8%）よりも5ポイント以上増加しています。新規来館者でも同様の傾向が見られます。
- 年齢については、全体では大きな変化は見られませんでした。新規来館者では「13歳～19歳」が16.1%と、令和4年度（9.1%）よりも5ポイント以上増加しています。また、「20歳代」が11.6%と、令和4年度（18.2%）よりも5ポイント以上減少しています。
- 居住地については、「県外」が20.0%と、令和4年度（11.6%）よりも5ポイント以上増加しています。また、「西部」では11.4%と、令和4年度（17.0%）よりも5ポイント以上減少しています。特に、新規来館者では「県外」が49.0%と約半数となっています。

(3) 回答者の行動について

- 今回の来館回数については、大きな変化は見られませんでした。
- 1年以内の来館回数（今回を除く）については、「この1年間には来館していない」が33.8%と、令和4年度（43.6%）よりも5ポイント以上減少しています。
- 来館人数については、「1人」が36.6%と、令和4年度（42.2%）よりも5ポイント以上減少しています。新規来館者では「1人」が23.9%と、令和4年度（37.9%）よりも10ポイント以上減少しています。また、「2人」が36.8%と、令和4年度（24.2%）よりも10ポイント以上増加しています。
- 当日の来館の同行者については、「配偶者」が41.3%と、令和4年度（33.5%）よりも5ポイント以上増加しています。また、「親」が29.0%と、令和4年度（35.4%）よりも5ポイント以上減少しています。新規来館者でも同様の傾向が見られ、加えて「子ども」が16.1%と、令和4年度（25.6%）よりも5ポイント以上減少しています。

- この展覧会への来館理由については、「テレビを見て」が4.3%と、令和4年度（29.3%）よりも10ポイント以上減少しています。また、「新聞を見て」が7.8%と、令和4年度（15.3%）よりも5ポイント以上減少しています。新規来館者でも同様の傾向が見られますが、「一度、静岡県立美術館に来たいと思っていた」が22.6%、「静岡県立美術館のWEBまたはSNSなどを見て」が17.4%と、令和4年度（16.7%、7.6%）よりも5ポイント以上増加しています。
- 勧誘の手段については、「直接会って」が73.9%と、令和4年度（82.0%）よりも5ポイント以上減少しています。新規来館者では「直接会って」が89.1%と、令和4年度（83.3%）よりも5ポイント以上増加しています。

（４）展覧会への評価について

- 「風景とロダン美術館」としての認知度については、全体では大きな変化は見られませんでした。新規来館者では「はい」が34.8%と、令和4年度（24.2%）よりも10ポイント以上増加しています。
- 作品やテーマへの興味・関心の深まりについては、大きな変化は見られませんでした。
- 会場における観覧時の心地よさについては、肯定的評価が91.7%と、令和4年度（85.3%）よりも5ポイント以上増加しています。
- スタッフの対応の適切さ、展覧会のことを勧めたいかについては、大きな変化は見られませんでした。
- 情報の入手のしやすさでは、全体では大きな変化は見られませんでした。新規来館者では肯定的評価が74.8%と、令和4年度（68.2%）よりも5ポイント以上増加しています。
- 来館の際の主な交通手段については、全体では大きな変化は見られませんでした。新規来館者では「JR」が14.2%と、令和4年度（22.7%）よりも5ポイント以上減少しています。
- 交通機関の利用のスムーズさについては、肯定的評価が74.5%と、令和4年度（80.9%）よりも5ポイント以上減少しています。新規来館者でも同様の傾向が見られます。
- 満足度については、大きな変化は見られませんでした。

（５）レストラン、ミュージアム・ショップについて

- レストランの利用状況については、全体では大きな変化は見られませんでした。新規来館者では「レストラン利用」が17.4%と、令和4年度（24.2%）よりも5ポイント以上減少しています。
- レストランの満足度については、肯定的評価が47.2%と、令和4年度（38.1%）よりも5ポイント以上増加しています。また、新規来館者でも同様の傾向が見られます。
- ミュージアム・ショップの利用状況については、「ミュージアム・ショップ利用」が54.9%と、令和4年度（35.7%）よりも10ポイント以上増加しています。新規来館者でも同様の傾向が見られます。
- ミュージアム・ショップの満足度については、肯定的評価が65.1%と、令和4年度（53.3%）よりも10ポイント以上増加しています。新規来館者でも同様の傾向が見られます。

静岡県立美術館5ヵ年計画《概要版》

～創造的で多様性に富んだ社会の実現～

2022～2026年度（開館40周年）

基本理念

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との連携を積極的にめざします。その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。

実施方針

1 収集 ～コレクションの持続性～

- 作品の収集方法
 - ・コレクションの継続的な調査研究に基づいた、静岡県にゆかりのある作品等の収集
 - ・収集は、購入、寄贈により行い、財源の継続的な確保、外部資金、等の検討
- 開館40周年記念作品の収集
 - ・山水、風景画を中心に広く情報を集め、県民に愛される作品を収集

2 保存 ～アーカイブの構築～

- 作品の保管、管理
 - ・館内外の環境の維持、収蔵庫の改修、拡張を検討
- 作品の修理、修復
 - ・40周年に向けて計画的な修復
- 情報の保存とアーカイブの構築
 - ・作品、書籍等のデジタルアーカイブの構築による検索利便性向上、作品情報の検証

3 展示 ～コレクションを核とした企画～

- 企画展
 - ・コレクションを核とした企画の重視、学芸員の自主企画による展覧会の充実
 - ・過去と現在を踏まえて未来に向かう40周年の記念展の開催に向けた計画的な準備
- 収蔵品展
 - ・各ジャンルの作品をバランスよく展示、コレクションの新たな楽しみ方のプログラムの実施
- 移動美術館
 - ・特別版の大規模展示、これまでにない施設での展示など、新たな開催方法の検討

4 教育普及 ～Webコンテンツの拡充～

- 館内での取り組み
 - ・利用者に合わせたトークイベント、創作活動プログラム等の実施
 - ・学校教育活動の重要な要素となるプログラムの提供、特別支援学校との連携促進
- 館外での取り組み
 - ・学芸員の知見を活かしたわかりやすいアウトリーチ活動、Web上のコンテンツの拡充

5 調査研究 ～研究成果の公表～

- 調査研究
 - ・学芸員の調査研究の一層の充実、成果の発表
 - ・収集、保管、展示、教育普及などに関する専門的な研究の実施、国内外の研究者との交流
- 書庫・図書室
 - ・図書、作品資料の収集の確保、デジタルアーカイブとの連動による図書データの公開

6 広報 ～戦略的な広報展開～

- 広報体制の充実
 - ・文化施設の広報についての専門知識やメディアに精通した者を加えるなど広報体制の検討
- 情報発信機能の強化
 - ・最新の情報をHP、SNS等での発信、デジタルアーカイブの構築・公開等
- 教育機関との連携
 - ・県内小中高等学校への効果的な情報提供、県内大学と連携した情報提供、情報発信
- 観光業界、アーツカウンシルしずおか等との連携
 - ・観光デジタルプラットフォームとの連携、多様な文化芸術活動団体との連携

7 環境・施設整備 ～安心安全な鑑賞環境の維持～

- 施設の適切な管理と快適な環境の整備
 - ・施設の維持保全、改修の速やかな対応
- 来館者の満足度向上
 - ・来館者や第三者評価委員会からの意見、アンケート分析により速やかに対応
 - ・館内の通信環境の向上、キャッシュレス決済のデジタル化の促進
- 駐車場、収蔵庫の整備

8 運営 ～運営基盤の強化～

- 運営基盤の拡充
 - ・継続的な通常予算、国等からの補助金、民間協賛金等外部資金等の確保
- 業務の効率化
 - 企業との連携強化による運営の充実
 - ・企業の研修、顧客セミナーへの学芸員の派遣による美術館への理解

静岡県立美術館5ヵ年計画

～創造的で多様性に富んだ社会の実現～

2022年3月

静岡県立美術館

目 次

I	計画の位置付け	
1	策定の趣旨	1
2	計画期間	1
II	計画策定にあたって	
1	開館から35年	1
2	これからの県立美術館	2
III	基本理念（県立美術館の目指す姿）	3
IV	重点方針	3
V	基本方針（基本理念を具体化する方針）	
1	収集	4
2	保存	5
3	展示	6
4	教育普及	7
5	調査研究	8
6	広報	9
7	環境・施設整備	10
8	運営	11
VI	年度別計画	別紙

I 計画の位置付け

1 策定の趣旨

静岡県立美術館は、1986年（昭和61年）の開館から2021年（令和3年）で35周年を迎えました。この間、美術品の収集と展示を通じて、広く県民に美術作品の鑑賞と創作活動の場を提供してきました。

本計画は、これまでの実績と課題を踏まえ、2026年（令和8年）の開館40周年に向けての運営指針として策定します。

2 計画期間

2022年度（令和4年度）から2026年度（令和8年度）までの5年間を計画期間とします。

II 計画策定にあたって

1 開館から35年

静岡県立美術館は、県議会百年記念事業の一環として建設計画が進められ、1986年（昭和61年）4月に開館しました。静岡県の風土性に鑑み作品収集の基本方針を山水・風景画と定め、現代の美術状況や県ゆかりの作家・作品などにも目配りのうえ、特徴あるコレクション形成に努めてきました。展示活動においては、開館記念展「東西の風景画」を皮切りに、幅広い時代の美術を対象とした多様な展覧会を開催し、これまでに620万人を超える観覧者を迎えています（2020年度末）。また、1994年（平成6年）に新設したロダン館は、ロダンを中心とした近代の西洋彫刻の常設展示スペースとして、風景表現と並び静岡県立美術館を特徴づける重要な柱となっています。

創作と鑑賞をつなぐ多彩な教育普及プログラムも、静岡県立美術館の特色のひとつです。とりわけ近年整備を進めてきた学校向け事業においては、コレクションを元にした様々なプログラムを通して学習を支援し、連携を強化してきました。

今年度、静岡県立美術館は開館35周年を迎えました。収集、保管、公開、教育普及、そしてそれらすべての根幹となる調査研究、これら基盤活動を充実させ、美術館本来の役割を着実に果たすことで静岡県の文化振興に寄与してきましたが、35年を経て、美術館を取り巻く情勢は大きく変化してきており、その対応が急務となっております。

2 これからの県立美術館

現代社会においては、美術の表現ばかりでなく、その発表のスタイルもメディアも多様化しています。美術館は教育から学習の場が変わり、利用者が多様な美術に出会い、考え、理解し合う場となることが求められています。また、急速なデジタル技術の進展は、美術と人間、美術と社会との関係を変え、展覧会を中心としたこれまでの美術館活動に変容を迫っています。

また、2019年末から世界を脅かしている新型コロナウイルスにより、私たちの生活は一変し、美術館においては、感染拡大を受け企画展の来館者の減少、体験を伴う講座の中止など、大きな影響を受けてきました。今後、体験を重視したこれまでの美術館の運営にも大きな見直しが迫られている中、当館においては本年度デジタルアーカイブを進め、作品をどこからでも閲覧できるシステムを構築しております。

アフターコロナに向けては、デジタル社会に主体的に関わっていくと同時に、本物と出会い五感で感じるリアルな体験の場として機能してきたことの意義を再確認し、デジタルとリアルの融合を図っていく必要があります。

さらに、SDGsに対応した持続可能な社会の実現に向けて、多様性についての理解につながる展示活動や開かれた質の高い教育機会の提供など、美術館活動を通じた貢献が期待されております。長らく静岡県立美術館が収集方針としてきた山水・風景画について、今日的な視点に基づいてその意義を捉え直し、発信していく必要もあります。

以上のことを踏まえ、時代に左右されない美術館の本質的な意義と、この時代の美術館として果たすべき役割を常に考えながら、持続的に活力ある美術館活動を展開するために本計画を策定しました。

また、新たな基本理念を定め、美術館の目指すところを、より実践的な形で表現することとしました。

人間の営為の記録として受け継がれる、あるいは同じ時代を生きる人によって生み出される美術表現に触れることは、現在から過去を振り返り、同時に過去から現在を照らし出し、未来を見通す手がかりとなります。美術館は、そのような体験を提供することで、人々がそれぞれに創造的に生きるための勇気を得られる場でありたいと考えます。5ヵ年計画の実践を通して、その実現を目指してまいります。

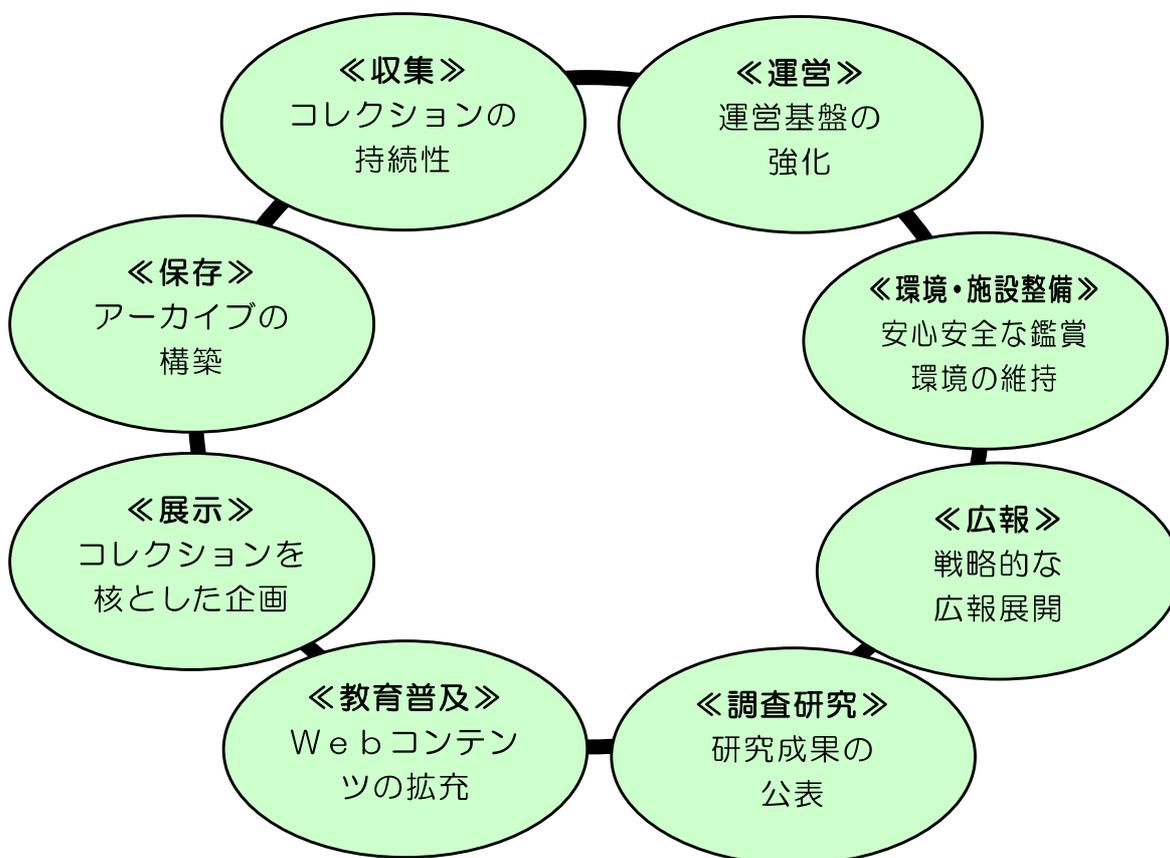
Ⅲ 基本理念（県立美術館の目指す姿）

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。

そのために、人々が多種多様な美術表現を体験し、新たな価値と出会い、考え、理解し合う場を提供するとともに、学校や地域社会との連携を積極的にめざします。

その活動の基盤にコレクションを位置づけ、成長させ、未来へと伝えます。

Ⅳ 重点方針



V 実施方針（基本理念を具体化する方針）

1 収集

コレクションは美術館活動の基盤であり、作品を持続的に収集することでコレクションを成長させ、未来へ伝えていくことは、現代を生きる美術館の責務であると考えます。収集方針に則り、今後も優れた作品の収集を適正に行い、美術館の核となるコレクションの充実に努めます。

（1）作品の収集方法

コレクションの継続的な調査研究に基づいて、静岡県にゆかりのある作品や、既存のコレクションと関連の深い作品に関する情報を集めます。そのなかから、美術館の活動の幅を広げる作品、新たな価値が見出された作品を収集の対象としていきます。

作品の収集は、購入、寄贈により行い、購入にあたっては財源に留意し、継続的な通常予算の確保に努めるとともに、寄付金等の外部資金や来館者収入に応じた購入経費の確保などについても検討します。

（2）開館 40 周年記念作品の収集

開館 40 周年事業として、記念となる作品の収集を目指します。収集方針を踏まえ、山水・風景画を中心として広く情報を収集し、長く静岡県立美術館の顔として県民の皆様にも愛される作品の収集へと結びつけます。

2 保存

県民の貴重な財産である美術作品・資料を後世に継承するために、作品を適宜修復し、館内外の保存環境を適切に維持し、デジタルアーカイブ化を推進します。

(1) 作品の保管、管理

県民の財産である作品を良好な状態で保存するために、展示室を始めとする館内外の環境を適切に維持します。

収蔵品を適切に管理するため、収蔵庫の改修、拡張を検討します。

(2) 作品の修理、修復

通常の作品修復に加え、修復にあたって複数年を要する収蔵品をリストアップし、40周年に向けて計画的に修復していきます。

(3) 情報の保存とアーカイブの構築

美術館で所蔵する作品・作家資料、書籍等の情報を継続的に収集し、デジタル化して整理します。作品等のデジタルアーカイブの構築により、美術情報の検索利便性を高めるとともに、作品にまつわる情報を不断に検証し、後世へと伝えます。

3 展示

美術館における作品収集や調査研究の成果は、展覧会活動を通して広く開かれ、共有されることで、現代を生きる人々の糧となって社会に息づいていきます。

これまでの展覧会の組み立てや運営方法を踏まえつつ、企画展の開催規模や時期についてより柔軟に対応するなど開催手法を再検討し、魅力的な展示事業につなげていきます。

(1) 企画展

コレクションを核とした企画を重視しつつ、学芸員の自主企画による展覧会の充実を図ります。

40周年記念展の開催に向けて、計画的に準備を進めます。これまでの調査研究や収集・展示活動の成果を御覧いただき、今後の発展につなげる展示、多様性に重きを置いた新しい切り口による展示など、過去と現在を踏まえて未来に向かう、周年にふさわしい展覧会を目指します。

(2) 収蔵品展

各ジャンルの作品をバランスよく御覧いただくとともに、シンポジウムの開催や関連普及イベントの開発など、コレクションの新たな価値や楽しみ方を発見していただくためのプログラムを実施します。

また、2024年（令和6年）に30周年を迎えるロダン館についても、記念事業や県民の財産としての認知を更に深めていただけるような展示を検討していきます。

(3) 移動美術展

今後も県内の美術館や公共施設での開催を継続するとともに、特別版の大規模展示、これまでにないタイプの施設での展示など、新しい開催方法を検討します。

4 教育普及

I o TやA Iなどをはじめとする技術革新が進展し、社会や生活が大きく変化し予測困難な時代の中、これまで以上に美術の鑑賞や制作体験を通して感性を働かせる体験は、豊かで柔軟な心を育み、健やかな生活の実現につながります。県立美術館では、美術をより深く理解し、感じていただくため、講演会や美術講座等に加え、創作活動プログラムなどにより、美術の教育普及に積極的に取り組んでいきます。

(1) 館内での取り組み

美術に関する関心や習熟度には幅があることから、利用者に合わせたトークイベントや創作活動プログラム等を実施します。また、来館する学校に対しては、教育活動の重要な要素となるようなプログラムを提供するほか、特別支援学校との連携もさらに進めていきます。

区分	取組内容
一般向け	<ul style="list-style-type: none">• 企画展ごとの有識者講演、館長講演• 学芸員による美術講座、アーティストトーク、ボランティアによるギャラリートour• ロダン館デッサン会• 実技講座、ちょこっと体験• ねんど開放日、えのぐ開放日
学校向け	<ul style="list-style-type: none">• ねんど教室、えのぐ教室、ロダン館ななふしぎ、ロダン館デッサン、美術館裏方ツアー、ボランティアスタッフとの鑑賞• 学芸員資格取得のための博物館実習の受け入れ

(2) 館外での取り組み

学芸員の知見を活かしたわかりやすいアウトリーチ活動を行うとともに、Web上のコンテンツを拡充し、さらに幅広く県民へサービスを提供します。

区分	取組内容
一般向け	<ul style="list-style-type: none">• 移動美術展での関連イベント実施• 出張講座• Webコンテンツの開発
学校向け	<ul style="list-style-type: none">• 粘土、アートカード、作品レプリカなどオリジナル教材キットの貸出• 出張美術講座• 図工・美術をはじめとした授業への協力• 教員研修協力

5 調査研究

調査研究は、県立美術館の活動を特徴付ける基盤と考え、展示や収集、教育普及とも関連することから、引き続き重点的に取組み、その成果については広く公表することで質の向上を図ります。

(1) 調査研究

学芸員の調査研究をより一層充実させ、展覧会、図録、教育普及事業などを通して、その成果を広く発表します。調査研究の基礎を支えるため、毎年の研究紀要の刊行、月1回の研究会の実施を継続し、内容を深めていきます。

また、収蔵作品の内容に関する学術的な調査研究のみならず、収集、保管、展示、教育普及などに関する専門的な研究を実施します。国内外の研究者とも交流するなど、幅広く情報を収集し、研究につなげ、これらの成果を県民に広く提供します。

(2) 書庫・図書室

調査研究の基礎となる図書や作品資料の収集を質、量とともに確保し、デジタルアーカイブと連動し、図書データを公開します。

また、図書室運営については、定期的に司書が図書の管理を行うことを検討するほか、美術館ボランティア等の協力により常時閲覧できる体制を整え、県民の利便性向上を図っていきます。

6 広報

県立美術館に親しみを感じ、新たな価値を見出す快適な場であることを広く県民に周知するため、マスメディアの活用、Webサイトの充実、SNSを活用した情報発信などを進めるとともに、教育機関、観光業界、アーツカウンシルしずおかなど地域との連携を行い、積極的な広報を展開します。

(1) 広報体制の充実

美術館情報を効果的に広報していくため、文化施設の広報について専門的な知識を有しメディア等に精通した者を加え、職員で組織する広報委員会と連携して広報体制を検討し、戦略的な広報を展開します。

(2) 情報発信機能の強化

企画展や収蔵品情報など、常に最新の情報をホームページやSNS等で発信するほか、マスメディアにも積極的に情報発信します。

また、県立美術館デジタルアーカイブを構築し、ホームページで公開し、いつでもどこにいても美術館の作品を楽しめる取り組みを進め、本物を見たいという来館動機につなげていきます。

(3) 教育機関との連携

未来を担う創造性豊かな人材を育成するため、県内すべての小中高等学校に学校教育の中で美術館を活用していただくよう定期的に効果的な情報提供を行います。

また、県内大学においては、学生への情報提供や学生からの情報発信ができるしくみを構築するほか、授業等で学芸員の講義を行うなど連携強化を検討します。

(4) 観光業界、アーツカウンシルしずおか等との連携

地域における文化財の保存・活用を趣旨とした2018年の文化財保護法の一部改正を踏まえ、観光業界と地域等との連携を促進するため、観光デジタルプラットフォームと連携した情報提供やマスメディア等へ撮影誘致を行います。また、アーツカウンシルしずおかが支援する県下の多様な文化芸術活動、美術館周辺地域の団体等と連携を図っていきます。

7 環境・施設整備

開館から35年が経過し、施設の老朽化が進行しています。引き続き施設の適切な維持管理に努め、中期維持保全計画に基づき、施設の改修を行います。

また、美術館園地についても、安心安全な鑑賞環境の維持に努めます。

(1) 施設の適切な管理と快適な環境の整備

館内施設については、日常及び定期点検を実施し、施設の維持保全に努めるとともに、来館者の安全を守るための改修については速やかに対応します。

ロダン館も開館から25年以上が経過しているため、照明の改善など必要な改修を行い、その魅力をより一層高めます。

美術館園地内には、多くの樹木があり、木々に囲まれた県立美術館の景観の一部となっていますが、35年の間に大きく成長したため、枝打ちなどによる適正な管理を行います。

(2) 来館者の満足度向上のための取り組み

来館者や第三者評価委員会等の外部有識者からの御意見、毎年度実施しているアンケート調査の分析により、美術館に対する要望を的確に把握し、可能なところから速やかに対応するよう努めます。

また、館内の通信環境の改善、キャッシュレス決済の導入など、デジタル化に関しては、様々な来館者に配慮しながら取り組んでいきます。

(3) 駐車場、収蔵庫の整備

観覧者の多い企画展開催時の駐車場不足、現代美術の大型化などに伴う収蔵スペースの不足など、活動の拡大に施設が対応できなくなっています。

隣接する県立中央図書館が令和8年度末(予定)に移転することから、跡地の利用について、積極的に関与していきます。

8 運営

当館の使命をより円滑かつ効率的に達成するため、運営基盤の強化を目指します。

(1) 運営基盤の拡充（収入の確保）

作品収集、作品展示、環境維持、イベント開催等当館経営の基盤となる財源として、継続的な通常予算の確保に努めるとともに、国や財団法人からの補助金や民間企業からの協賛金など外部資金の確保や法人会員メンバーシップによる支援等について検討します。

(2) 業務の効率化

業務内容の見直しや事業の費用対効果を検証するなど、業務の効率化や経費の節減に努めます。

(3) 企業との連携強化による運営の充実

美術館は、学芸員の知見を活かし、企業内研修や企業が主催する顧客向けのセミナーの講師として派遣し、企業は美術館の展覧会のチケット購入や寄附を行うことで、企業においては、社員教育や福利厚生の実施、顧客へのサービス向上等、美術館においては、美術館の理解を深め来館者の増加につなげるなど、今まで以上に企業との連携強化を図ります。

VI 年度別計画

別紙のとおり。

なお、年度別計画については、美術館を取り巻く状況の変化に合わせ、適時適切に見直しを行います。

年度別計画

項 目		R4(2022)				R5(2023)				R6(2024)				R7(2025)				R8(2026)			
		1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四
1 収集	(1) 作品の収集方法					調査研究に基づく継続的な収集															
	(2) 開館40周年記念作品の収集					調査、選定 → 基金を活用し、設定金額の範囲内で収集															
2 保存	(1) 作品の保管、管理					展示室を始めとする館内外の環境の維持、改修															
	(2) 作品の修理、修復					通常の作品修復															
						修復に複数年を要する作品の計画的な修復															
(3) 情報の保存とアーカイブの構築	R3(2021) アーカイブ分公開																				
						所蔵作品、書籍等の美術関係資料のデジタル化・データの更新															
3 展示	(1) 企画展	→ 兵馬俑と古代中国 ～秦漢文明の遺産～																			
		→ 絶景を描く —江戸時代の風景表現—				コレクションを核とした展覧会、学芸員の自主企画による展覧会を実施								40周年記念 企画展 収蔵品展							
		→ 鴻池朋子展(仮)				40周年記念企画展の準備															
→ 近代の誘惑 —日本画の実践																					
(2) 収蔵品展					各ジャンルの作品をバランスよく展示 コレクションの新たな価値や楽しみ方の発見に結びつくプログラムの実施																
(3) 移動美術展					県内美術館、公共施設で開催（年間1～2回）																

年度別計画

項 目		R4(2022)				R5(2023)				R6(2024)				R7(2025)				R8(2026)							
		1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四				
4 教育普及	(1) 館内での取り組み					【一般向け】 講演会、美術講座、ボランティアによるギャラリーツアー ロダン館デッサン会、実技講座、ねんど・えのぐ開放日 などの実施 【学校向け】 ねんど・えのぐ教室、ロダン館デッサン、ボランティアスタッフとの鑑賞 学芸員資格取得のための博物館実習の受け入れ などの実施																			
	(2) 館外での取り組み					【一般向け】 移動美術展での関連イベントの実施、出張講座 などの実施 Webコンテンツの開発 【学校向け】 オリジナル教材キットの貸出、出張美術講座、図工・美術などの授業への協力 教員研修協力																			
5 調査研究	(1) 調査研究					展覧会、教育普及事業等を通じた学芸員の調査研究結果の発表																			
	(2) 書庫・図書室					図書、作品資料の収集 図書データのデジタル化及び公開																			
6 広報	(1) 広報体制の充実	外部専門家を活用した広報の検討				外部専門家を活用した戦略的な広報の展開																			
	(2) 情報発信機能の強化					SNS等で常に最新情報を発信、デジタルアーカイブを活用した情報発信																			
	(3) 教育機関との連携					県内すべての小中高への美術館情報の定期的な提供 県内大学との連携、学生への情報提供、学生による情報発信を検討																			
	(4) 観光業界、アーツカウンシルしずおか等との連携					観光デジタルプラットフォームを活用した情報の提供 県下の多様な文化芸術活動、美術館周辺地域の団体等との連携																			

年度別計画

項目	R4(2022)				R5(2023)				R6(2024)				R7(2025)				R8(2026)				
	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	1/四	2/四	3/四	4/四	
7 環境・施設整備	(1) 施設の適切な管理と快適な環境の整備																				
	(2) 来館者の満足度向上のための取り組み		館内の通信状況の改善																		
キャッシュレス決済の導入																					
(3) 駐車場、収蔵庫の整備																					
8 運営	(1) 運営基盤の拡充																				
	(2) 業務の効率化																				
	(3) 企業との連携強化による運営の充実		実施内容の検討																		



東アジア文化都市
2023 静岡県
Culture City of East Asia
2023 SHIZUOKA

事業報告書

成果報告

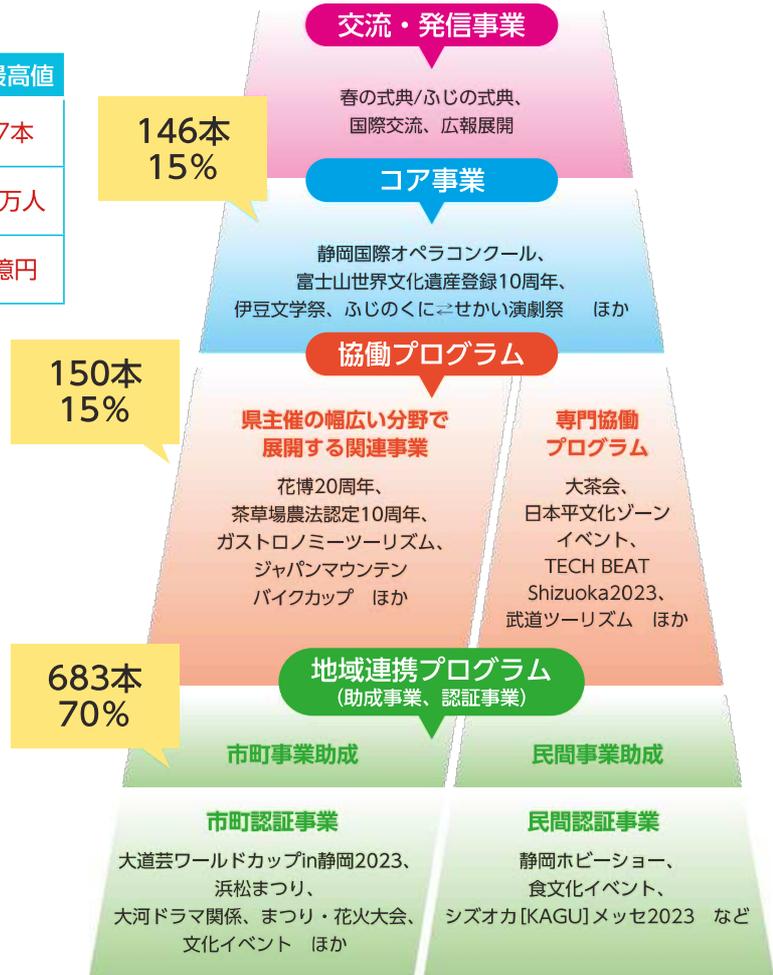
<文化都市のプラットフォームは、どのように築いたのか>

下記が「東アジア文化都市2023静岡県」のプラットフォームです。目標に対する実績ですが、認証事業数979本、来場者数1,345万人、経済波及効果389億円と、目標を大きく上回り、過去開催都市の実績もはるかに上回る成果となりました。プラットフォーム別では、市町、民間による地域連携プログラムが、7割の683本を占めました。県主催事業は、ほぼ計画通りの実績となりましたが、認証制度により、市町事業や民間事業をプラットフォームに取り込んだことが、高い実績を生み出しました。

目標数値	実績	過去最高値
①認証事業数500本以上	979本	397本
②来場者数360万人以上	1,345万人	357万人
②経済効果100億円以上	389億円	91億円

<推進体制におけるポイントはどこか>

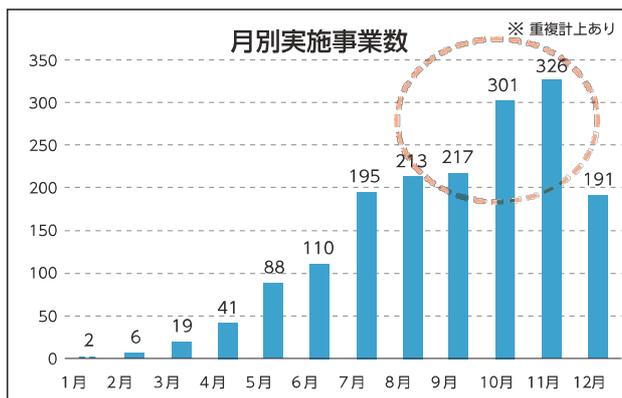
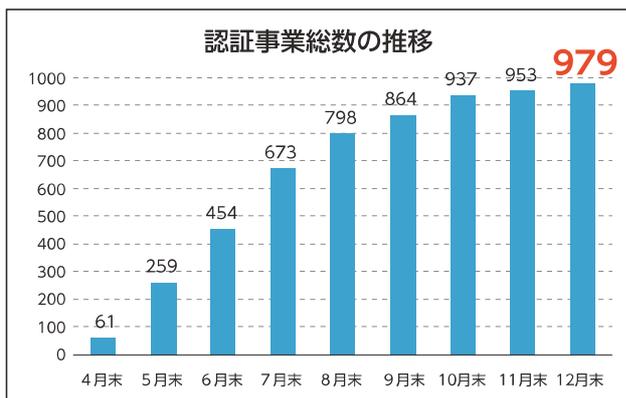
推進体制は、会長の下に最高顧問を置き、本気度、信頼性を高めました。事業成果があがったことは、庁内推進組織を立ち上げ、県庁挙げての意思統一ができたことや、各地域局が市町との連携を進めたことが大きな要因です。また、4階層のプラットフォームで主催者責任を明確化し、実行責任を分散化したマネジメント体制を推進できたことで、専任5人の小さな事務局でも高い実績を上げることができました。



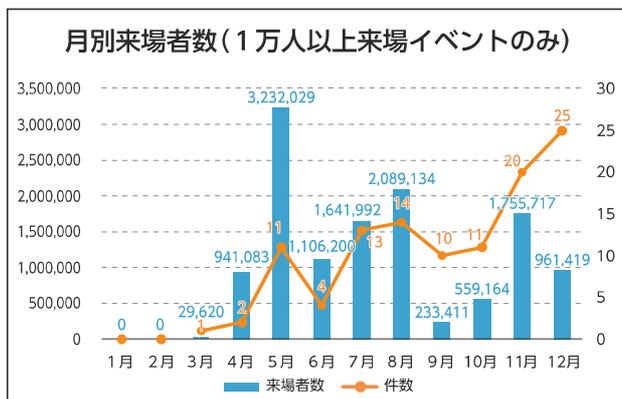
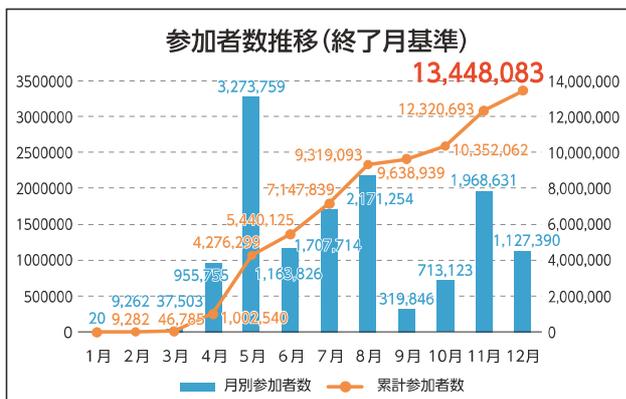
区分	主な役割
会長 静岡県知事	代表権者
最高顧問 (近藤誠一氏、遠山敦子氏、橋本聖子氏)	外交、文化、スポーツの象徴顧問
実行委員会 委員長 静岡県副知事 総合芸術プロデューサー 宮城聡氏 各分野を代表する委員	基本方針と執行体制 事業計画と予算の審議
企画専門委員 (各分野毎に任命)	新たな協働プログラム企画・実施
庁内東アジア文化都市推進会議 (部局長・地域局長)	庁内意思統一、各部対応の徹底 地域局は市町助成、市町連携による広報の推進
事務局 チーフ・オペレーティング・ディレクター 加藤種男氏 事務局長 静岡県理事 (東アジア文化都市担当) 文化政策課 東アジア文化都市推進班 (専任5名)	新規事業の助言等 公式式典、国際交流事業、広報の実践、認証制度運用、予算管理等

<文化が豊かな都市であることを証明できたのか>

年度会計であるため、3月までの期間は準備が中心となり、事業が実施できませんでしたが、夏以降は認証事業が一気に増え、勢いが付いた結果、979件となりました。9月から11月のコア期間には、事業の半分が集中し、秋をコア期間として設定したことは成功といえます。「文化の秋」は、多くのイベントが集中していることが証明されました。

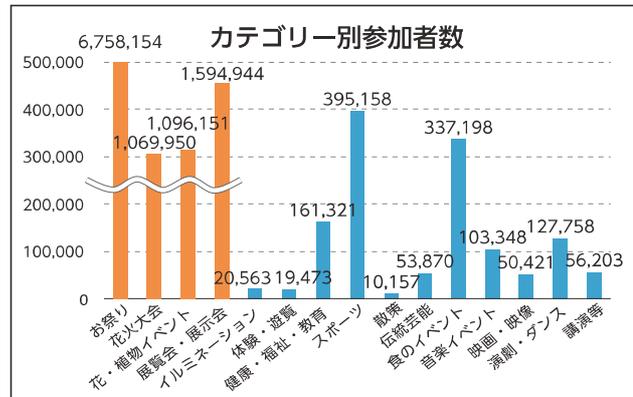
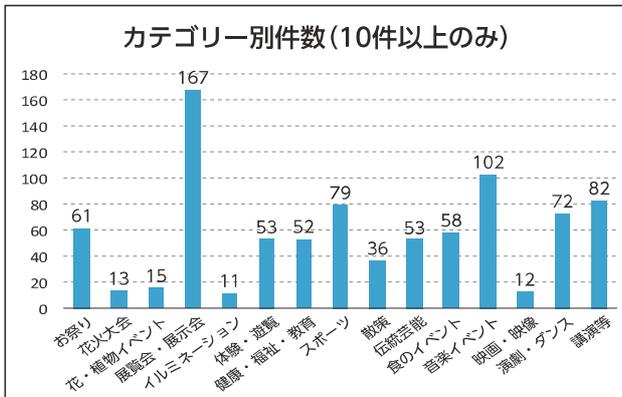


参加者数の伸びは、春の静岡、浜松の2大まつりの復活で一気に加速し、夏の花火大会や、夏祭りで2段目の加速となり、5月のコロナ規制の緩和は大きな追い風となりました。9月から11月のコア期間には事業の半分が集中しましたが、中小規模の文化事業が多く、文化の秋は地域密着の多彩な文化活動で成り立っていたことが分かります。毎週どこに行くのか迷うほど、文化イベントが豊富な静岡県、文化の豊かさは誇れるものと証明できました。



<文化をどのように捉えたのか>

「東アジア文化都市2023静岡県」では、文化の捉え方を文化芸術に限らず、スポーツ、食、産業に至るまで、生活文化全般に広く捉えたことが大きな特徴でした。文化の分野別の件数と参加者数です。芸術系の展覧会、音楽会が主流ですが、スポーツ、食など他分野にも満遍なく分布し、本県の文化の多彩なポテンシャルが証明できました。お祭り、花火大会の集客は群を抜いていますが、イベント数としては、多くの県民が多彩な文化を楽しんだ1年となりました。認証事業には、プロスポーツや著名アーティストによる舞台やコンサートは、殆ど含まれていません。つまり、静岡県には、無料または安価で楽しめる文化が、1年を通して豊かであることが証明されたといえます。



<人々の心に平和の砦は築けたのか>

国際交流について、韓国全州市とは、伝統文化、食文化、工芸、大道芸、青少年交流など、多彩な分野で相互に行き来しての交流が実現しました。また、11月には全州市長が来静し、知事と静岡市長を表敬。静岡市と交流確認書を交わし、大きな外交成果となり、今後の友好の深まりが期待されます。中国とは、梅州市とサッカーによる交流が進みました。中国、韓国と文化を分かち合えた人々には、お互いの尊敬が生まれ、争いや非難を意味なきものと思う気持ち、「平和の砦」が築けた気がしています。(実績は交流事業の項目を参照)

<文化の主体は誰なのか>

まとめになりますが、成果のポイントを挙げます。4階層のプラットフォームにより、市町や民間の参画を高めたことが実績の拡大につながり、祝祭化を実現できました。また、文化を文化芸術に留まらず、スポーツ、食文化など、広く捉えたことが、成果を拡大しました。助成制度を新設したことも、市町、民間のモチベーションの向上と参画の推進に有効でした。春のビッグイベントが参画し、復活したことが気運を上げました。そして、文化の秋であるコア期間で、予想以上の大きな盛り上がりを作ることができました。一方、国際交流では、韓国全州市と積極的な交流がなされ、高い交流成果がありました。市町や民間団体の方々積極的に参画し、それぞれの意欲や誇りを持って静岡県を発信してくれたことで、まさに、県民総がかりで文化都市の盛り上げを図ることができました。まさに、文化の主体は県民全てであり、一人一人が表現者であることを体感できた一年となりました。今後は、しっかりと東アジア文化都市による成果が、様々な場面で実を結んでいくことを期待します。

作 戦	成 果
4階層のプラットフォーム効果	▶▶▶▶ 県計画の限界を民間参画により祝祭化
文化を広く捉えた	▶▶▶▶ 本県の魅力を最大限に発揮し、成果を拡大
助成制度創設の効果	▶▶▶▶ 市町・民間参画のモチベーションを向上
春のビッグイベントが参画	▶▶▶▶ 復活が気運を向上、人々に勇気を与えた
文化の秋にコア期間を設定	▶▶▶▶ 気運上昇の流れでピークを作れた
全州市と積極的に交流	▶▶▶▶ 国際理解、交流が活性化、大きな成果
民間団体へ積極的に協力要請	▶▶▶▶ 誇りにより静岡を発信